

NAGA SUNA DAI 3 · 4

長砂第3・4遺跡

1998. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

序

当事業団ではこの度都市計画道路車尾目久美町線改良工事に伴い、平成7年度から平成9年度にかけて長砂第3・4遺跡の発掘調査を行ってまいりました。調査の結果、長砂第3遺跡では米子市内では数少ない古墳時代前期から中期にかけての集落後を確認し、長砂第4遺跡では溝状遺構が確認され、また分析の結果では稲作が行われていた可能性も確認されました。その他土器等多量の遺物も出土し、古墳時代の生活の一端を知るうえで貴重な資料を提供するものと考えられます。

本発掘調査の成果が、今後の調査研究および教育のために広く活用され、一般の方々に埋蔵文化財に対する理解、関心を高めていただくうえでの一助となれば幸いに存じます。最後になりましたが、調査に際し多大なご理解とご協力をいただきました地元の方々をはじめ、ご指導、ご支援を賜りました方々、関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成10年3月

財団法人 米子市教育文化事業団

理事長 森田 隆朝

例　　言

1. 本書は財団法人米子市教育文化事業団が平成7年度に実施した鳥取県米子市長砂第4遺跡、平成8・9年度において実施した鳥取県米子市長砂第3遺跡にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 出土遺物は米子市教育委員会で保管している。
3. 本書の編集及び執筆、図面の作成等は米子市教育文化事業団がこれを行った。なお、「第2章 4節遺物について 縄文時代晚期後葉から弥生時代前期前半の上器」については濱田竜彦氏（鳥取県埋蔵文化財センター文化財主事）に執筆を依頼した。
4. 本発掘調査の実施にあたって、須恵器の胎土分析を奈良教育大学教授 三辻利一氏にお願いし、本報告書に玉稿をいただいた。明記して深甚の謝意を表します。
5. 調査の組織は下記のとおりである。

平成7年度調査（長砂第4遺跡）

調査委託 米子市公園街路課

調査主体 財団法人米子市教育文化事業団

調査担当 平木裕子（財団法人米子市教育文化事業団調査員）

調査補助員 植佐知子・福嶋昌子（財団法人米子市教育文化事業団臨時職員）

調査指導・協力 米子市教育委員会

平成8・9年度調査（長砂第3遺跡）

調査委託 米子市公園街路課

調査主体 財団法人米子市教育文化事業団

調査担当 平木裕子・佐伯純也（財団法人米子市教育文化事業団調査員）

調査補助員 福嶋昌子（財団法人米子市教育文化事業団臨時職員）

調査指導・協力 米子市教育委員会

作業関係者

樋山さとみ	生田 充	石橋 幹大	岩指 澄	梅林 明子	遠崎 礼子
大江 順	大下 醇子	岡田 弥子	加藤カホル	加藤 正子	河村富士江
木村 達子	金山勢津子	小林美恵子	佐藤 省三	佐藤 徳子	陶山 富子
高木 正之	高塚 敬子	竹中 光世	田中 恵子	寺西 保	徳中 繁野
徳中 静枝	虎尾 一明	長尾 千晶	西 淳夫	西山 和郎	野口 稔
野津 正連	乗本 重子	乗本 年子	乗本八重子	原 満留	平野 昭子
二岡 貞夫	福田 淳	古川 節子	前田 光江	森安 球	矢野 早苗
渡部 安子					
相原 純子	安部美登里	石谷 澄江	伊田 美紀	大江由美子	組藤美智子
近藤由美子	島本奈奈子	高橋真由美	千代西尾桂子	仲田いづみ	仲田 政子
中森 貢子	濱田 博美	堀 芳子	松山 節子	宮田 紀子	村上 ミネ
木吉 洋子	森井あづさ	安江満つ美	矢野 有里		

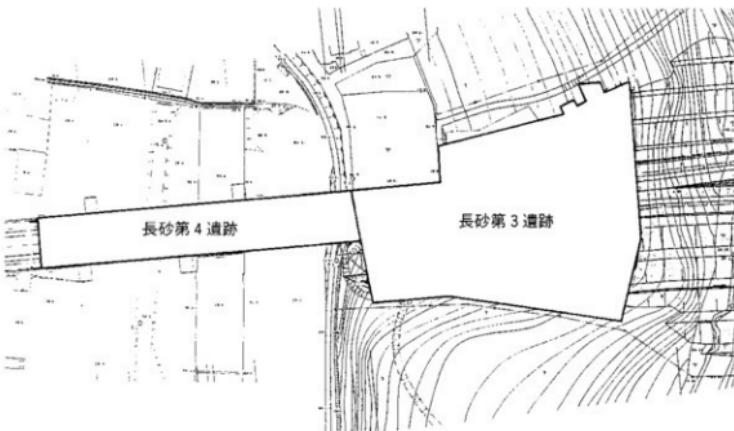
目 次

序

例言

目次

I はじめに	1	III 長砂第3遺跡について	21
II 長砂第4遺跡について	2	1 調査の概要	21
1 調査の概要	2	2 遺構について	21
2 調査地の堆積状況	2	3 遺物について	32
3 遺構について	2	縄文・弥生土器	32
溝状遺構	2	土師器	34
土壤	5	須恵器	35
4 遺物について	6	石製品	36
縄文晩期～弥生前期土器	6	IV 小結	36
弥生中期土器	8	V 長砂第3遺跡出土須恵器の蛍光X線分析	108
土師器	8	奈良大学 三辻利一教授	
須恵器	8		
木器	8		
石器	8		



第1図 長砂第3・4遺跡調査範囲図

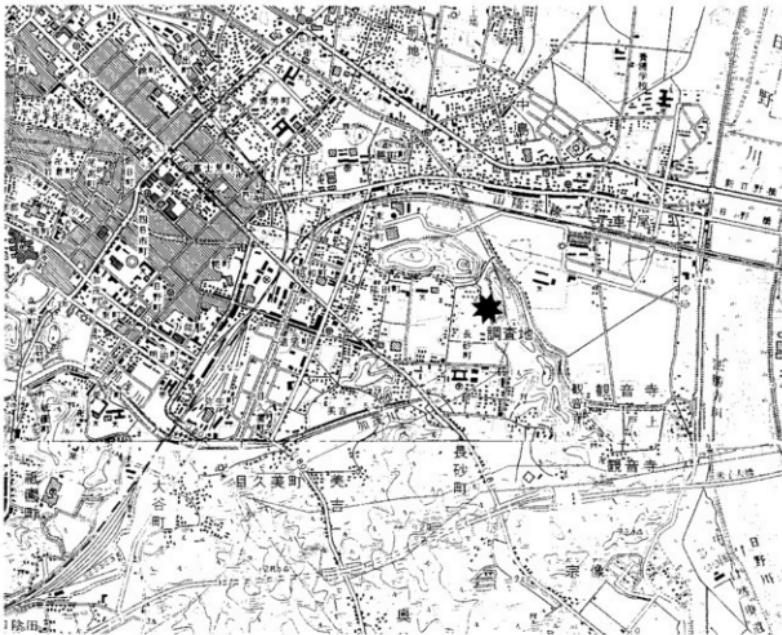
I はじめに

長砂第3・4遺跡は米子市長砂町20番地に位置する。この調査は都市計画道路車尾・目久美町線道路改良工事に伴う事前調査で、工事の関係で現地調査は長砂第4遺跡より行った。現地調査の期間は長砂第4遺跡が平成7年11月2日～平成8年3月31日、長砂第3遺跡は平成9年3月5日～平成9年10月10日までの2箇年度にわたって行った。調査面積は長砂第4遺跡は約1,600m²、長砂第3遺跡4,600m²であった。

調査地は米子駅の東約1.5kmに位置する標高約50mの山の斜面に位置する長砂第3遺跡およびその裾部に位置する長砂第4遺跡である。

調査の結果、長砂第4遺跡では当初水田の存在を考えていたが、調査では莊畔等水田を思わせるような遺構は確認し得なかった。遺構としては水路跡・杭列・土壤を検出し、遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石製品・木製品等、取上げ点数としては約1,560点を数えたが、遺構に伴なうものはわずかでほとんどは山からの流れ込みのものと思われる。

長砂第3遺跡での調査結果は、遺構としては中世集石群・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・陥穴を検出し、遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石錐・石斧・石皿・石匙・小玉・菅玉・勾玉等が取上げ点数としては3,860点を数えた。



第2図 長砂第3・4遺跡調査位置図 (1/25,000)

II 長砂第4遺跡の調査

1. 調査の概要

現地表は標高約5.2mで、後述する長砂第3遺跡のある丘陵の西側裾部に広がる水田地及び荒地である。現地調査は平成7年11月2日から重機による表土掘削、8日より人力による作業にはいり、平成8年3月31日まで行った。調査地は道路予定地のため幅16m×長さ100mで面積約1,600m²という細長い調査範囲となった。調査は排土搬出の都合で4区画に分け、各区画を層位的に丁寧に掘り下げていく方法を取った。最終的には地表面から約2.5mの深さまで調査を行ったが、土砂崩落を避けるため段掘りを行ったのと、水の流入回避と排水のため、壁面に沿って溝を掘りながらの作業のため、層位が下がるにつれ調査面積が狭くなっていた。また季節的にも天候には恵まれず、思うように作業及び調査を行うことができなかった。

調査の結果、水路跡・杭列・土塁を検出した。杭列はほとんど水路SD-03・07・08の周辺に位置するもので、放射性炭素年代測定の結果、古いものは紀元前900年であったが、紀元前400年前後から紀元後25年と溝の中および、周辺の遺物からみて、この水路に伴うものと考えられる。当初水田の存在が考えられていたが、調査では畦畔等水田を思わせるような遺構は確認し得なかたため土壤分析を行った。その結果、各層において樹木等水田の苔みの可能性がうかがえた。

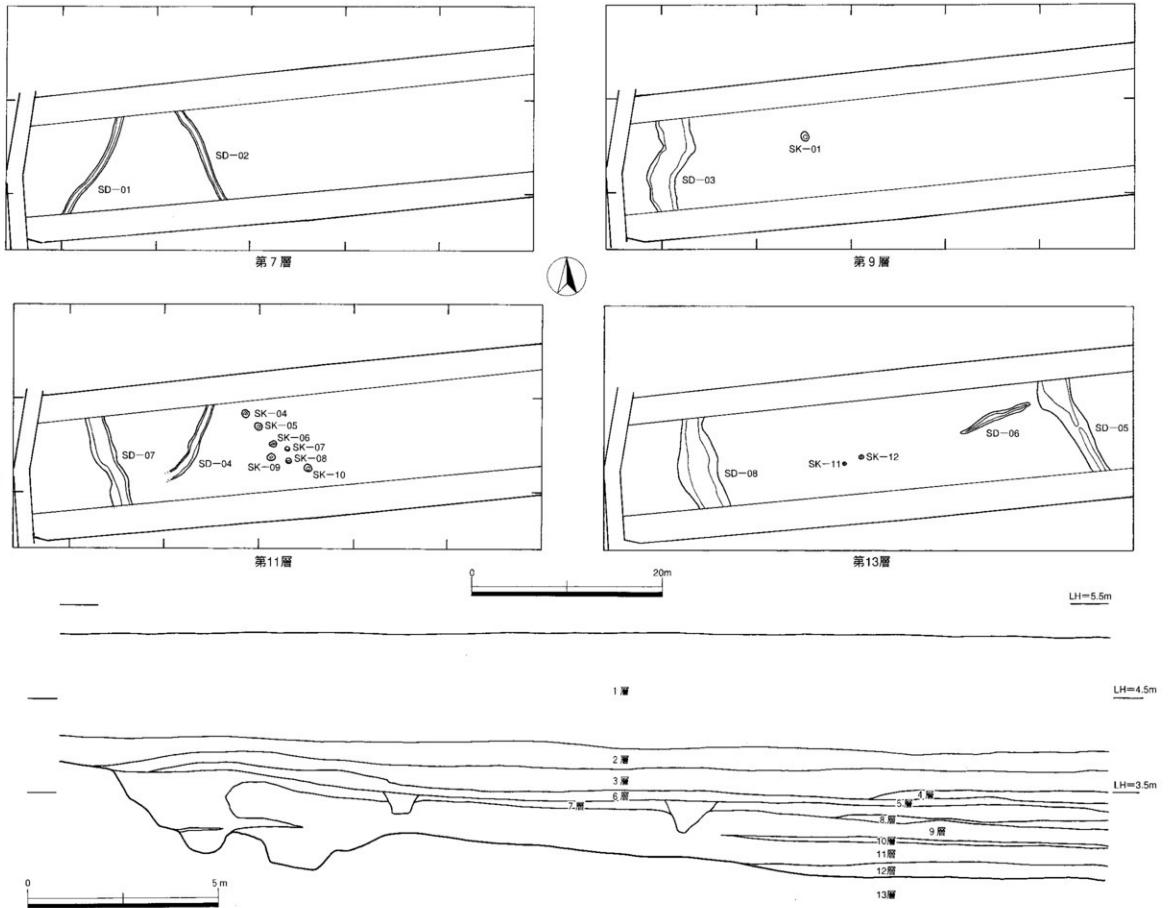
2. 調査地の堆積状況

現在の調査地は標高5.2mの平坦地で、地表面から1.2mまでは現代の耕作土（第1層）であった。調査地の東側は山の裾部ということで若干の相違はあるが、この耕作土の下も全体的に同じような堆積状況であった。第2層は黒色粘土層・第3層灰色粘土層は山からの流れ込みの遺物包含層である。第4層灰色粘土白色ブロック混層・第5層青灰色粘土層。第6層黒色粘土混砂層を除去したところ、第7層砂層面でSD-01・SD-02を検出した。第8層砂混じり粘土層（第7・9層混合層）。第9・11層灰色粘土で西側では間に第10層砂層が入り込むが、調査地の東側の山側になるにつれ間層の砂層はなくなり、第9・11層の相違は分からなくなったり。第9層灰色粘土層の上面でSD-03を検出し、この粘土層を掘り下げる過程でSD-04・07を検出した。断面では明確ではなかったが恐らくはこの面が第11層と思われ、SD-03とSD-04・07との時間の差が見られる。第12層は砂層であるが、第10層と同様山側になるにつれ薄くなり、やがて見られなくなる。第13灰白色粘土層で、SD-05・06・08を検出している。

分析の結果でも明らかであるが、各粘土質層で稲作の可能性が考えられ、この地は古くから継続して耕作地であったと思われる。しかしながら、これらの各粘土層の間には氾濫があったことを同わせる砂層がみられることから、常に水との戦いがあったことが考えられる。このことは長砂第3遺跡でみられる高地性集落からも伺い知ることができる。

3. 遺構について

溝状遺構（第3図） 層位的な観察の結果、全体に4つの時期に別れる。各時代層でそれぞれ溝状遺構を検出し、最終的には全部で8本の溝状遺構を検出した。そのほとんどが調査区を横切る形で検出されたため全体のはんの一部分の調査であったこと、また流水路の上部はかなり流されていることも考えられ正確な状況は不明である。しかしながら恐らくはSD-08が時代を経てSD-07・03と変わっていったと思われる。そして今回の調査では水田等の痕跡は確認できなかったが、分析の結果によると稲作が営まれていたことは明らかで、その際水を引くのにSD-03・07・08が大きな役目を果たしていたものと思われる。



第3図 造構平面図および土層断面図

SD-01 幅約70cm・深さ12cmで、N 30° E方向に流れる。

SD-02 SD-01とほぼ同レベルで確認され、規模もほぼ同じく幅約70cm・深さ6 cmであるが、流れはN 23° Wと逆方向である。

SD-03 幅約3 m・深さ60cmで、蛇行しながらほぼ北方向に流れる。自然の河川と思われ、今回の調査では一番残りのよいものであったが、何度か氾濫があったと思われる。このことは本路の東側に比べ西側壁面は浸食も著しく、入り込んでいることからも伺うことができる。また西側には杭列も何本か残っており、確認した水路のラインとはずれていたが、分析の結果から年代的にはこの水路に伴うものと思われることから、氾濫対策のために杭を打っていた可能性も考えられる。

断面観察によると南側では下層の約30cmの堆積と上層の堆積とは異なっていた。調査の結果SD-07と一部水路が二重となっていた。

SD-04 幅1 m・深さ1cmで、やや湾曲しながら北東方向に流れる。

SD-05 幅1.6~3.4m・深さ約30cmで、N 29° W方向に流れる。溝の底には木材が多く検出された。一見縦に並べられているようで、意図的に敷き詰められているようにみえるが、ほとんどが枝の付いた自然木で、特に加工痕等も認められなかった。またこれらは溝を横切るように打ってある杭列によって塞止められるような状態であったことからも、人為的なものではなく流木であったと考えられる。そして杭列を境にして南側の幅が広くなっていることは、流路を塞止めて何かをしていた可能性も考えられるが今回の調査では不明である。流路の中の流木の年代を分析したところ、紀元前500~700年という結果であった。中から出土した遺物及び周辺の遺物からみて、繩文時代晩期から弥生時代前期の流路と思われる。

SD-06 幅0.6~1 m・深さ12cmで、E 23° N方向に流れる。今回の調査の中で唯一流れる方向の異なるものであるが、両端が消滅しているため性格は不明である。

SD-07 幅2.5m・深さ30cmで、N 20° W方向に流れる。南側は一部SD-03と重なっていた。

SD-08 幅1.7m・深さ約20cmで、SD-07と同様N 20° W方向に流れる。

土 壤 柱穴としては径の割合に比べ浅く、建物が建つような並びにならなかたため性格不明の土壤とした。9層1穴、11層7穴、13層2穴の計10穴を確認した。中からは何も検出されなかたため正確な時期等は不明である。各土壤の規模は下記の表通りである。

	規模	深さ(cm)
	長軸×短軸(cm)	
SK-01	1 × 0.9m	28cm
SK-04	88×74cm	30cm
SK-05	78×76cm	13cm
SK-06	72×62cm	20cm
SK-07	48×39cm	10cm
SK-08	58×50cm	19cm
SK-09	87×64cm	23cm
SK-10	78×76cm	19cm
SK-11	31×30cm	9 cm
SK-12	50×32cm	39cm

4. 遺物について

長砂第4遺跡出土の縄文時代晚期後葉～弥生時代前期前半の土器

流路およびその周辺から出土した縄文時代晚期後葉から弥生時代前期前半の資料を概観する。

突帯文土器

突帯のつく深鉢は、口縁端部の刻目の有無、突帯の位置、突帯に施される刻日の形状から以下のように分類した。

1類（第4図1～5） 口縁端部に刻目を施し、突帯の幅ひとつ分ほど口縁端部から下がった位置に刻目突帯がめぐるもの。突帯の刻目はしっかりと施され、ヘラ状工具によりD字またはO字状に刻まれる。

2類（第4図6・7） 刻目突帯が口縁端部にほぼ接するかやや下がった位置にめぐる類。突帯はヘラ状工具により小さく浅く刻まれる。口縁部端部に刻目は施されない。また、口縁端部は丸味をもつ。

3類（第4図8・9） 刻目突帯が口縁端部より下がった位置に施される類。突帯はヘラ状工具により小さく浅く刻まれる。口縁部端部に刻目は施されない。口縁端部はやや丸みを帯びる尖形を呈す。

4類（第4図10・11） やや外反気味の口縁で、口縁端部から下がった位置に刻目突帯がめぐる類。10の突帯は棒状工具の側面による刻目、11はヘラ状工具により小さく浅く刻まれる。口縁部端部に刻目は施されず、丸ないしやや尖形を呈す。

粗製深鉢（第4図12） やや内湾気味に口縁部が立ち上がる。底部は丸底である。突帯は巡らないが、基本的な土器の作りは突帯文土器に共通する。

4類に大別した突帯文土器の型式学的な位置づけについて触れておく。なお、ここでは「日久美遺跡V・VI」で示した突帯文深鉢の編年表（表1）をもとにした（註1）。

まず、突帯文土器1類は突帯文Ⅰ期に相当する。日久美遺跡で当類に相当する突帯文土器は出土していない。

突帯文土器2類については、口縁端部よりやや下がった位置に突帯がめぐるが、口縁端部の調整と突帯の貼り付けが同時処理されていることから突帯文Ⅱ期に位置づけるのが妥当であろう。日久美遺跡第5次・6次調査では刻目突帯文土器Ⅱ類とした一群に相当する。

突帯文土器3類、4類は、日久美遺跡第5次・6次調査で出土した突帯文土器のうち刻目突帯文土器Ⅲ類に相当する。突帯文Ⅲ期の突帯文土器に後出する一群である（註2）。また、実態を示しているとは思われないが、長砂第4遺跡では日久美遺跡第5次・6次調査で多量に出土した無刻目突帯文土器が出土していない。

遠賀川系土器

壺形土器と壺形土器が出土している。壺形土器（以下、壺）については以下のように3大別した。

壺A類（第5図13・14） 脇部上半に段を有す類。13、14とも外傾接合による段を利用している。13の口縁部と脇部の段は、内外面に施された刷毛目調整と同一工具で刻れる。14は口縁部にヘラ状工具による刻目が施される。脇部の段は刷毛目調整の方向を変えることで強調されている。外面刷毛目調整、内面ナデ調整。

壺B類（第5図15・16） 15、16は同一個体の可能性もある。口縁端部上面を強くナデすることで、口縁端部下方が若干、突出する。口縁端部にはヘラないし棒状工具側面を押しあてたような横長のO字状の刻目が施される。器面は内外面ともナデ調整。炭化物が多量に付着する。

壺C類（第5図17～22） いわゆる如意形口縁を呈すものや、頭部下に1～3状の併行沈線が施される類。17、18、20、21は口縁端部をヘラ状工具で刻む。17～19いずれも刷毛目調整が施される。19については、刷毛目調整がナデ消されている。

壺（第5図23・24） 小片が2点出土した。1は頭部を区画する段を有す。24は頭部で、突帯をもち、頭部に文様が施される。

ここでは、壺の型式学的な位置づけについて触れておく。

まず、遠賀川系土器・壺C類（以下、壺C類）は、日久美遺跡第5次・6次調査、倉吉市イキス遺跡（註3）、東伯郡羽合町長瀬高浜遺跡の住居跡（註4）から出土している典型的な弥生時代前期前半の上器である。

一方、壺A類、B類は、山陰最古の遠賀川系土器として知られる出雲原山式土器（註5）に形態的特徴が似

る。また、甕A類は、日久美遺跡や倉吉市イキス遺跡、東伯郡羽合町長瀬高浜遺跡の住居跡など甕C類で構成される弥生時代前期前半の遺跡にほとんど認められない。また、甕B類は管見の限り県内で類例を知らない。このことから、この一群は、型式としては古いタイプと考えられる（註6）。ただし、甕A類、B類が、甕C類と時間的に分離できるかどうか現状では判断できない。

小結

長砂第4遺跡の突帯文土器、遠賀川系土器は、流路およびその周辺から出土したもので、資料としての一括性は低い。ただし、次の2点で、当該地域における突帯文土器と遠賀川系土器の共伴例として興味深い。当該地域において最も古相を呈す遠賀川系土器（A類、B類）の存在、そして、突帯文土器との関係。ここでは、このことについて若干の検討を試みたい。

まず、突帯文土器1類に遠賀川系土器が伴うことはないので、ここで問題となるのは最も新相の突帯文3類、4類である。この一群は、突帯文Ⅲ期の典型例である古海遺跡例に後出し、遠賀川系土器との共伴が微妙な段階の土器である。

日久美遺跡やイキス遺跡のように甕C類で構成される一群に伴う突帯文土器は、無刻目突帯文土器に、ここでいう突帯文土器3類、4類が少量認められる状況である。仮に、この前段階に突帯文土器3類、4類を主体とする段階があるとして、さらに、甕A類、B類がC類と分類できるとするならば、突帯文土器3類、4類と甕A類、B類が同時に存在した可能性も想定できる（註7）。

しかし、長砂第4遺跡出土の資料は一括性に乏しく、ここで想定した突帯文土器と遠賀川系土器の組み合わせは、單なる仮説にすぎない。今後、甕A類、B類のような遠賀川系土器が、ひとつのまとまりとして捉えられるのかどうか、資料の増加をまって検討したい。また、このことを考えるうえで重要なのは出土状況であり、調査時に資料の一括性をどのように理解するかが問題となる。

（註1）現在、作成中。本書と同時に刊行予定である。

（註2）日久美遺跡第5次・6次調査では、遠賀川系土器に伴って出土する無刻目突帯文土器との関係からこの一群を弥生時代前期の突帯文土器と位置づけた。一方、西伯郡会見町に位置する越敷山遺跡群では、土坑内から遠賀川系土器を含まない突帯文土器の一群が出土している（会見町・岸本町教育委員会1994「越敷山遺跡群」）。これらは、長砂第4遺跡・突帯文3類・4類相当の資料と思われ、突帯文Ⅲ期の突帯文土器と弥生時代前期の突帯文土器の間をつなぐ資料と考えられる。

（註3）倉吉市教育委員会1988「北面遺跡群イキス遺跡発掘調査報告書」

（註4）鳥取県教育文化財団1981-1983「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅲ-VI」

（註5）村上勇・川原和人1979「出雲・原山式土器の検討—前期弥生土器を中心に—」『島根県立博物館調査報告』第2冊

（註6）胴部の段の有無で新旧を決めるることは難しい。実際、イキス遺跡・長瀬高浜遺跡でも有段の甕が出土している。しかし、イキス遺跡については、段が頸部直下まで上がっており、甕A類とは形態が異なる。また、長瀬高浜遺跡SI169からは、甕A類が出土しているが、甕はこの1点にすぎず、他の住居跡出土資料との新旧は決めがたい。

（註7）しかし、註2に記した越敷山遺跡土坑資料は突帯文土器単純の資料である。また、原山遺跡で出雲原山式土器に伴う突帯文土器はこれまでに報告されていない。

表1 突帯文土器編年試案

	主な遺跡
突帯文Ⅰ期	桂見遺跡（自然河川01下層）
突帯文Ⅱ期	桂見遺跡（包含層）
突帯文Ⅲ期	古海遺跡（包含層）
・弥生時代前期前半	日久美遺跡・イキス遺跡・長瀬高浜遺跡

弥生時代中期以降の土器（第6図） Y 1・2は口縁部は「く」の字に屈曲し、端部は上下に肥厚し凹線を施す。内外面共に刷毛目を施す。後者は頭部に範状工具による圧痕突帯をもつ。Y 3は小壺である。Y 4～11は甕或いは壺の底部である。

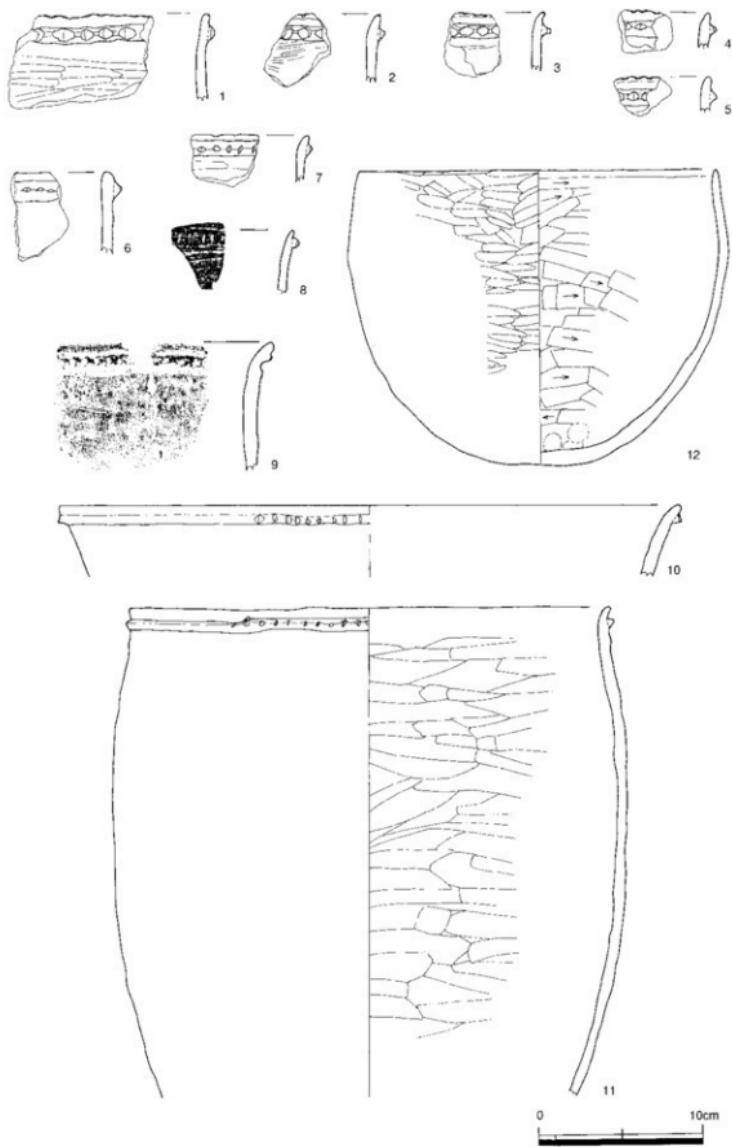
土師器（第7～9図） H 1～7は複合口縁を呈する甕、H 8・9は複合口縁を呈する壺である。H 10は直口壺で口縁部の発達した複合口縁を呈する。H 11は単純口縁の直口壺である。H 12～23は口縁部にバラエティーはあるが、複合口縁の退化したもので、短小になり、器壁は厚くなる。H 24～32は単純口縁の甕で、そのほとんどは大きく外反する。H 33～37は高壺である。H 33は大きく開く杯部で浅い。H 34～36の杯部は底部はほぼ平坦で丸味のあるものである。脚部はいずれも短くて「ハ」の字に開く。H 38は壺の口縁部である。

須恵器（第10図） S 1・2・3は环身で受部のつくものである。S 4は甕の口縁部で「逆ハ」の字に緩やかに開き端部は下方へ屈曲させ平坦をなす。口縁の下には鈍い凸線が巡り波状文を施す。S 5は甕の頭部から胸部で、頭部に波状紋・最大胴部分に円孔及び波状紋を施す。S 6・7は甕と思われるが円孔部分欠損のため不明。S 8は無蓋高壺環部で口縁部は緩やかに外反し、その下に鈍い凸線を二条施す。S 9は低脚環の脚部で「ハ」の字に開き脚端部は平坦である。S 10～11は高壺脚部でS 10は「ハ」の字に開き脚端部は段を有するもので、透しは三方である。S 11は「ハ」の字に開き脚端部内側に僅かに屈曲させ段を有し透しは三方である。S 12は高台付环で环部の底と高台部が残る。

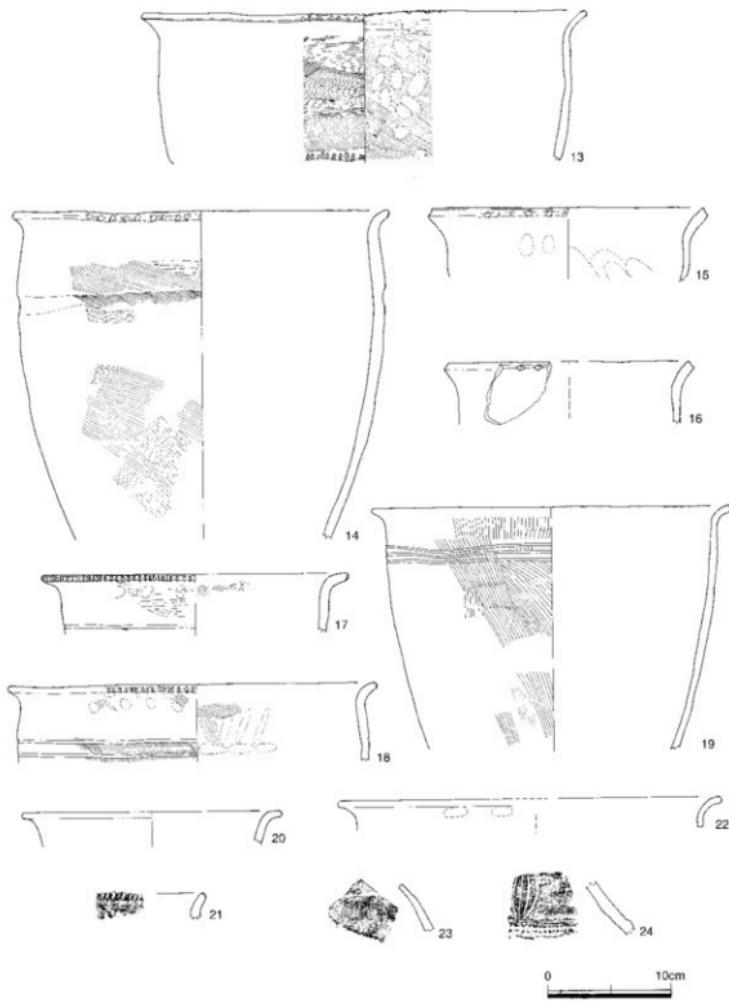
木製品（第11～13図） W 1・2はいずれも着柄部がナスピの萼状を呈したナスピ形着柄鉈で、W 1は一つ刃、W 2は三ツ刃である。W 3・4は容器で平面形は梢円形の舟型である。W 5・6は有頭状棒で、W 5は自然木の端部を丸く削り、W 6は頭部を三角形に整形し、柄部も丁寧に面取りが施され大きさからみて棒というよりは何かの栓のようである。W 7は桟で自然木の一端を丸く、一端を柄として削る。W 8は杭で先を削る。W 9～W 12は出下駄で形は方形で、紐孔は不整形な丸型である。長さ30～40cmで、厚さは1.5～2cmを測る。W 13は火きり板で長方形の板状で長辺の片側に三角形の切り込みが2箇所に入る。W 14～W 19・W 22は建築材でW 14は台形の板状で中央に円孔を施す。W 15・W 16は細い角材で端部を「L字」に加工したもの、W 17・W 18は長形の板状で片方にほどが残るもの、W 19は細い角材で一部を削っているものでW 15・16と同種か。W 22は厚めの偏平な角材で長軸中央端に切り込みの入ったものである。W 20・W 21は薄い板状のものであるが、その用途は不明である。

石器（第14図） 石棒1点（I 1）、打製石斧2点（I 2・I 3）、磨製石斧1点（I 4）出土した。石棒は三角柱状のもので各面は綺麗に磨いてあり、また一方が若干細く握りやすくなっているが用途は不明である。磨製石斧は蛤刃のものである。打製石斧は大型のものと小型のもの各1点である。

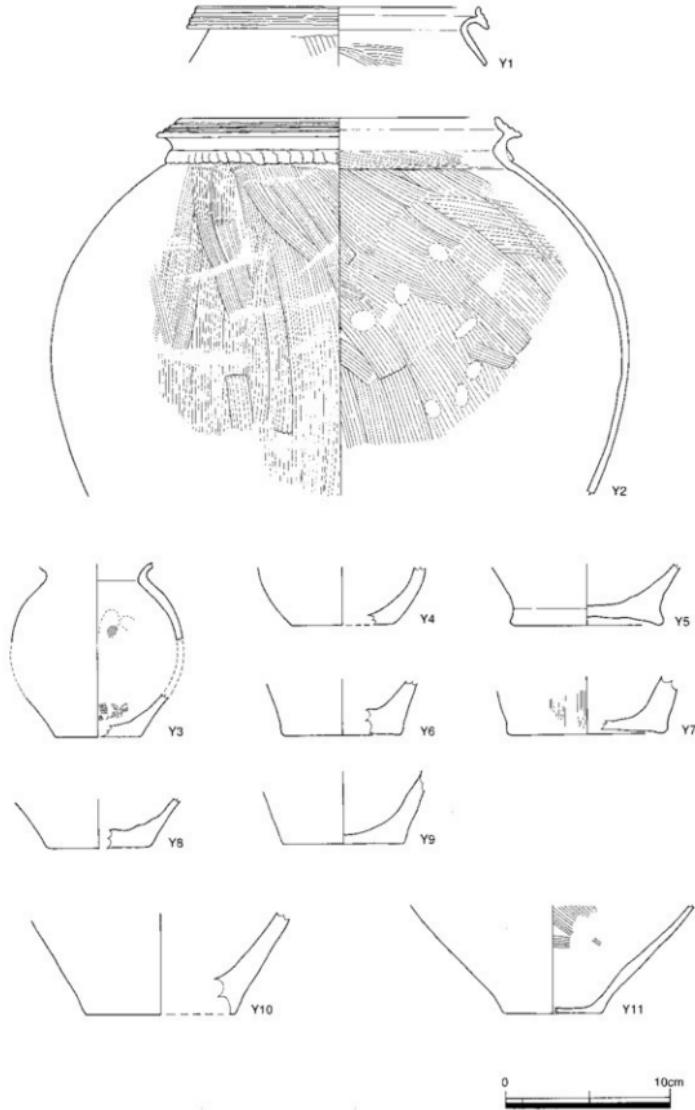
その他（第14図） 土鍤1点（P 1・2）は長軸の長いものである。



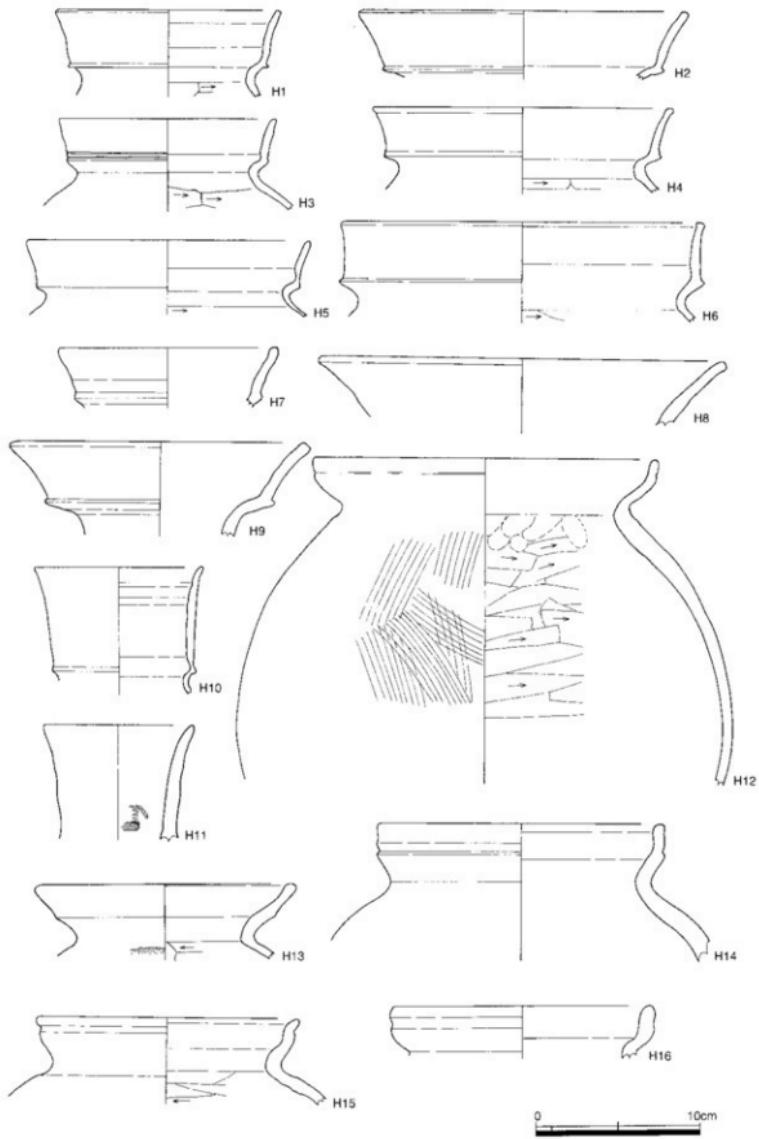
第4図 突蒂文土器 (1/3)



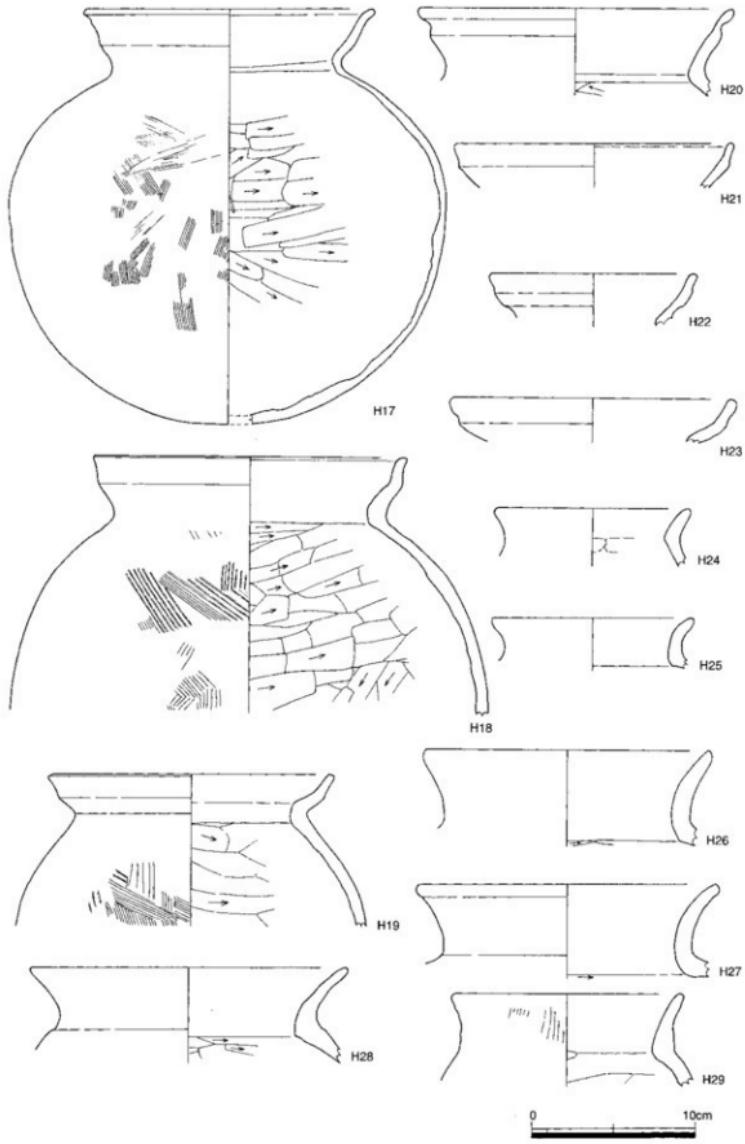
第5図 遠賀川系土器 (1/4)



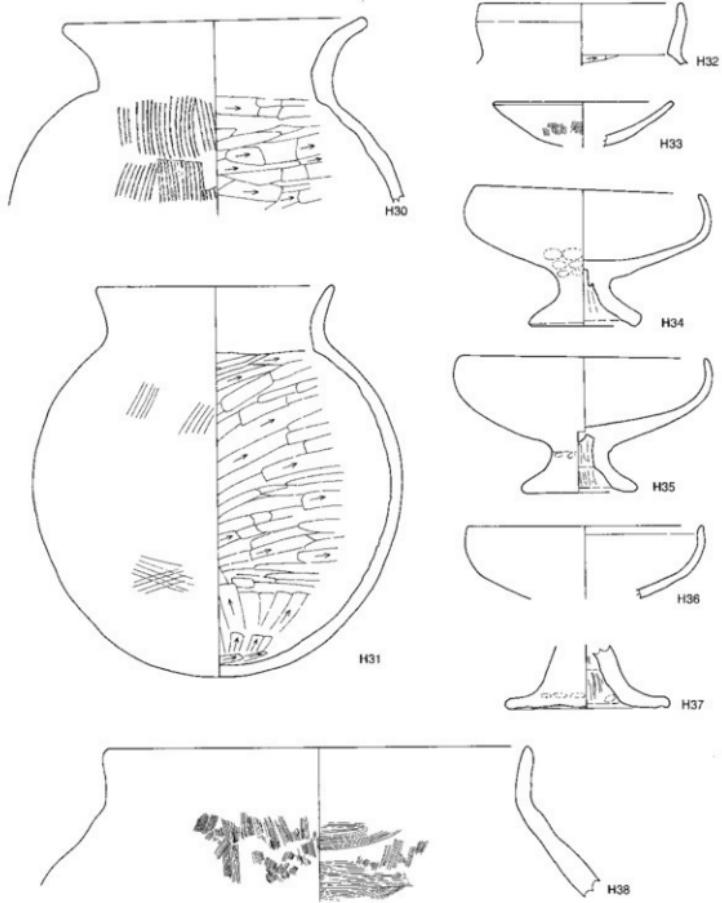
第6図 弥生時代中期以降の土器 (1/3)



第7図 土師器 (1/3)

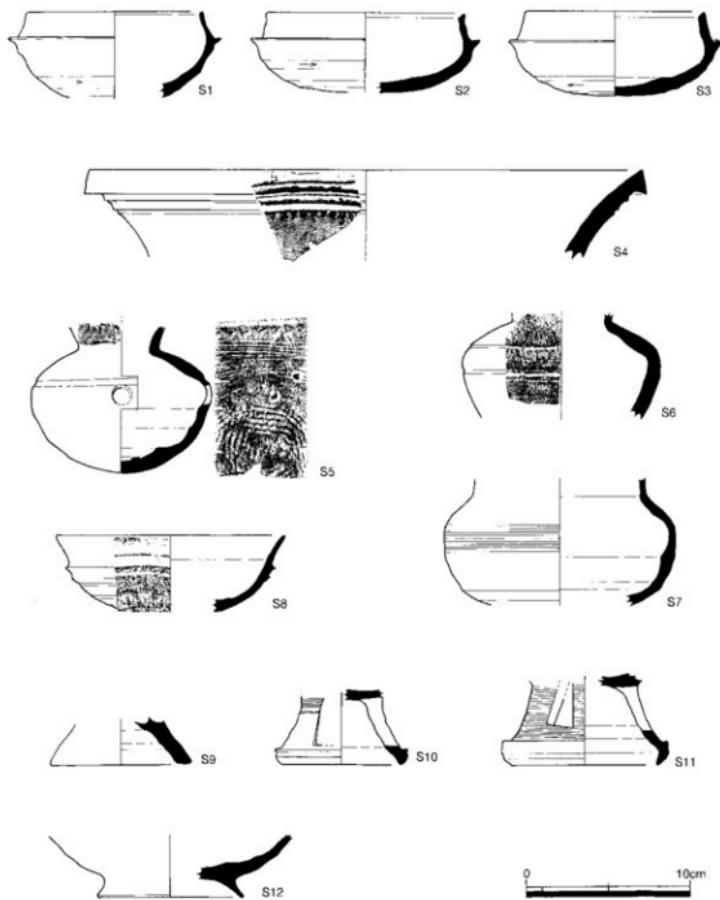


第8図 土師器 (1/3)

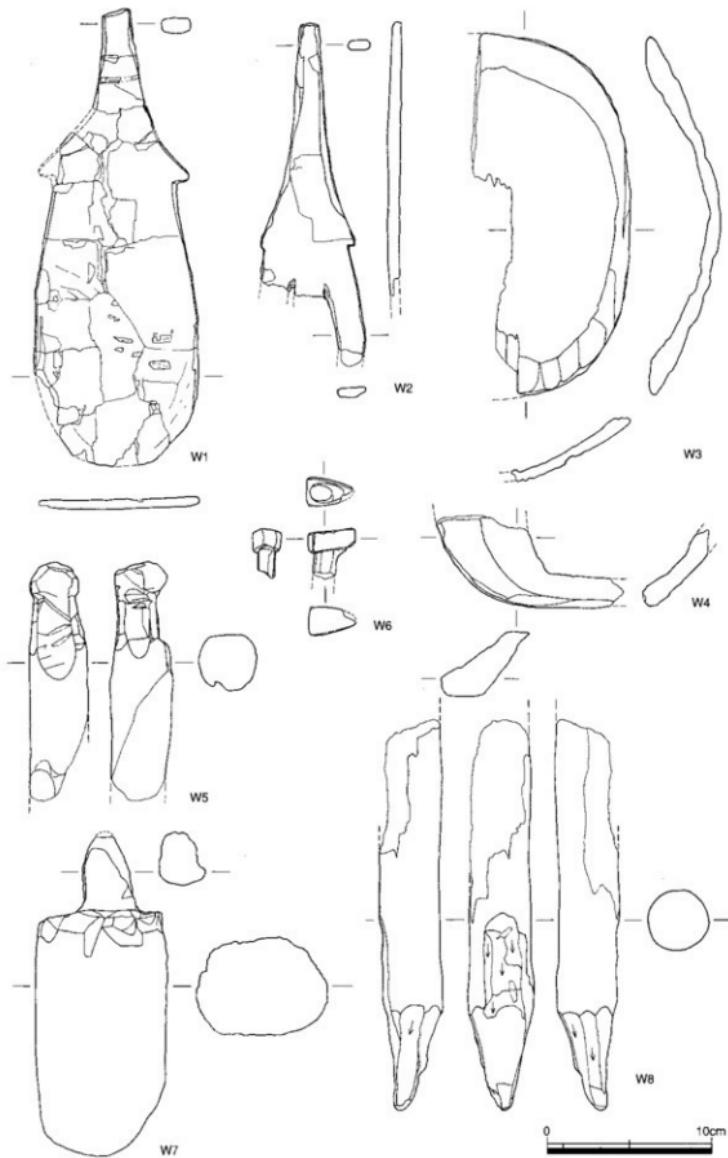


0 10cm

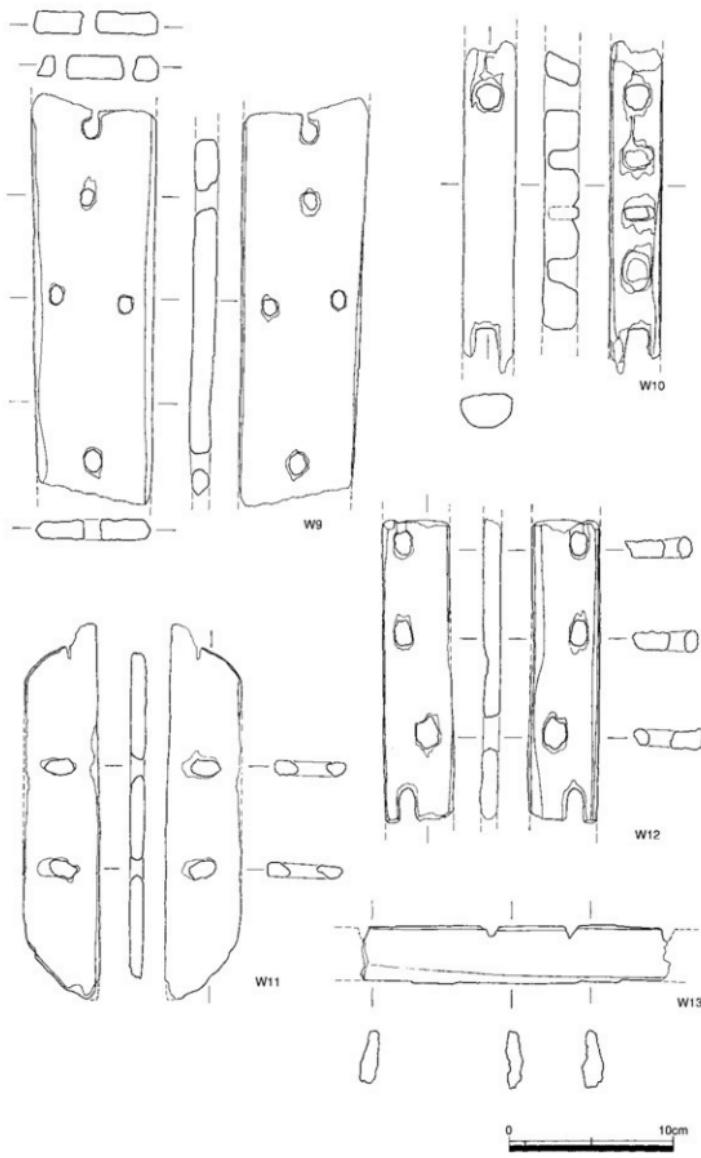
第9図 土師器 (1/3)



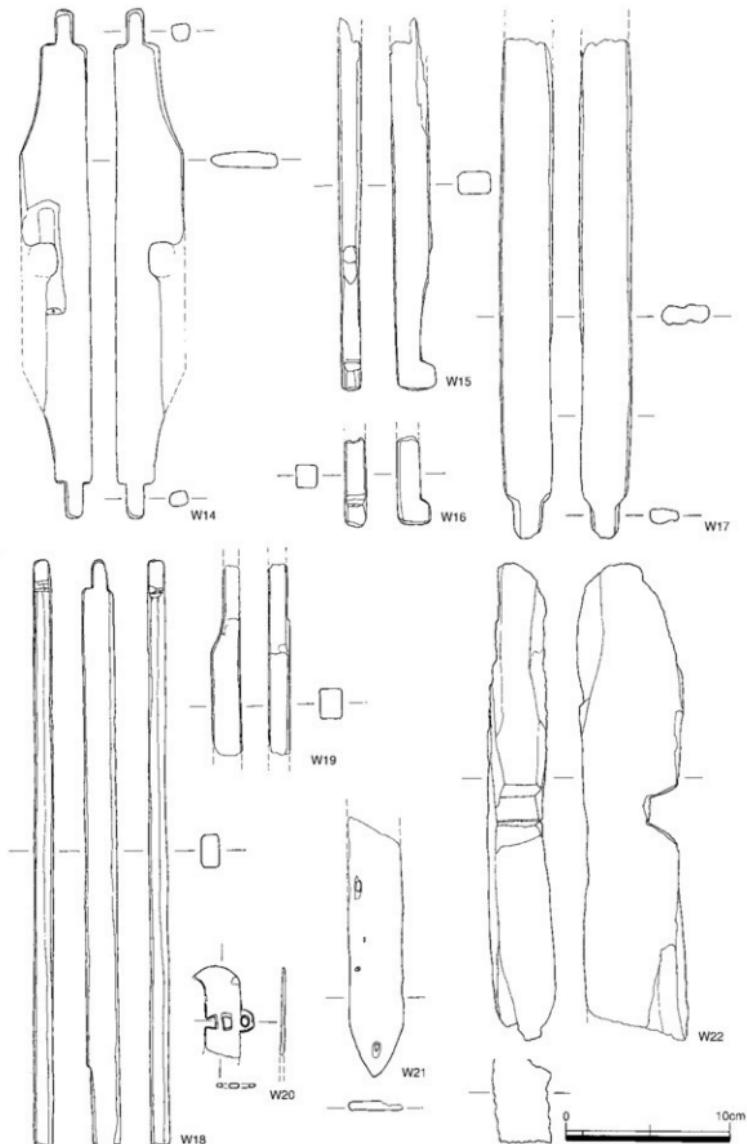
第10図 須恵器 (1/3)



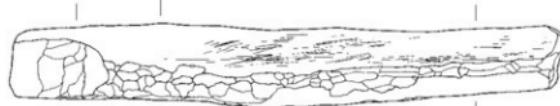
第11図 木製品 (1/3)



第12図 木製品 (1/3)

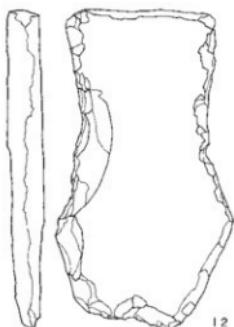
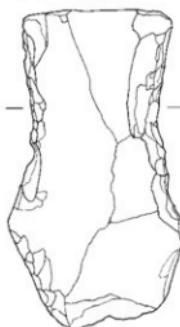


第13図 木製品 (1/3)

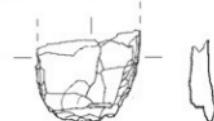


11

0 10cm
(1/4)



12



13



14



P1

P2

0 10cm
(1/3)

0 10cm
(1/2)

第14図 石製品およびその他



第15図 長沙第3測量調査地全體図 (S=1/500)

III 長砂第3遺跡の調査

1. 調査の概要

長砂第3遺跡は米子市長砂町43番地に位置する。今回の調査は長砂第4遺跡と同じく都市計画道路車尾日久美町線改良工事に伴う調査で、現地調査は平成9年3月5日から始まり、平成9年10月10日まで2ヶ月年度にわたりて行い、調査面積は約4,600m²であった。調査地は米子駅の東約1.5kmの米子市長砂町に位置し、長砂第4遺跡と隣接する標高50mの丘陵の西斜面に立地する。斜面上部では表土も含めて約20~30cmの堆積しかなかったが、裾部に向かって堆積は厚くなり約2.4mであった。調査は南側斜面から順次北側斜面に移り、斜面上部から裾部に向かって掘り下げていった。

調査の結果、遺構としては集石遺構、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、陥穴を検出し、遺物は弥生土器・上師器・須恵器・石鏸・石斧・敲頭・石匙・小玉・管玉・勾玉等が出土した。

なお、平成5年ごろ加茂川改修工事中に上器が出土していたことが市民からの連絡で判明し、米子市教育委員会が土器を受け取り、記録に残している。

出土地（下図参照）は、加茂川改修工事が行われた米子市長砂町地内であり、国道9号線米子バイパスの米子南インターチェンジから約150m下流付近と推定される。当該地は、加茂川西側丘陵が張出しており、丘陵の下部が微高地を形成し、そこに、なんらかの遺跡が存在した可能性が考えられる。

出土した土器（第42図参照）は弥生土器（壺形土器、甕形土器）であり、ほぼ完形である。壺形土器（255）はかなり明るい赤橙色の胎土をしており、調整は内外面ともハケを多用しているが、ミガキもかなり丹念に施している。甕形土器（256）は、口縁部が短く外反し、沈継が2条施される。底部は穿孔される。口唇部に刻み目がある。



2. 遺構について

竪穴住居跡 全部で8棟を検出したが、斜面立地ということですべての住居の谷側は流れ、完全な形で検出されたものはなかった。またSI-08を除く7棟については規模・形はほぼ同じと思われる。時期については住居に伴う遺物が少なく明確ではないが、SI-08も含めて占墳時代前期から中期にかけてのものと考えられる。

SI-01（第16図） 残存床幅4m、残存奥行2.8m、最大壁高0.8m、床面標高15m、残存床面積8.61m²、N15°W方向を向く。柱穴は4穴でP1（22cm×48cm）、P2（28cm×20cm×14cm）、P3（22cm×20cm×14cm）、P4（27cm×23cm×23cm）、柱間はP1-P2（2.1m）、P2-P3（1.5m）、P3-P4（2.1m）、P4-P1（1.6m）である。床面には壁に沿って幅約13cm、深さ14cmの溝を這らし、中央に焼けた跡が残る。

遺物は滑から緑色凝灰岩の砥石（第73図No.772）、床面から須恵器の环身（第63図No.607）が出土。

SI-02（第17図） 床幅4.5m・残存奥行3.6m・最大壁高0.8m・床面標高22.2m・残存床面積13.13m²で、W 22° N 方向を向く。柱穴は3穴でP 1 (22cm×20cm-56cm)、P 2 (32cm×30cm-28cm)、P 3 (幅25cm-30cm)、柱間はP 1-P 2 (1.9m)、P 2-P 3 (1.75m)である。床面には壁に沿って幅約10cm、深さ6cmの側溝を巡らす。余り明瞭ではないが側溝からP 2 につながる溝も残る。床面には炉の痕跡と思われる94×82cmの円形の焼けた粘土壁が残るほか、奥壁中央とそれよりやや西側に集中する焼土を検出する。

遺物は破片であるが、須恵器环身（第64図No.663）が出土。

SI-03（第18図） 床幅3.7m・残存奥行1.6m・最大壁高0.5m・床面標高15.2m・残存床面積6.73m²で、N 28° W 方向を向く。床面には壁に沿って幅15cm、深さ5cmの側溝を巡らし、奥壁中央部に径56cm・深さ14cmの掘り込みを検出した。床面からは幾つか柱穴も検出されたが、住居に伴うものと思われるものはなかった。また、本住居の北側には長さ約7m・幅80cm・深さ25cmの溝を検出したが、この住居に伴うものとは思われず、ピット等溝に伴うような構造も検出されていないためその性格は不明である。

SI-04（第19図） 床幅6m・残存奥行2m・最大壁高0.5m・床面標高16.4m・残存床面積9.68m²で、西方を向く。床には壁に沿って幅18cm、深さ5cmの側溝を巡らす。柱穴はP 1 (36cm×34cm-49cm)、P 2 (28cm-5cm)、P 3 (33cm×28cm-34cm)、P 4 (42cm×34cm-46cm)の4穴検出したが、この内本住居に伴うものはP 2・P 4 と思われ、柱穴間は3mである。P 4 からは幅約15cm・深さ約5cmの溝が側溝に向かって2方向施されている。また、本住居の北側壁面がクランクしていることから建て替えが行われたと思われるが、詳細は不明である。

SI-05（第20図） この住居は西壁が消滅していたが、床面に「コの字状」に残った幅20-30cm・深さ3cmの側溝から、床幅4.7m・残存奥行1.7m・最大壁高0.5m・床面標高10.7m・残存床面積10.32m²で、N 27° W 方向を向く。柱穴はP 1 (幅22cm-23cm)、P 2 (52cm×37cm-58cm)、柱穴間は(2.7m)である。溝の東側には幅90cmのフラットな面があり、炉の痕跡もあることから、溝によって床面を仕切り使用した何らかの施設と思われる。P 3 (30cm-57cm)・P 4 (45cm×38cm-20cm)はこの施設に関係ある柱穴の可能性が考えられる。

遺物は土師器くの字口縁甕（第49図No.343）・高环脚部（第57図No.478・479）・土師器鉢（No.512）、須恵器环蓋（第62・63図No.592・628）・环身（第64図No.667）が出土。

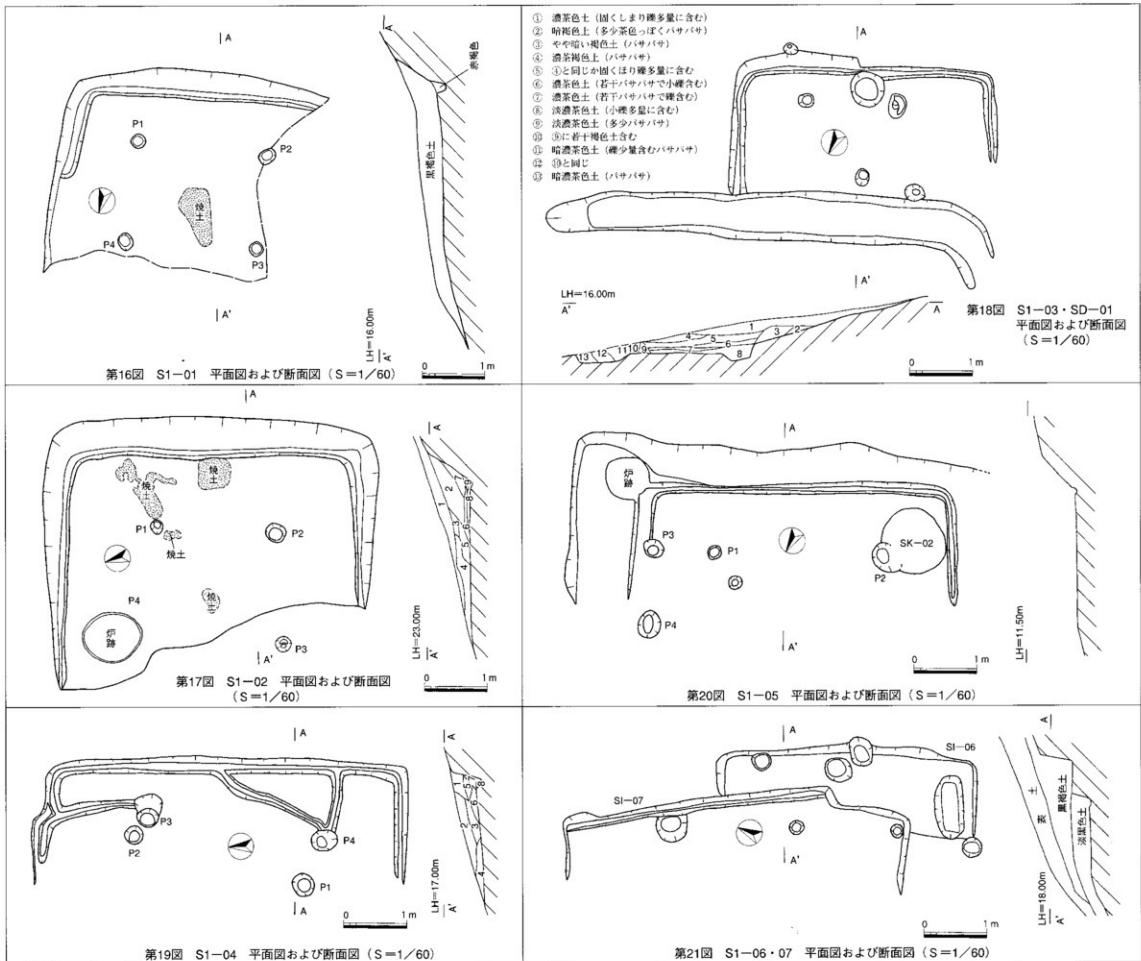
SI-06（第21図） 床幅4m・残存奥行1.2m・最大壁高0.5m・床面標高17.7m・残存床面積3.13m²で、W 26° S 方向を向く。本住居のものと思われる柱穴は確認できなかったが、床面奥壁中央に47cm×36cm・深さ40cmの楕円形の穴を検出し、また床面南側には100cm×46cm-30cmの隅丸方形の落ち込みを検出した。いずれも用途は不明だが炭化物等の検出がないことから貯蔵穴ではないかと考えられる。

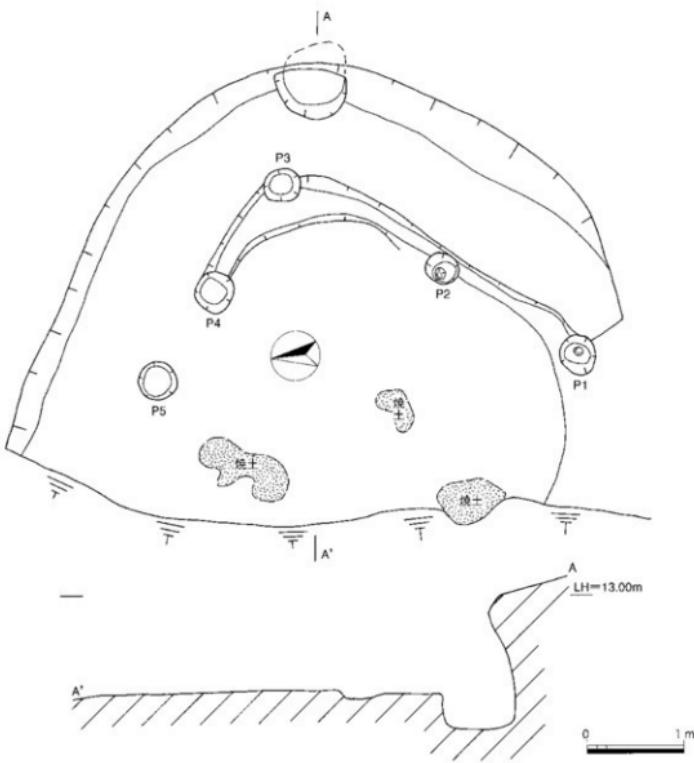
遺物は床面より上師器の甕口縁部（第53図No.394）出土。

SI-07（第21図） SI-06の下から検出した住居で、床幅5.2m・残存奥行1.3m・最大壁高0.4m・床面標高17.3m・残存床面積4.84m²、S 30° E 方向を向く。本住居の南側1/5の所で奥壁がクランクしているが、奥壁床面に施されている幅12cm、深さ4cmの側溝がこの部分までしかないことから、建替え等が行われたのではなく、意図的なものと考えられる。SI-06と同様に柱穴は確認できなかったが、奥壁中央に45cm×40cm-35cmの隅丸方形の穴を検出した。

SI-08（第22図） 床幅5.7m・残存奥行4.5m・最大壁高約1m・床面標高12.0m・残存床面積20.1m²で、西方を向く。柱穴はP 1 (40cm×38cm-44cm)、P 2 (34cm×30cm-58cm)、P 3 (38cm×34cm-57cm)、P 4 (43cm×38cm-55cm)、P 5 (幅40cm-63cm)で、柱穴間はP 1-P 2 (1.7m)、P 2-P 3 (1.9m)、P 3-P 4 (1.8m)、P 4-P 5 (1.1m)である。また奥壁中央には幅74cm・床からの深さ33.6cmのほぼ円形の穴がある。中からは遺物等何も検出されなかったが、SI-06・07のものと比べ大きく、貯蔵穴と考えられる。

遺物は土師器小型甕（第52図No.391）・上師器くの字口縁甕（第53図No.397・402）・上師器低脚甕（第56図No.453）・土師器台付鉢（第59図No.547）・甕（第60図No.556）、須恵器环蓋（第61-63図No.574・581-584・593・608・619）・环身（第64図No.644・666）出土。





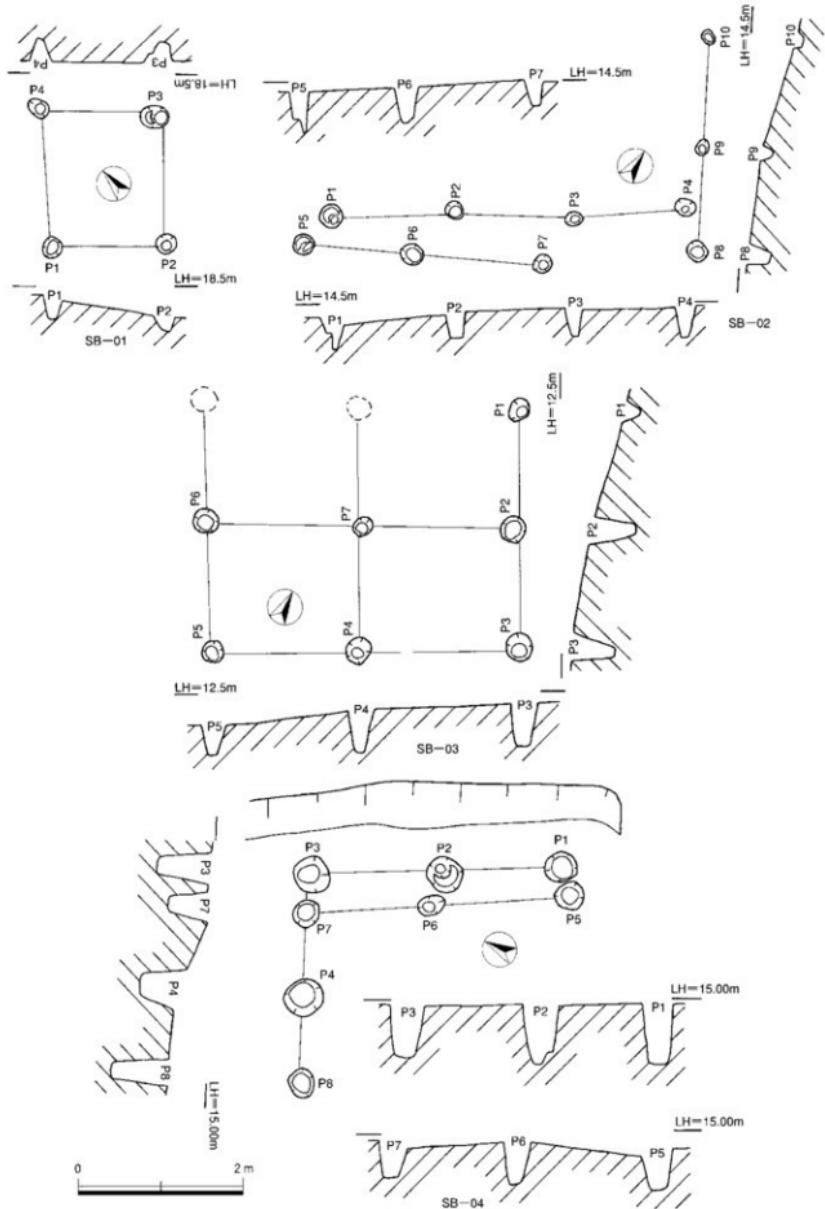
第22図 S1-08 平面図および断面図 (1/50)

掘立柱建物跡 (第23図)

柱穴状のものは多数検出し、その中に1列に並ぶものは幾つか考えられたが、斜面であるためかそれらに対応する柱穴を検出することは出来なかった。完全な形で建物になり得るものは1棟のみであったが、周辺の状況から建物跡の可能性が考えられるものはいくつか検出した。

SB-01 梁間1×桁間1の柱数4本の建物である。各柱の規模はP1 (27cm×22cm-27cm)・P2 (24cm×22cm-16cm)・P3 (34cm×28cm-25cm)・P4 (26cm×20cm-27cm)で、柱間はP1-P2 (1.35m)・P2-P3 (1.55m)・P3-P4 (1.5m)・P4-P1 (1.65m)である。

SB-02 建物としては不完全であるが、フラットな面に柱穴が直線的に並ぶため建物の可能性が考えられる。A列の各柱穴規模はP1 (29cm×28cm-40cm)・P2 (24cm×16cm-28cm)・P3 (20cm×15cm-32cm)・P4 (25cm×20cm-36cm)、柱間はP1-P2 (1.5m)・P2-P3 (1.45m)・P3-P4 (1.35m)である。B列の各柱穴規模はP5 (26cm×27cm-50cm)・P6 (28cm×26cm-41cm)・P7 (24cm×21cm-38cm)、柱間はP5-P6 (1.3m)・P6-P7 (1.55m)である。C列の各柱穴規模はP8 (26cm×22cm-27cm)・P9 (19cm×14cm-12cm)・P10 (19cm×15cm-10cm)、柱間はP8-P9 (1.25m)・P9-P10 (1.35m)である。



第23図 据立柱建物跡平面図および断面図 ($S=1/60$)

SB-03 梁間2×桁間2の総柱建物と思われるが、柱痕は7穴しか確認できなかった。各柱の規模はP1(29cm×24cm-26cm)・P2(32cm×30cm-55cm)・P3(36cm×34cm-52cm)・P4(30cm×28cm-30cm)・P5(28cm×27cm-36cm)・P6(30cm×30cm-40cm)・P7(24cm×20cm-40cm)で、柱間はP1-P2(1.4m)・P2-P3(1.5m)・P3-P4(2.0m)・P4-P5(1.8m)・P5-P6(1.6m)・P6-P7(1.95m)・P7-P2(1.9m)である。

SB-04 斜面をL字にカットした平坦面に、柱穴4本がL字に残るものである。建て替えを行ったのか谷側に僅かにずれて同様な柱穴列も検出した。山側の各柱の規模はP1(40cm×36cm-76cm)・P2(46cm×40cm-74cm)・P3(44cm×42cm-64cm)・P4(46cm×46cm-40cm)、柱間はP1-P2(1.45m)・P2-P3(1.65m)・P3-P4(1.45m)である。谷側の各柱の規模はP5(38cm×35cm-46cm)・P6(34cm×22cm-54cm)・P3(34cm×32cm-44cm)・P7(34cm×30cm-68cm)・P8(34cm×30cm-72cm)。P1-P2(1.7m)・P2-P3(1.5m)・P3-P4(2.05m)である。

西地区遺構

テラス状遺構（第24図）

西尾根の標高18m付近に所在する。検出した長さは約20mで、さらに南側の調査区外に伸びている。奥行きは広いところで8m、狭いところで4m程度である。遺構は、石組み遺構(SX01)、木棺墓、ピット群などを検出した。遺物は、表土中から黒耀石、石斧、弥生土器、土師器、須恵器が出上している。

石組み遺構 SX01（第26図）

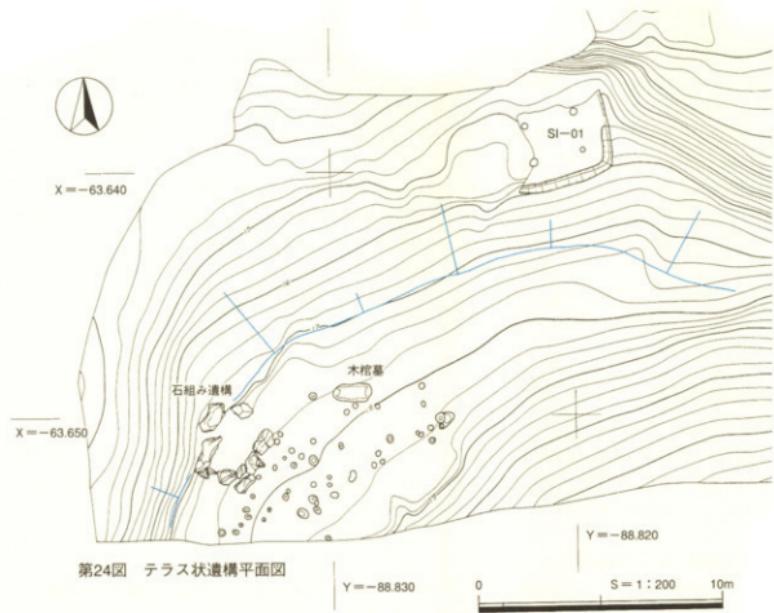
テラス西側で検出した石組み遺構である。調査前から小砾石の集積が露出しており、遺構の存在を窺わせた。また西側の小砾石は斜面に流出している状況であった。調査は、上層の砾を除去しながら断面を観察し、堆積状況などを記録しながら進めた。小砾石群の下層には数個の大きな石が、石室状に配置されており、何らかの埋納施設を想像させるものである。上面の砾は313個を数え、そのうち74個が石組み内部に落ち込んでいた。石は角礫がほとんどであるが、河原石とみられる円礫が6個含まれていた。石組内部は、長さ約120cm、幅65cmで、高さは最も高い所で45cmである。遺物は石組み内の床面から不明鉄器2点を検出し、小石群中から時期不明の須恵器部片を検出した。須恵器の時期は明らかにしがたいが、古墳時代以降のものであろうか。

木棺墓（第25図）

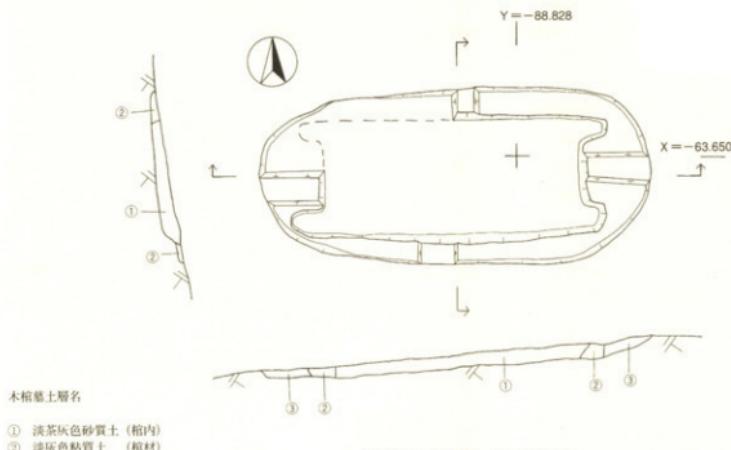
テラス北側で検出した。SX01検出後に上塙の輪郭を確認したため、精査したところ、組み合わせ式木棺の輪郭を確認した。墓壇は長さ160cm、幅約70cm、深さ約8cmが遺存する。木棺は長側板が長さ125cm、幅は45cmで棺内の内法は不明である。時期は棺内からの遺物の出土がなく不明。おそらくテラス造成により上部は失われたものと考えられるので、それ以前に作られたものであろう。

ピット群

テラス南北寄りに多数分布する。全部で48個を検出した。分布状況などから推察して、建物跡の柱穴と考えられるが、建物を復元することはできなかった。またピット内からの土器の出土もなく、時期は不明である。

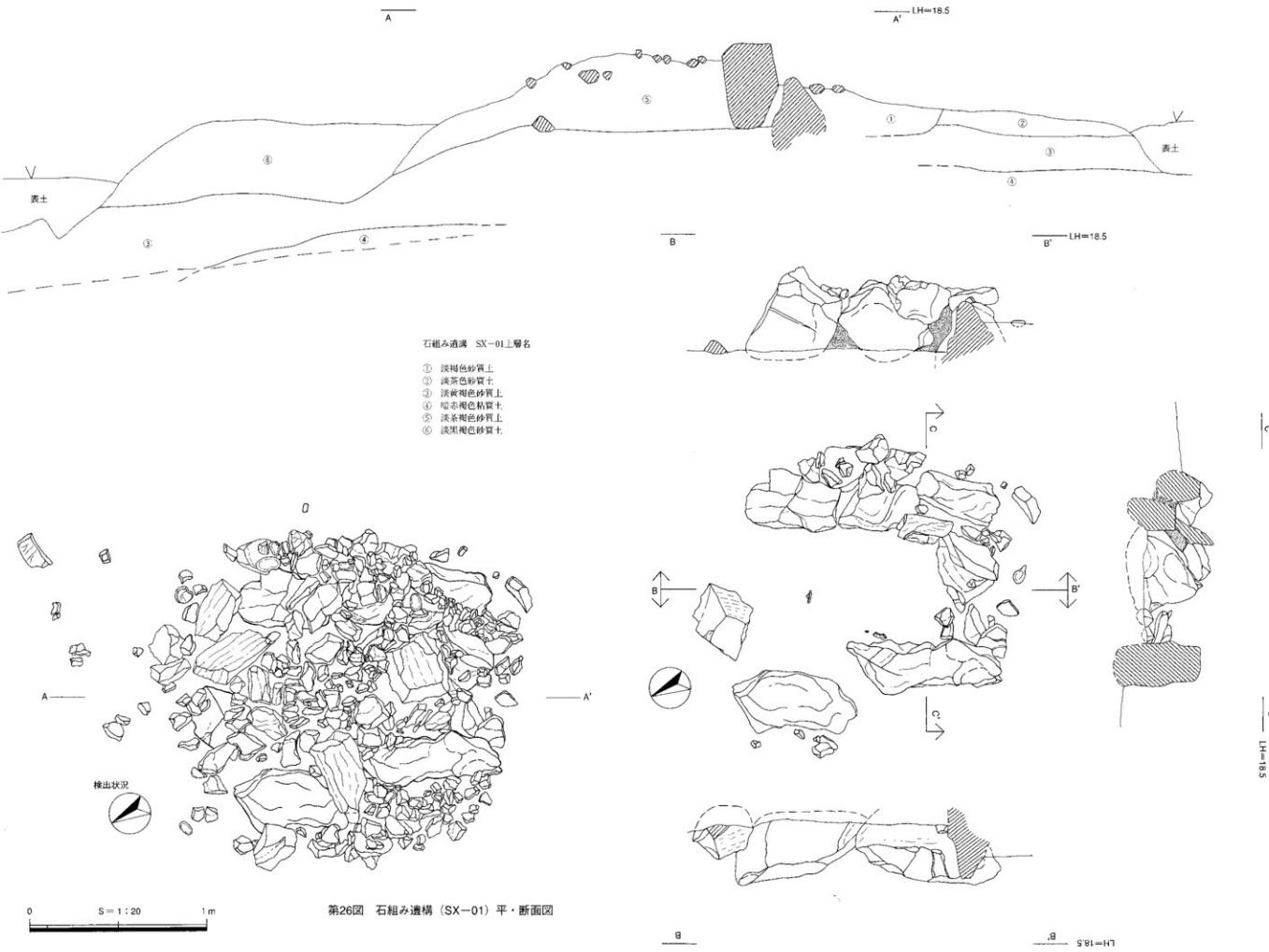


第24図 テラス状遺構平面図



第25図 木棺墓 平・断面図

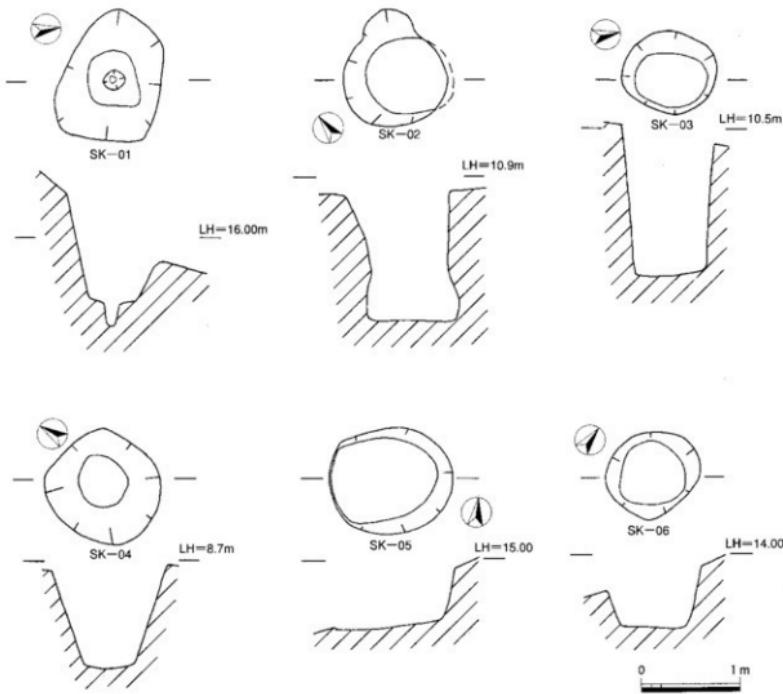
0 S = 1:20 1m



第26図 石組み遺構 (SX-01) 平・断面図

陥し穴（第27図） 全部で6穴検出した。

- SK-01 1.3m×1m-1.1mで平面形は隅丸方形を呈す。床面中央に20cm×22cm-23cmの穴を施す。
- SK-02 1m×0.95m-1.3mで平面形は楕円形を呈し、下方は若干袋状になっている。
- SK-03 0.8m×0.95m-1.4mで平面形は梢円形を呈す。底部は平坦である。
- SK-04 径1.1m-1.05mで平面形はほぼ円形を呈す。底部断面は「U」字状である。
- SK-06 0.95m×0.84m-0.61mで平面形は円形を呈すが、上部が削平され、特に谷側はほとんど残っていない。
- SK-05 1.26m×1.08m-0.52mで平面形は楕円形を呈し、上部は削平されている。



第27図 陥し穴平面図及び断面図

3. 出土遺物について

今回の調査での遺物は、弥生上器・土師器・須恵器・石製品・鉄製品ら取り上げ点数で約3,800点を数えた。しかしながら遺構に伴うものは僅かでそのほとんどが流れ込みであった。

縄文時代晩期から弥生時代前期の土器

突帯文系土器（第28図 2~15）

いわゆる突帯文上器である。突帯の位置によって分類し、さらに刻み目の有無で細分した。胎土、色調とも弥生前期の土器に酷似する。鳥取県西部での縄文晩期から弥生前期の土器の様相が不明瞭である点を考慮して「系」の語句を付けた。弥生前期の上器は、壺形土器、斐形土器、鉢形土器、蓋形土器がみられる。土器の色調は橙褐色を呈するものが過半数を占め、器壁が風化して、観察が困難になった上器が多い。

深鉢

今回出土した晩期の土器は全て深鉢である。

I 類 口縁部直下に突帯を張り付けるもの。

I a 類 刻み目を持つ。(2~3)

II b 類 刻み目を持たない。(4~9)

II 類 口縁部から一段下がった場所に突帯を張り付けるもの。

I a 類 刻み目を持つ。(10~14)

II b 類 刻み目を持たない。(15)

壺形土器（第28~31図 16~61）

壺形土器は、口縁部の形態と段、沈線、突帯の有無で分類した。

I 類 口縁が外反し、口縁部に段を作るもので、明瞭な段を持つものを I a 類。沈線によって段を作るものを I b 類とした。

I a 類 (16~21)

I b 類 (22~33)

II 類 数条のヘラ描き沈線紋を持つもの。(47)

III 類 口縁部が外反し、内面に突帯を持つもの。(34~39)

IV 類 口縁の短い広口壺。(40)

V 類 無頸壺。(56~57)

斐形土器（第32~35図 76~135）

斐形土器は、口縁部が「く」の字に外反するもので、ヘラ描き沈線を施すものと、無紋のものに大別し、さらに刻み日の有無で a 類と b 類に分けた。132~134は如意型口縁。135は逆L字口縁である。

I 類 ヘラ描き沈線を 1~3 条施すもの。

I a 類 刻み目を持つ。(76)

II b 類 刻み目を持たない。(77~92)

II 類 無紋のもの。

I a 類 刻み目を持つ。(93~105)

II b 類 刻み目を持たない。(106~131)

蓋形土器（第31図 62~66）

蓋形土器は5点を同化した。65、66は胎土の特徴から同一個体の可能性が高い。62は円錐形で、外面に木の葉紋を持つ。

鉢形土器（第31図 67～75）

鉢形土器は口縁が内傾して立ち上がるもの（68）、口縁が直立するもの（69～71）、口縁が外反するもの（72～75）に大別できる。67は復元口径が5cmに満たない小形品で、焼成前に穿孔されている。

弥生時代中期から後期の土器

今回の調査では、中期の土器は少なく、ほとんどが中期末から後期にかけての時期に相当する。器種は、壺形土器、水差し形土器、甕形土器、鉢形土器、器台形土器、高环形土器が出土した。

壺形土器（第36図 136～149）

全体的に出土量が少ない。口縁部が頸部からゆるやかに外反し、口縁端部に凹線が施紋される。136は口縁がくびが、肩部が櫛描き紋、櫛描き波状紋を施し、頸部に数条の張り付け突帯を有する。突帯の間隔をナデルの特徴から、清水編年のⅢ～1段階に相当するものと思われる。137は水差し形土器の取っ手部である。体部を穿孔して取っ手を充填している。149は台付壺の体部とみられる。147、148は明瞭な複合口縁の壺であるが、前者は凹線を施し、後者は無文である。その他の壺は口縁の形態から3類に大別した。

I類 口縁端部は傾斜し、下端部が突出する。（142）

II類 口縁上端部をくり上げ、凹線を施す。（139）

III類 口縁端部がそれほど肥厚しないもの。（140）

甕形土器（第37～38図 150～181）

口縁端部が肥厚するか、または上方に立上がり複合口縁化するもので、数条の凹線を持つものが主体となる。前者は口縁端部が直立するものと（160～163）、傾斜するもの（152～155）、その中间的なもの（156～159）に細分した。151は頸部に指頭圧痕突帯を持つ。

鉢形土器（第39図 182～184）

口縁部がやや外反し、端部に凹線を持つ。

器台形土器（第39図 185～189）

拡張された口縁端部に凹線を施す。脚部内面にはヘラ削りの跡が残る。

高环形土器（第39～40図 190～213）

高环形土器は、环部と脚部が接合しない個体が多いため、ここでは別個に扱った。

环部 环部は口縁端部の形態に着目した。

I類 口縁部が垂直に立上がり、端部が肥厚するもの。（191）

II類 口縁部が外反し、端部がやや突出するもの。（192）

III類 口縁部が外反し、端部に凹線が施されるもの。（193）

IV類 口縁が複合口縁化し、端部に凹線紋を施すもの。（194）

脚部 脚は柱部に櫛描文やヘラによる装飾を持つものが多く、脚台部は穴を穿つがほとんど貫通させないものがある（207・208）。脚台部は接地面端部を肥厚させ斜め上方に突出させるもので、内面はヘラ削り調整によって整形される。201は円盤充填技法によって作られているが、脚部から棒状工具によって押えられた痕跡を残す。

土器底部（第40～41図 214～254）

土器の底部は多量に出土しているが、それらの器種や時期については、詳細を知り得ないため、便宜上平底の底部片を弥生時代の土器として扱った。分類は外面調整を振り所としている。また平底状のものをa類。窪

み底状のものを b 類として細分した。

I 類 外面調整が磨きによるもの。

I a 類 (214~216)

II b 類 (217~219)

II 類 外面調整がハケによるもの。

I a 類 (220~231・233)

II b 類 (232)

III 類 外面調整がナデによるもの。

I a 類 (235~239)

II b 類 (240~243)

IV 類 器壁が風化して外面調整が不明のもの。

I a 類 (244~247)

II b 類 (248~253)

古墳時代の土器

土師器

土師器は壺形土器、甕形土器、高環形土器、器台形土器、楕・鉢形土器、竈、瓶形土器、土製品、ミニチュア土器などが出土した。全て古墳時代前期から後期にかけての資料である。当遺跡出土土師器は前期から後期の時期に相当するが、須恵器は、TK23~47併行の資料が中心であり、土師器についてもこの時期に相当する資料が多数を占めるものと思われる。しかし、多くの土器が谷部の流れ込みから層位が逆転した状況で出土したため、時期を推定することは困難な状況であった。そのため今回は出土品を公表するに止めて、編年作業は次年度以降の調査にゆだねたい。鳥取県西部では古墳時代中期以降の編年は陰田遺跡群での編年が試みられているが、当遺跡はその前段階に相当するものであり、編年を補強する上で重要な資料であるといえ、今後十分な整理・検討が行われることが望ましいと考えるものである。

壺形土器（第43~44図）

複合口縁形と、「く」の字口縁形の2種が存在し、小形壺や長頸壺などが出上している。完形に復するもののが少ないため、口縁部の形態に注目して分類した。また口縁部の形態だけでは壺と識別できないものもあるため、区別のつかないものは全て壺として扱っている。複合口縁の壺は、口縁部が外反するものと、直立ぎみに立上がり、端部外面に半裁竹管文を施す大型のものがある。外反するものは肩部に突帶を巡らすものがある。丸底壺は小形の精製品と、甕と同じような砂粒を含んだ胎土で作られたものの2種があり、さらにプロボーシヨンや口縁の形態によって細分が可能である。268のように体部が菱形を呈する壺は中期によく見られる器形である。注口土器275は、平底で体部側面に穿孔を持つ。色調は外面が橙褐色を呈し、内面は暗褐色である。外面には火を受けた痕跡がある。また全く同じものではないが、類似品が陰田遺跡群でも出土している。どのような用途に使われたものかは不明である。

甕形土器（第45~53図）

出土土師器の過半数を占める。大別すると複合口縁形のものと、「く」の字形口縁のものに分けられる。複合口縁形には完全なものと、退化したものがあり、今回の調査では後者の出土比率が高い。「く」の字形口縁は、体部内面を頭部に至るまでヘラ削りをし、鋭く外反せるものと、削りが頭部にまで至らずに、緩やかに外反するものがある。また口縁端部が先細りになるものと、細くならないものの2種に細分できる。330は布留系の甕である。口縁は真っ直ぐ外反し、端部を若干肥厚させる。外面はタテハケ後、ヨコハケし、肩部にヘラ削による逆「し」字状の線刻文を巡らす。体部には焼成後穿孔された穴がある。

高坏形土器（第54～57図）

坏部と脚部が接合する個体が少ないが、有段で大きく外反する坏部をもつものと、椀形の坏部を持つものに大別できる。また脚部のみであるが、低脚坏も含んでいる。421のように坏と脚の接合部分に脚側から穿たれた深い穿孔痕を残すものがあり、ろくろ整形の可能性も推測される。

器台形土器（第58図 517～519）

鼓形器台が3点出土した。いずれも風化が著しく調整などは読み取れない。

椀・鉢形土器（第58図）

出土量は多くないが胎土に水漉されたような緻密なものと、砂粒を含むものがある。胎土に関しては高坏と同様の傾向を示す。514は内面に放射状の暗文がみられる。

土製品（第59図）

紡錘車、土鍤、ミニチュア土器がある。538はミニチュアの高坏。坏部との接合部には脚部側から工具で押された穴が残る。実物の高坏の製作技法を忠実に模したものであろう。539は、両端を欠く棒状の土製品である。ミニチュア高坏の脚部であろうか。540は、ミニチュアの器台か。精巧な作りである。541～543も器種は不明だが、ミニチュアの器台の可能性がある。

瓶形土器・移動式竈（第60図）

551～553は竈の口縁部か。551は口縁部内面に粘土を縦に張り付けて突帯状に肥厚させる。山陰型瓶形土器は2点、吊り手部と接合部が出土している。竈は取っ手部が多く出土したが接合する個体が少なく詳細を知り得なかった。また移動式竈も脚部片が多く出土したが、接合できたものは1点にすぎなかった。556は移動式竈である。焚口上半部に庇が巡る。

古墳時代以降の土師器（第59図 544～549）

数は少ないが、底部に糸切り痕を持つ坏や、格子目叩きによる須恵質壺体部片や瓦質土器が出土している。明確な時期は不明であるが、平安時代から中世に相当する。南北朝期に存在したとされる「長須那村」に関わる遺物であろうか。

須恵器　須恵器は坏類・高坏・脚付短頸壺・甌・器台・甌らが出土した。時期差はあまり見られず、古墳時代中期のものである。今回出土した須恵器は三辻利一氏に胎土分析を依頼した。その結果、本遺跡の須恵器の特徴として大きく3分類（B・C・A）することができた。そしてこれらに生産地不明及び分析を行っていないものを加えて次のように分類を行った。

B類・・・本遺跡の須恵器の大半を占めるもので、同一の窯のもので、大井の窯の製品の分布領域に近いもの。

C類・・・Bとは違う恐らくは地元の窯の製品と思われるもの。

A類・・・陶邑からの輸入品の可能性が大きいもの。

D類・・・上記の分類以外のもの

E類・・・分析を行っていないもの

坏 壺蓋（第61～63図 No.577～632） 形態の特徴としては若干の例外はあるものの天井部は1/3まで削りを施し、積もしっかり残る。口縁端部には段が残る。

胎土分析分類はB類（No.557～586）・C類（No.587～590）・A類（No.591～598）・D類（No.599～609・631）・E類（No.610～629・632）である。

坏身（第63・64図 No.633～674） 返りはほとんどが内傾し、その端部には段が残る。底部は1/3まで削りを施す。

胎土分析分類はB類（No.633～647）・C類（No.648）・A類（No.649～653）・D類（No.654～661）・E類（No.662～674）である。

高坏 蓋（第64図 No.675～680） ボタン状のつまみを有するもので天井部1/3には削りを施す。口縁端部はNo.677以外は段を有す。

瓦蓋高坏（第65図 No.681・685・694～697） 壺部はいずれも底部外面1/3に削りを施し、口縁端部はNo.695以外は段をなす。脚部はNo.681は「はの字」に開きカキ目を施す。No.685は裾部の丸いタイプで、台形の透かしを施す。No.694～696は裾部に段を有し、台形及び三角形の透かしを施す。

無蓋高杯（第65・66図 No.698-704）　杯部は大きく外反する口縁をもち、杯部中央若しくはやや上方に凸線を施し、その下には波状文を施す。脚部はいずれも裾部に段を有し、透かしのあるもの、カキ目を施しているものがある。

腹部（第65・66図 No.682-684・686-693・705-717）　No.682-674・686-687は「はの字」に聞くタイプで、端部は面をなすか、No.682-684のように段をなすものもある。カキ目及び円孔を施しているものもある。No.690-693は、裾部を丸いタイプで、端部は垂直あるいは内傾気味に丸く收め、No.693は端部は面をなし、やや「ハの字」に広がる。No.705-715は裾部に段を有するタイプで、台形あるいは三角形の透かしやカキ目が施されているものもある。No.716-717は二段の透かしが残るものである。

脚付短頸壺（第66図 No.718）　裾部に段を有する脚をもった短頸の壺である。脚部には三角形の透かしを施す。

越（第66図 No.719-726）　胴部最大径より口縁が大きく聞くものでNo.719-720の端部は段をなす。頸部にはNo.723のカキ目以外は波状分を施す。肩部は球状にちかく1/2かやや上に円孔を穿ち、No.720は若干上になるが、円孔の周囲に貝殻文あるいは波状文を施す。

器台（第67図 No.727-728）　大型のものでNo.727は器部で凹線を施す。No.728は脚部で四段の透かしが残る。両者は同一と思われる。

甕（第67-70図 No.729-747）　口縁部はNo.742-745は逆ハの字に大きく聞く口縁部で、端部は平坦をなす。No.747は直立する頸部をなし恐らくはこのまま直立した口縁部を持つと思われる。これ以外の口縁部は緩やかに外反しながら開き、端部は下方あるいは上方または両方に屈曲させる。No.732-738-744は無紋であるがこれ以外は二段あるいは一段の波状文帶を施す。

石製品

石斧（第71・72図）　No.748-749は打製石斧である。No.750-765は磨製石斧で、完形品ではなくNo.750-751・753-754は基部、その他は刃部で鉈刃を呈す。中でもNo.761は比較的大型のものである。No.766は未成品か。

叩石（第73図）　No.767-771　叩石で中央部が若干細くなり握りやすくなっている。

砥石（第73・74図）　No.722-776は砥石で、内No.772-774-775は緑色凝灰岩である。

石皿（第74図）　No.744はかけているが、石皿と思われる。

敲石（第74・75）　No.778-780は敲石で、中央部がへこんでいる。No.780は調のようものが付いていたと思われる。

玉類（第75図）　No.782-783は勾玉で前者は緑色めのう、後者は水晶である。No.784-787は管玉、No.788はなつめ玉、No.789-793は十製の白玉、No.794-799はガラス製の小玉である。No.800は垂飾品か？

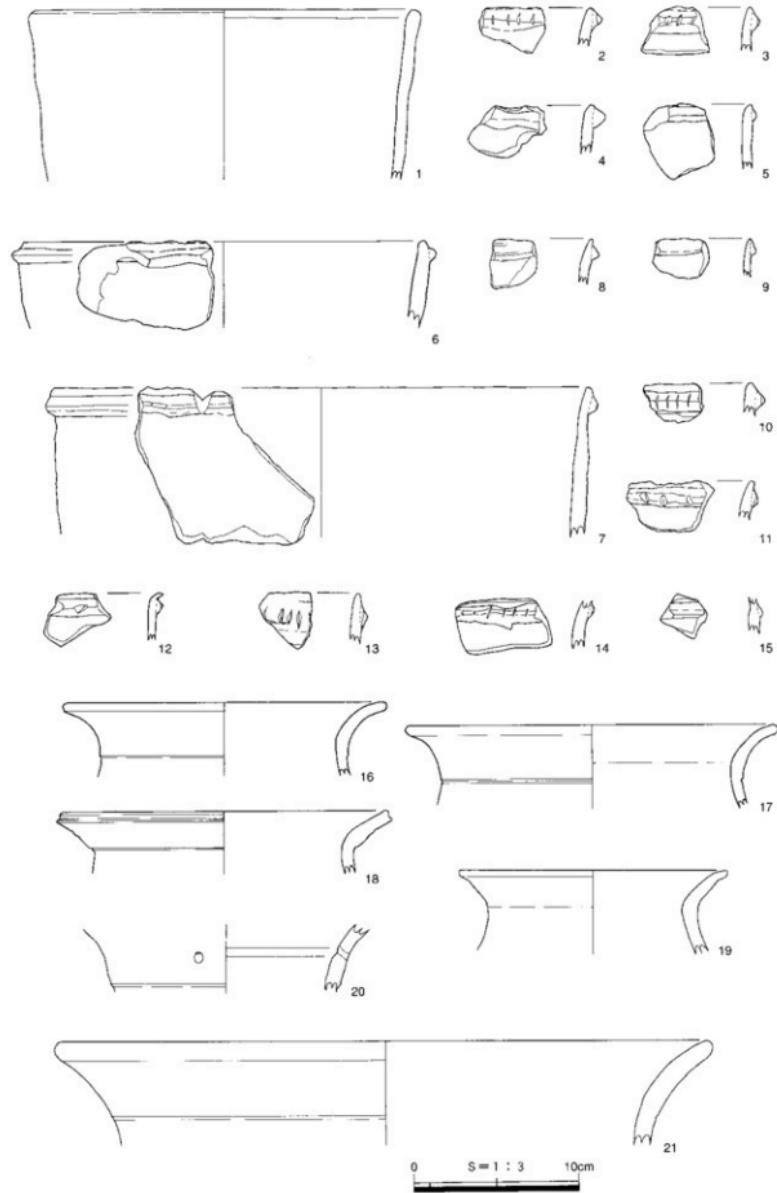
石鏡（第76-79図）　全部で72個出土している。No.801-844は黒耀石製で、No.845-872はサスカイト製である。

その他（第80図）　No.873-874は石匙で前者はサスカイト製、後者は黒耀石製である。No.876は削器、No.878-879はキリで黒耀石製である。No.875-877は未成品である。

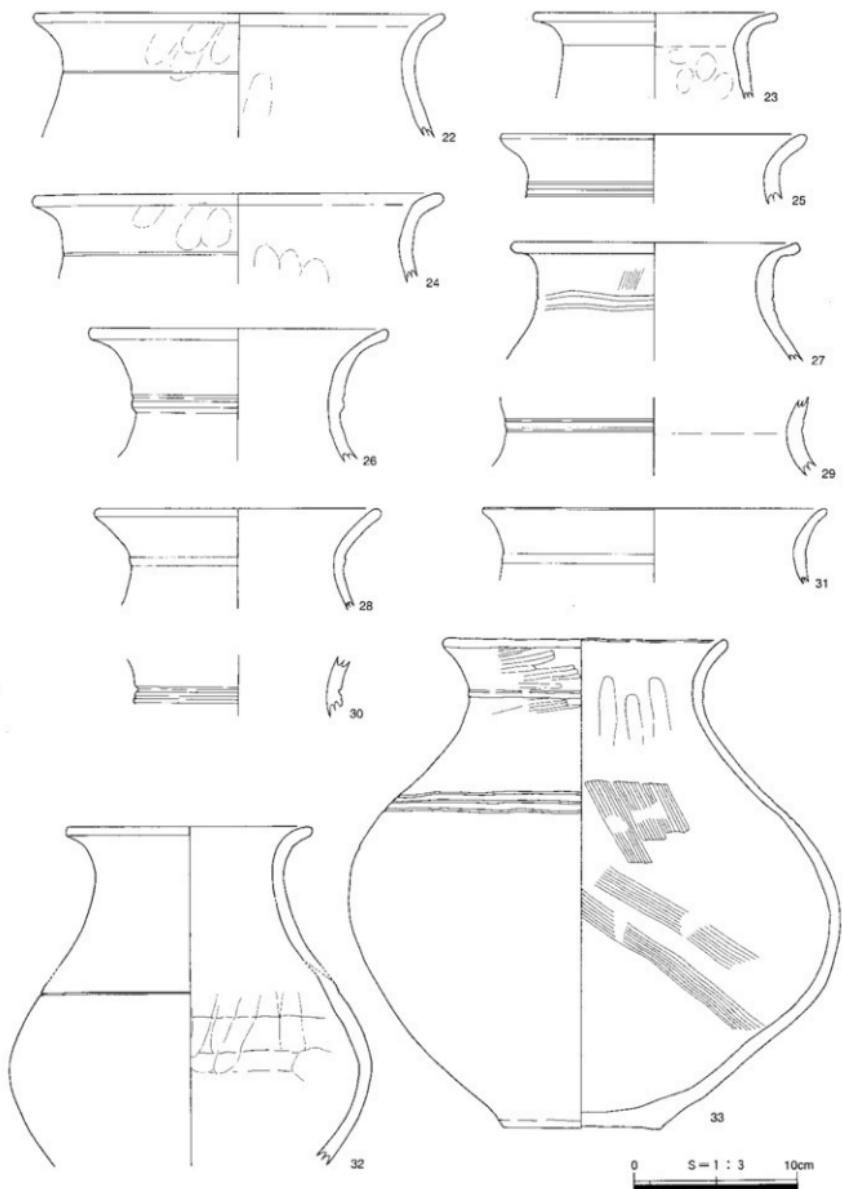
小結

今回の調査で、稻作等を行った生産圏である長砂第4遺跡及びこれらに伴うと思われる住居等のある居住圏である長砂第3遺跡が同時に確認されたことで一時期ではあるが一連の生活圏を確認することができた。

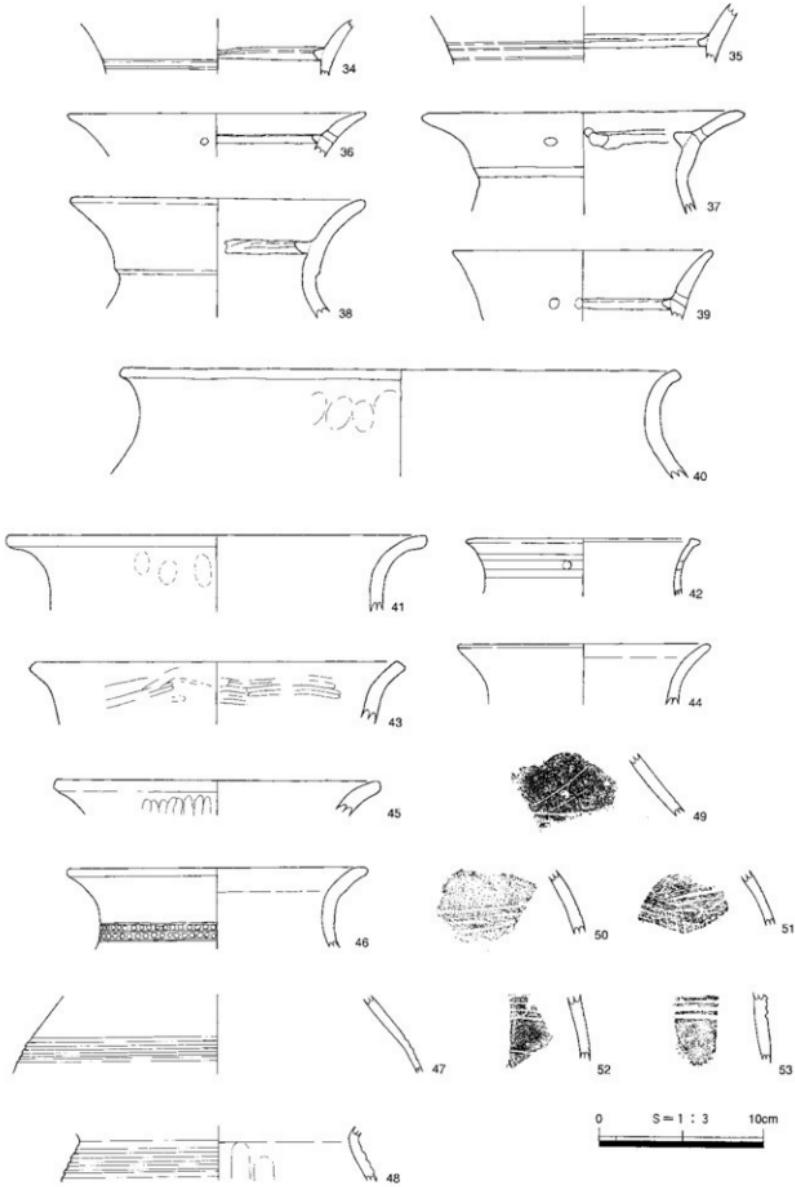
しかしながら今回出土した遺跡をみると弥生時代前期から古墳時代中期にかけてと時期幅が比較的あるのに對して、今回長砂第3遺跡で検出した遺構は古墳時代前期から中期と時期的幅にかなりの相違がみられる。また今回長砂第3遺跡で検出した遺構の時期の遺物だけでも、遺構数と比較してその量は遙かに多いと思われる。また遺物のほとんどは流れ込んで山裾に溜った状態で出土していること、長砂第4遺跡においては弥生時代と思われる水路跡及び稻作が営まれていたと思われる分析結果も確認されていることからも、今回検出した以上の遺構の存在が十分に考えられる。長砂第3遺跡の隣接地も同様な地形をしており、今後調査する予定も決まっているということで、新たな遺構の検出及び今回の調査で解明されなかつた部分が明らかになることを今後の調査に大いに期待するところである。



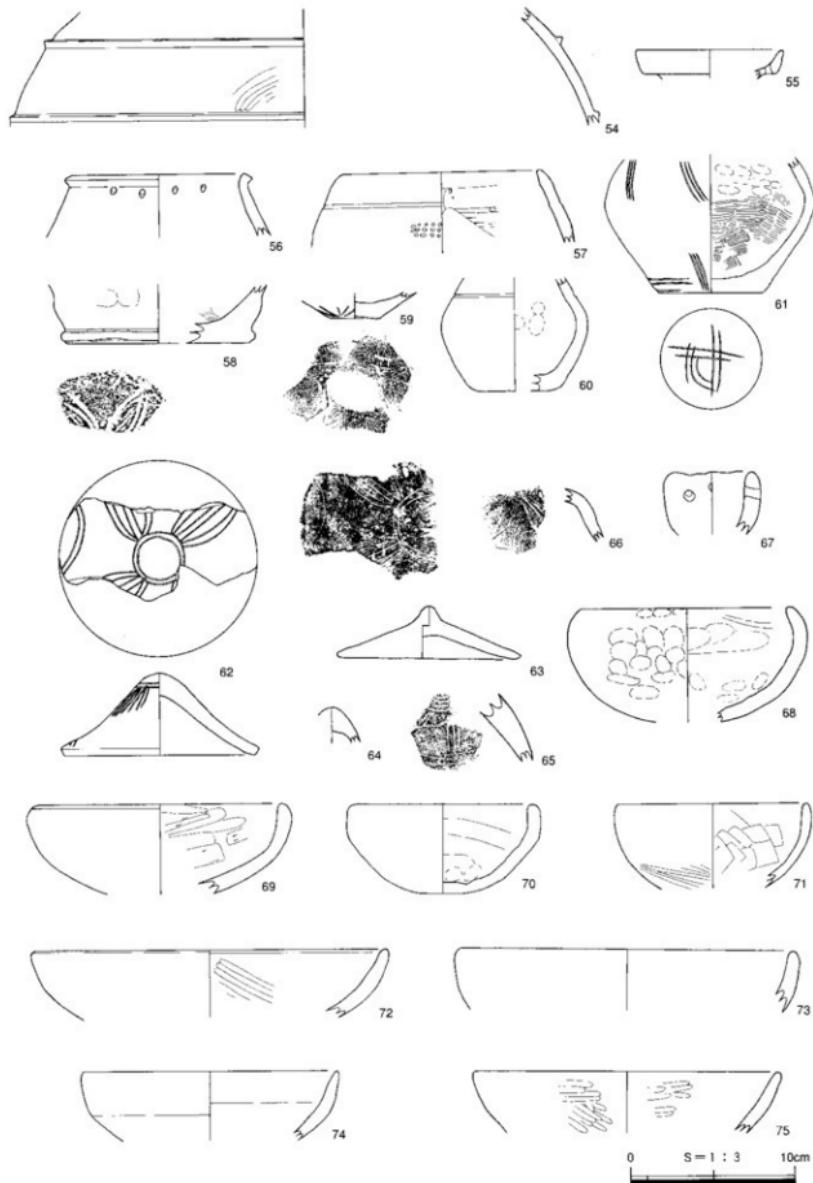
第26図 繩文・弥生土器実測図



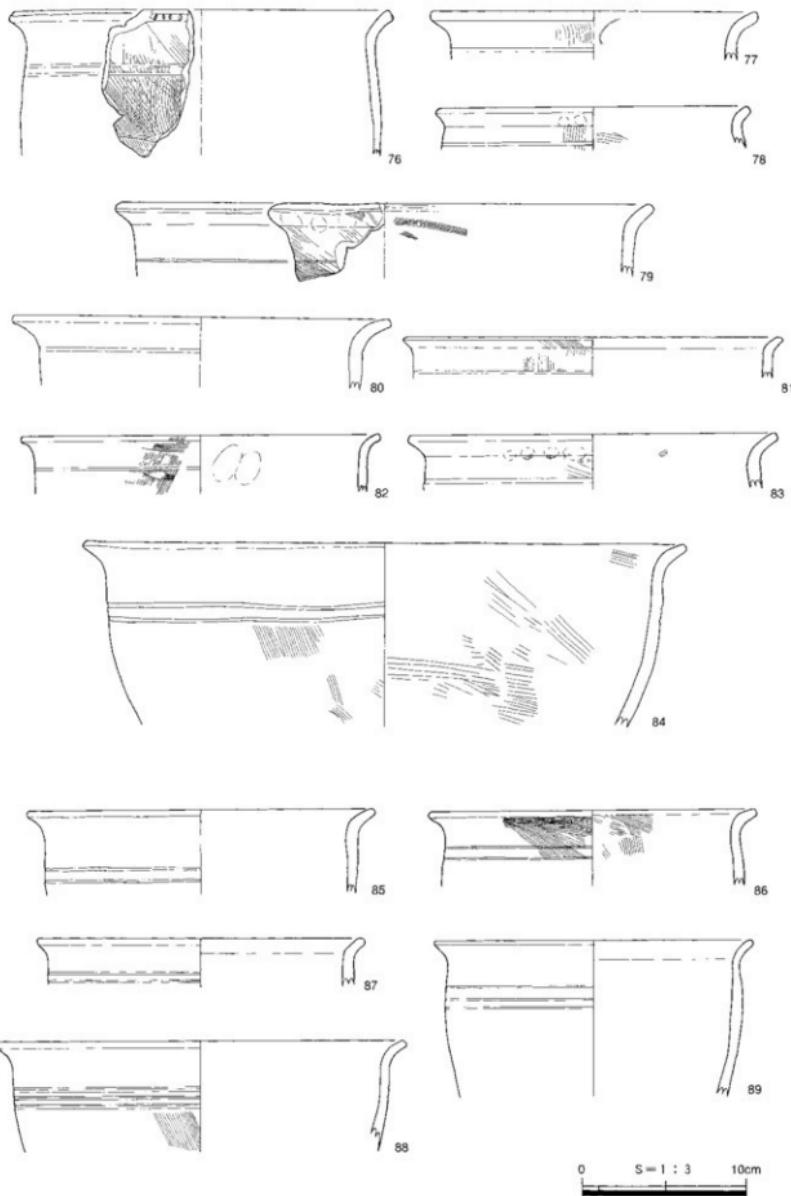
第29図 弥生土器実測図



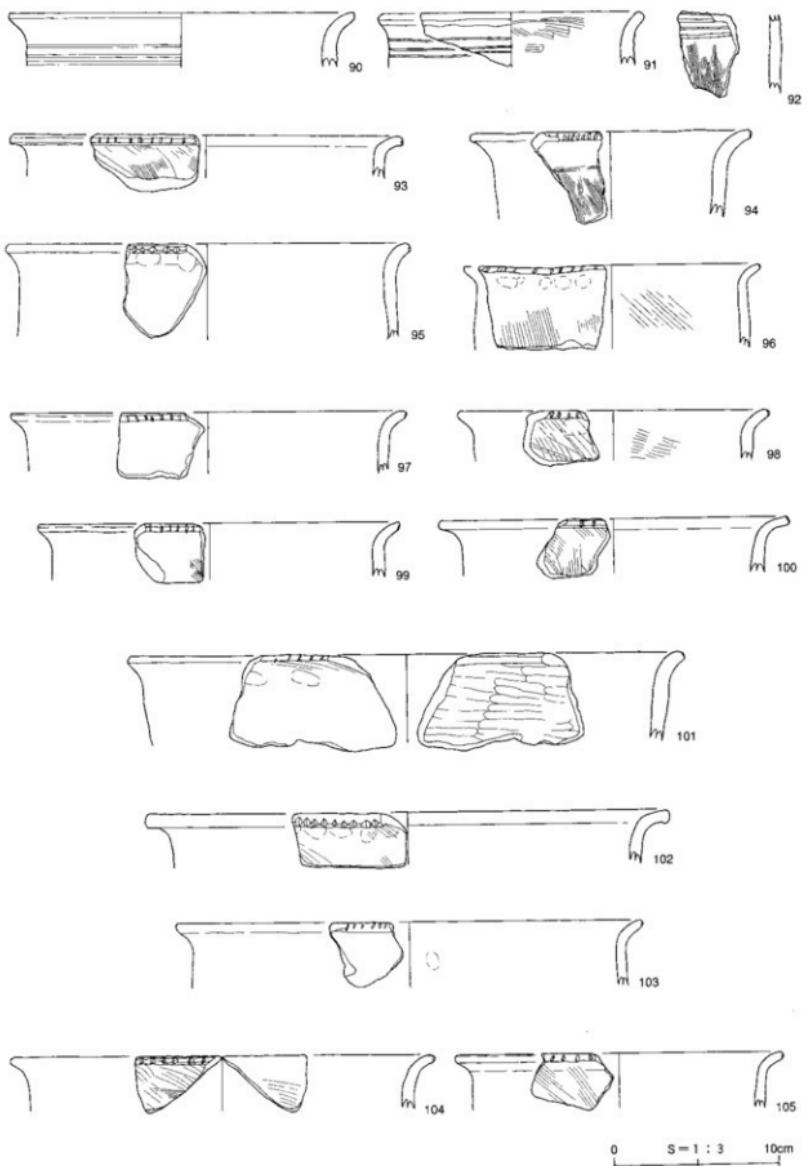
第30図 弥生土器実測図



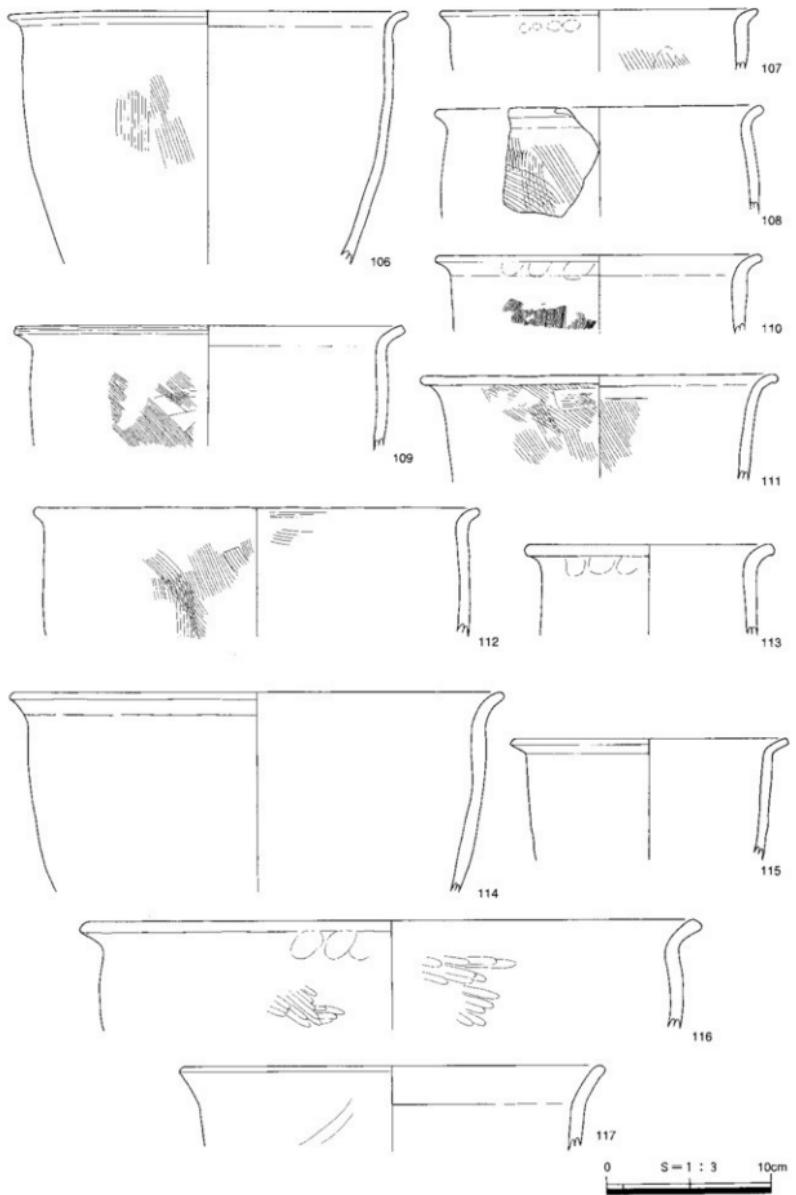
第31図 弥生土器実測図



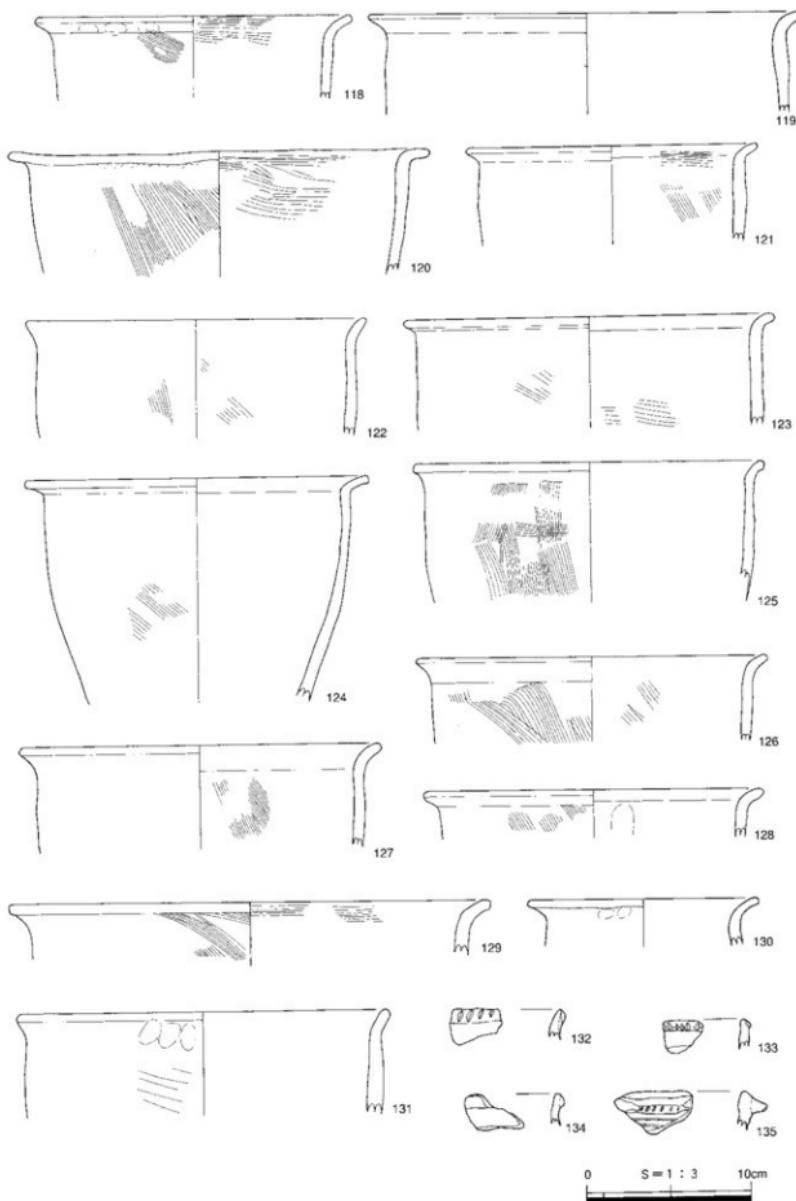
第32図 弥生土器実測図



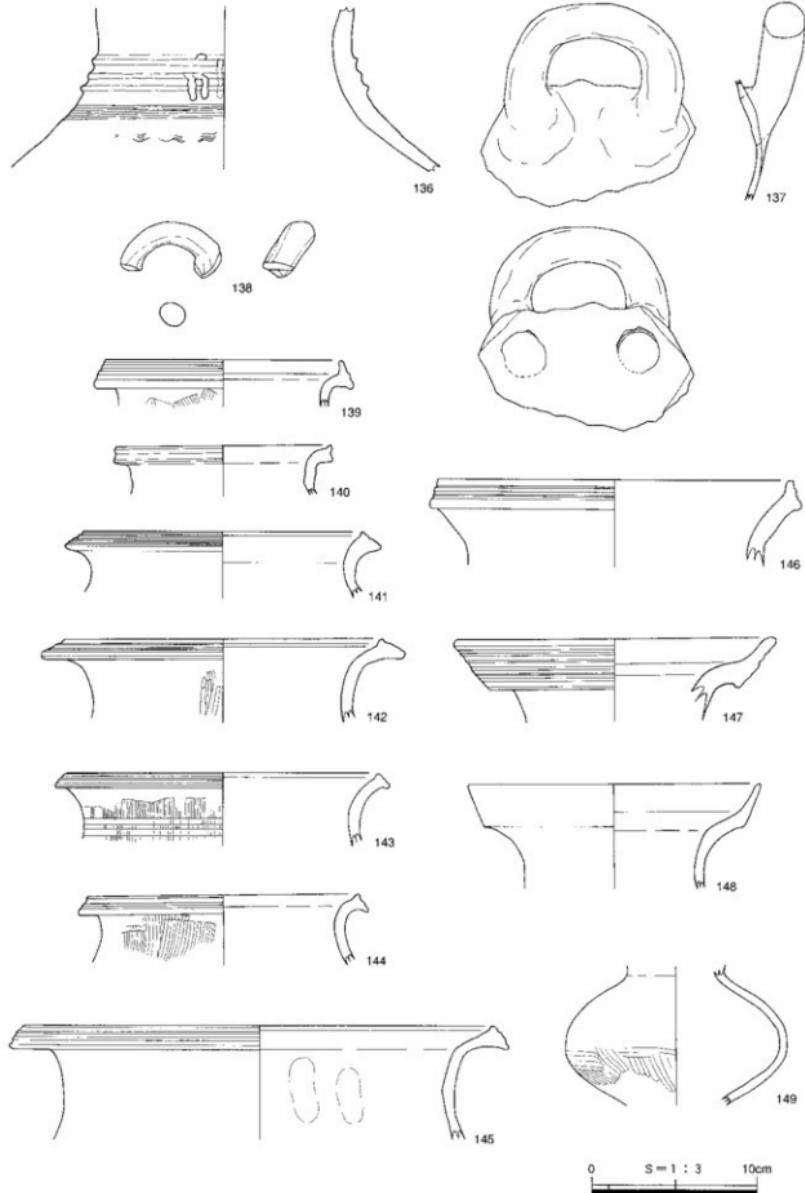
第33図 弥生土器実測図



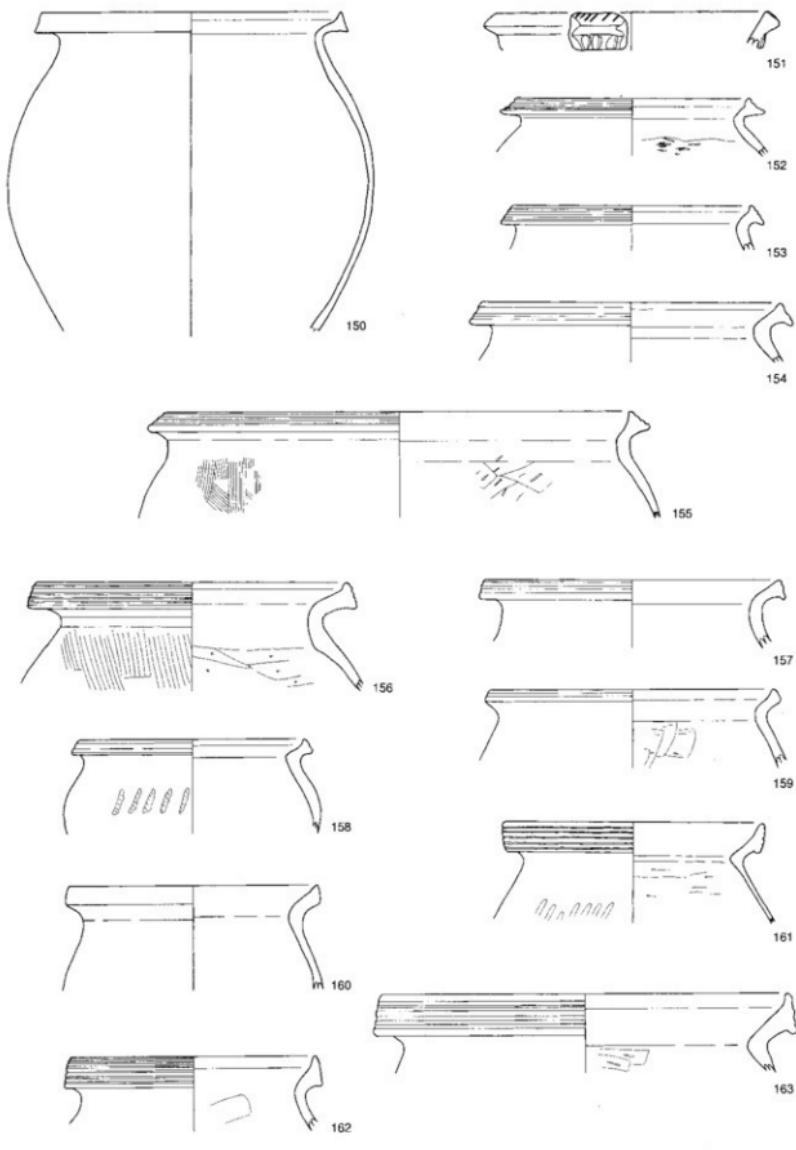
第34図 弥生土器実測図



第35図 弥生土器実測図

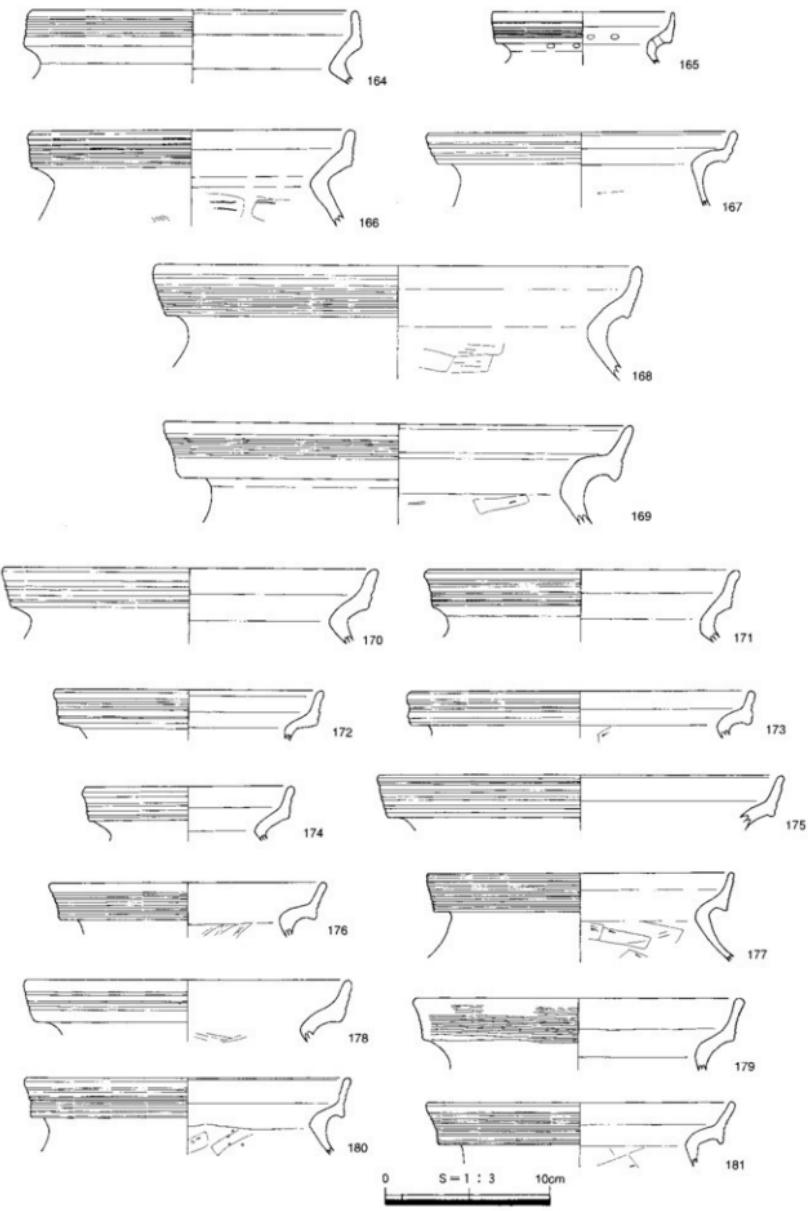


第36図 弥生土器実測図

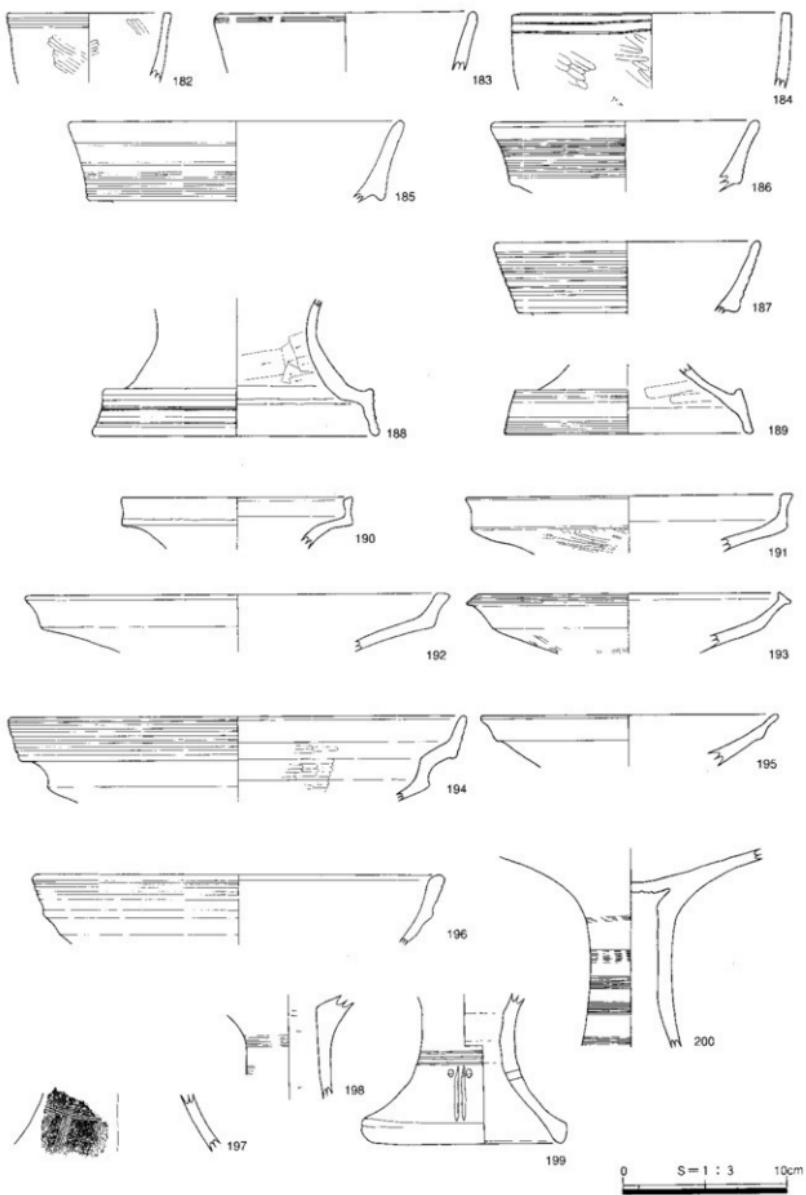


0 S = 1 : 3 10cm

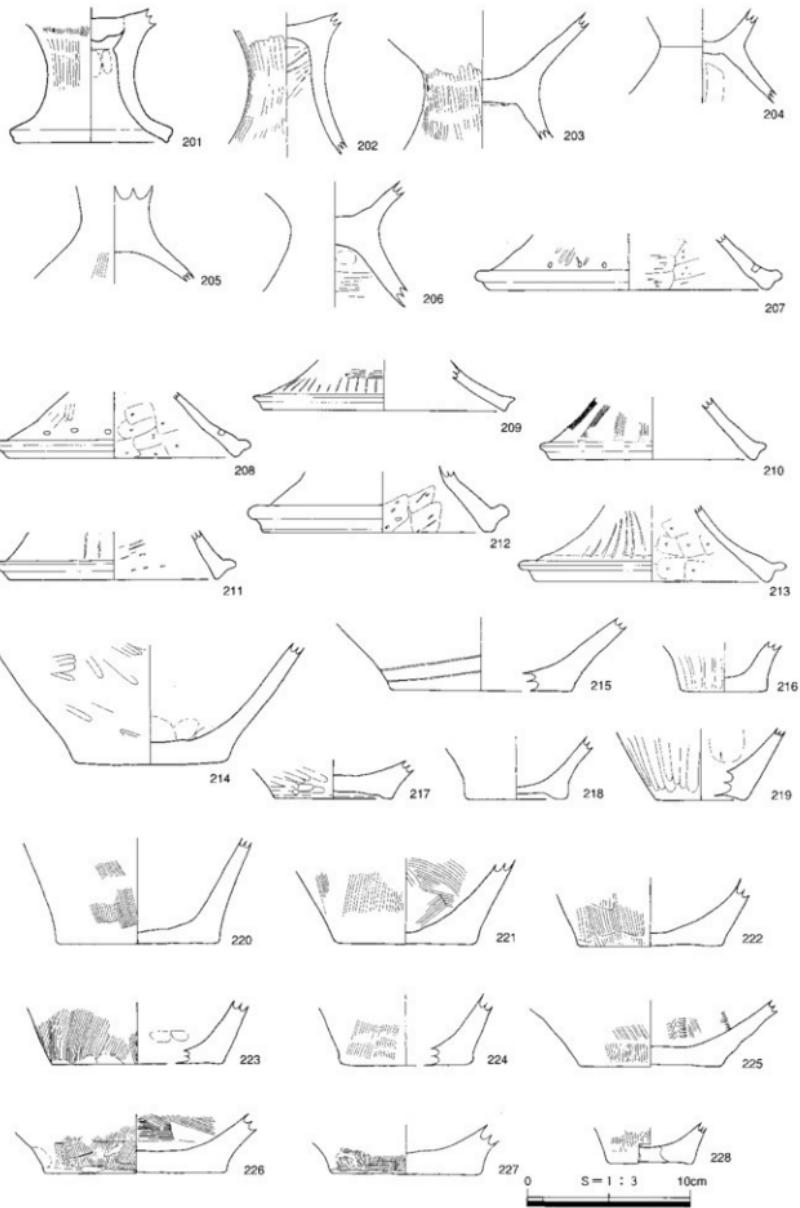
第37図 弥生土器実測図



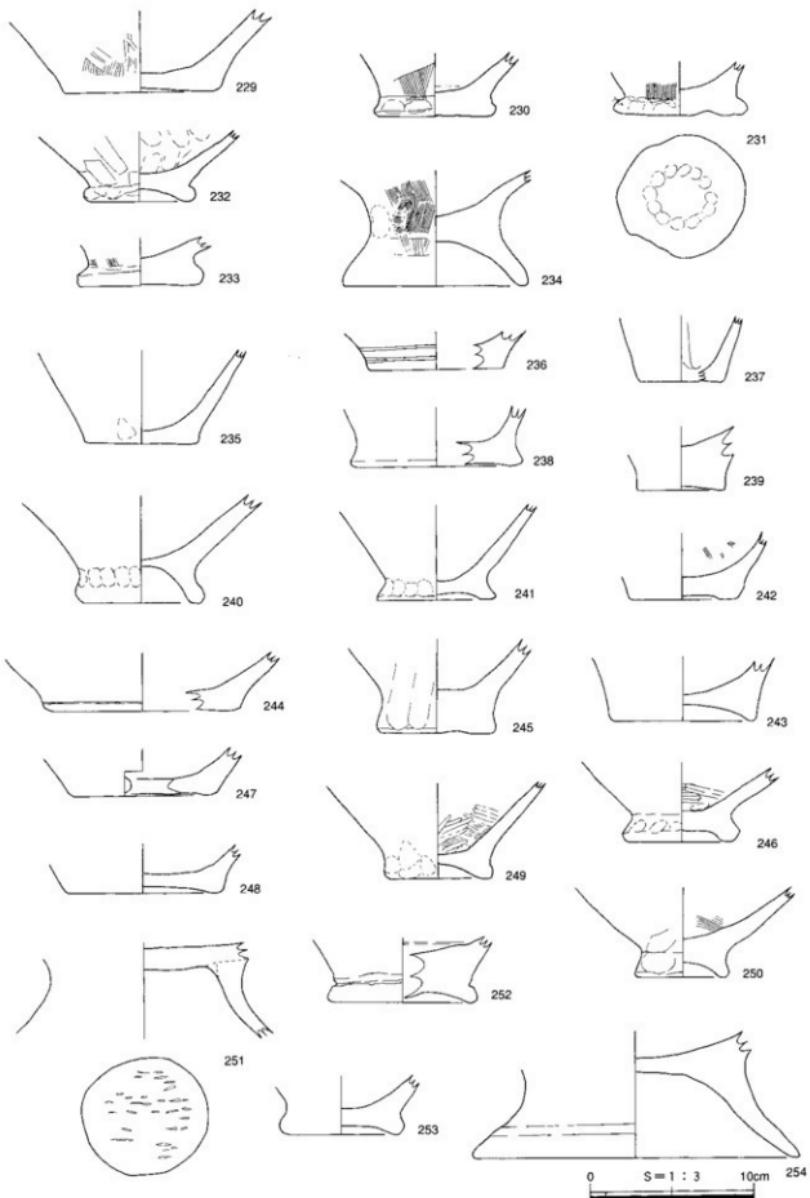
第38図 弥生土器実測図



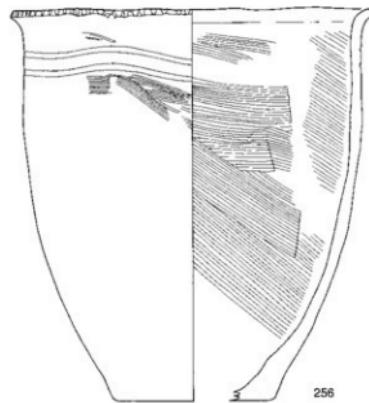
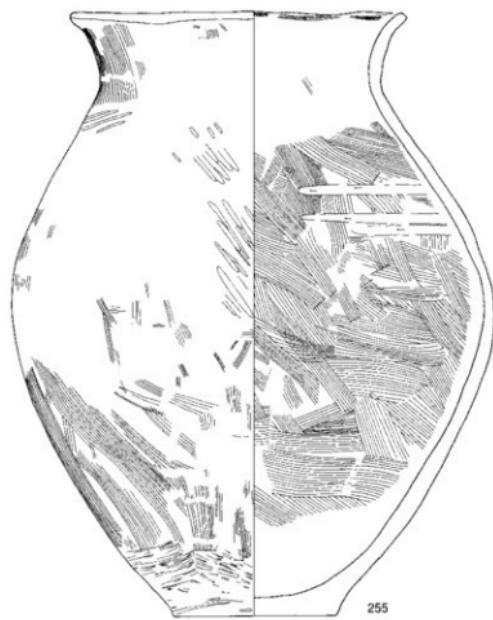
第39図 弥生土器実測図



第40図 弥生土器実測図



第41図 弥生土器実測図

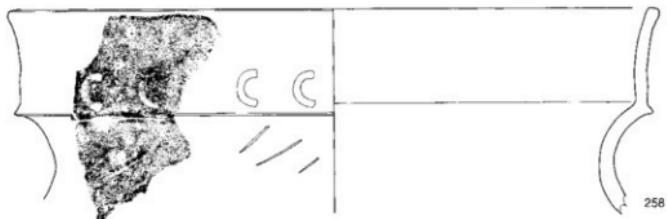


0 S = 1 : 3 10cm

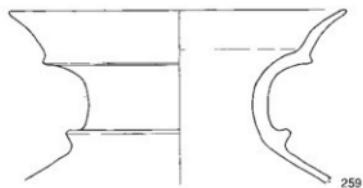
第42図 弥生土器実測図



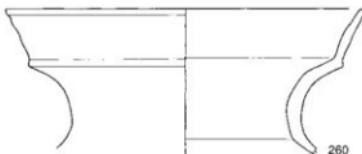
257



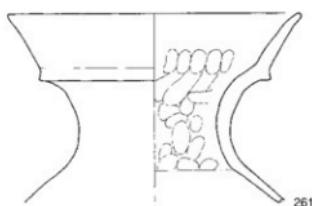
258



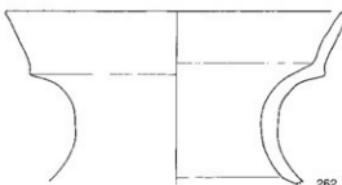
259



260



261



262



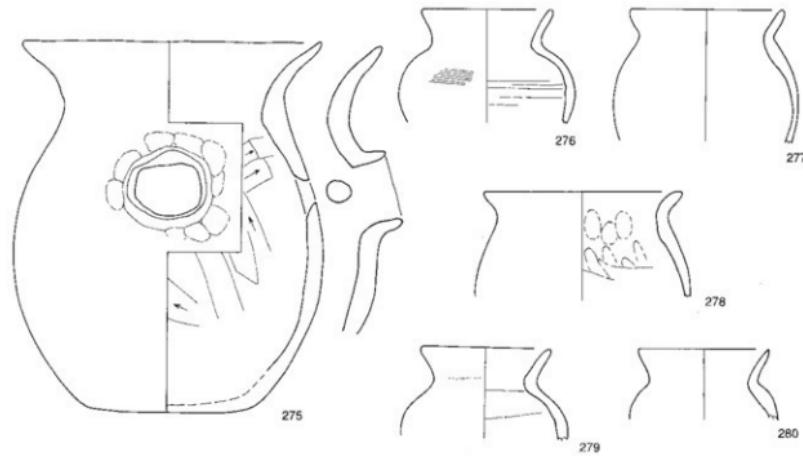
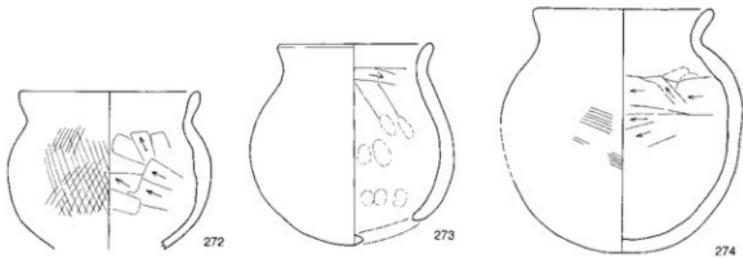
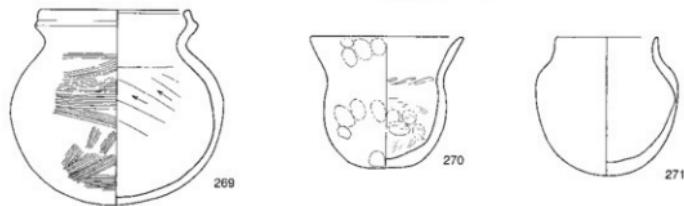
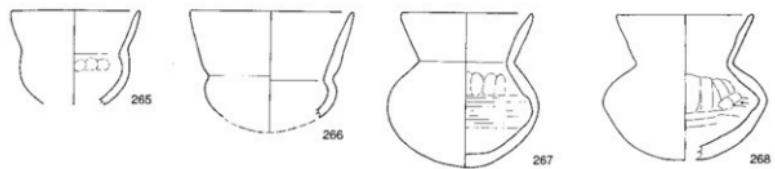
263



264

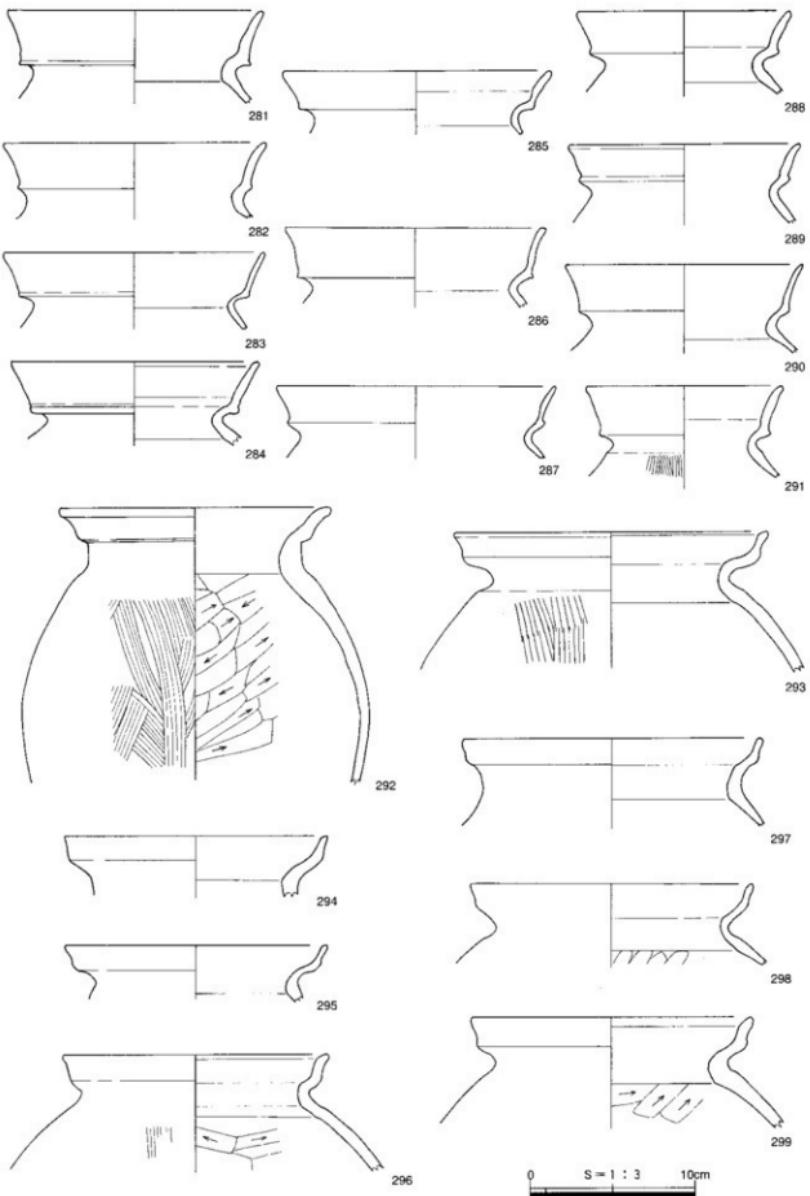
0 S = 1 : 3 10cm

第43図 土師器実測図

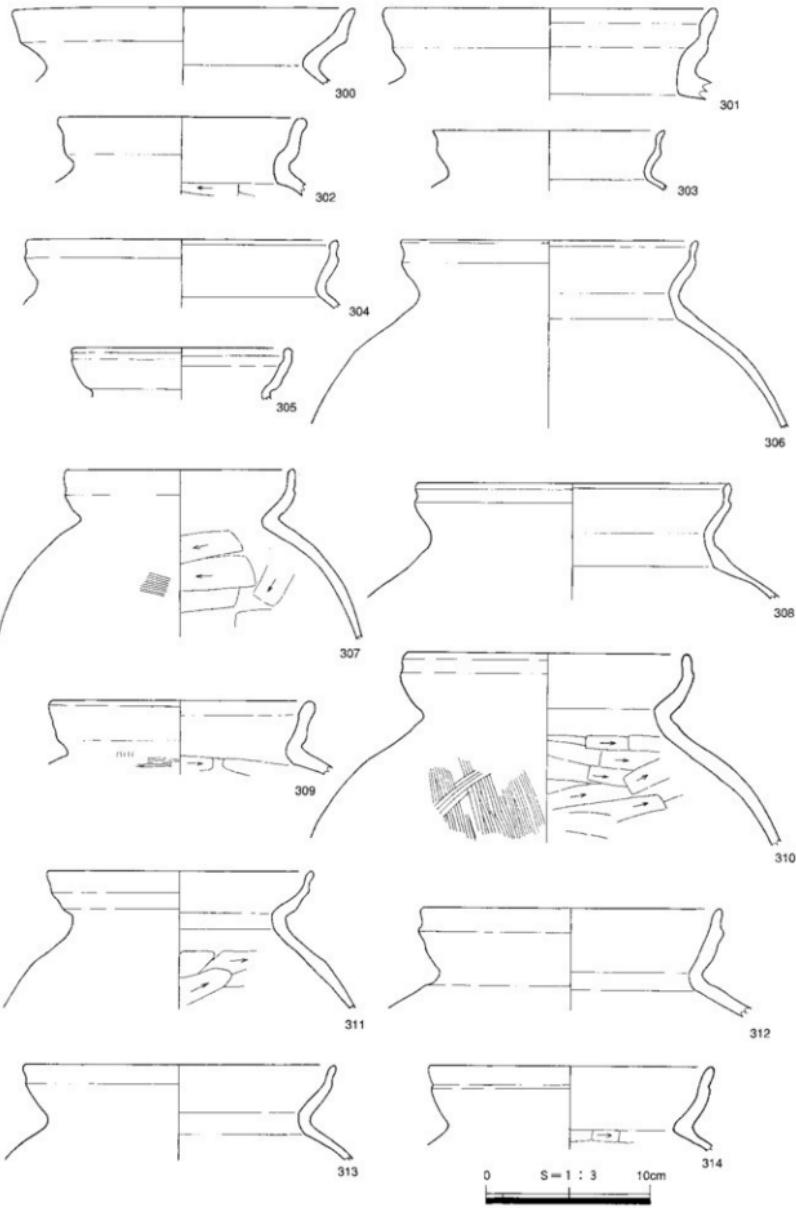


0 S = 1 : 3 10cm

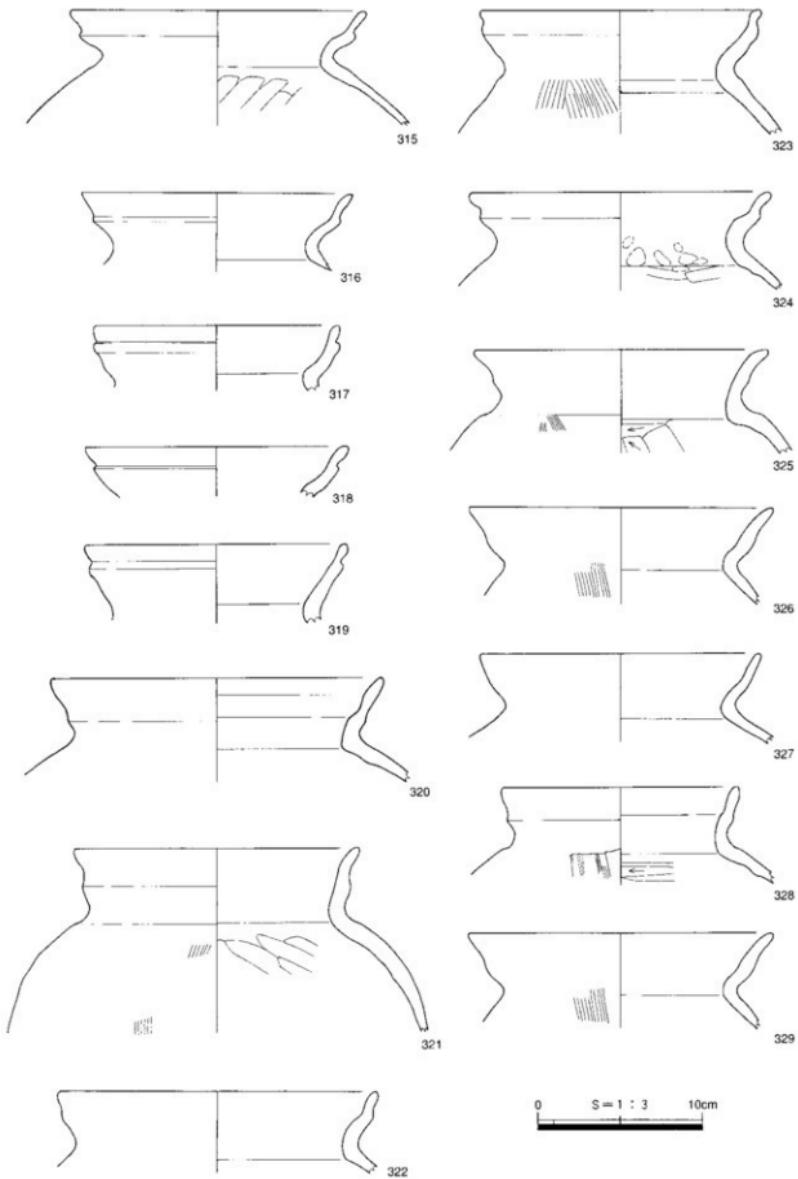
第44図 土師器実測図



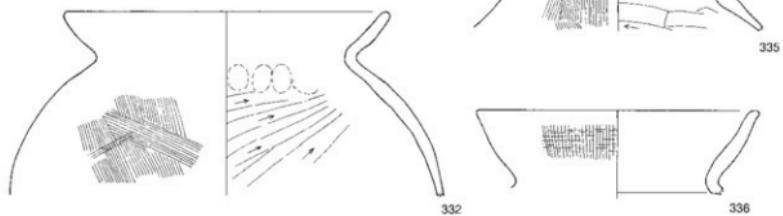
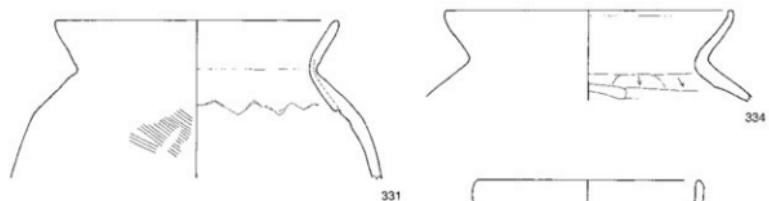
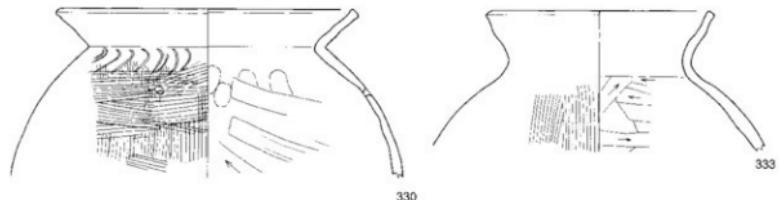
第45図 土師器実測図



第46図 土師器実測図



第47図 土器実測図

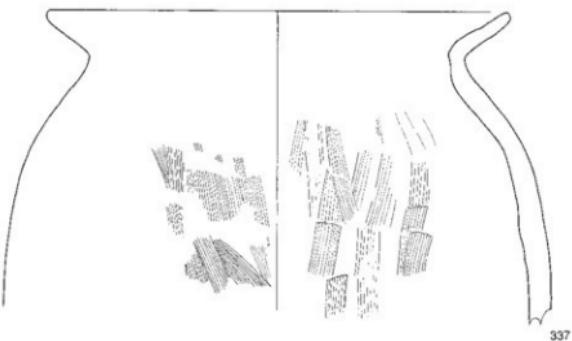


334



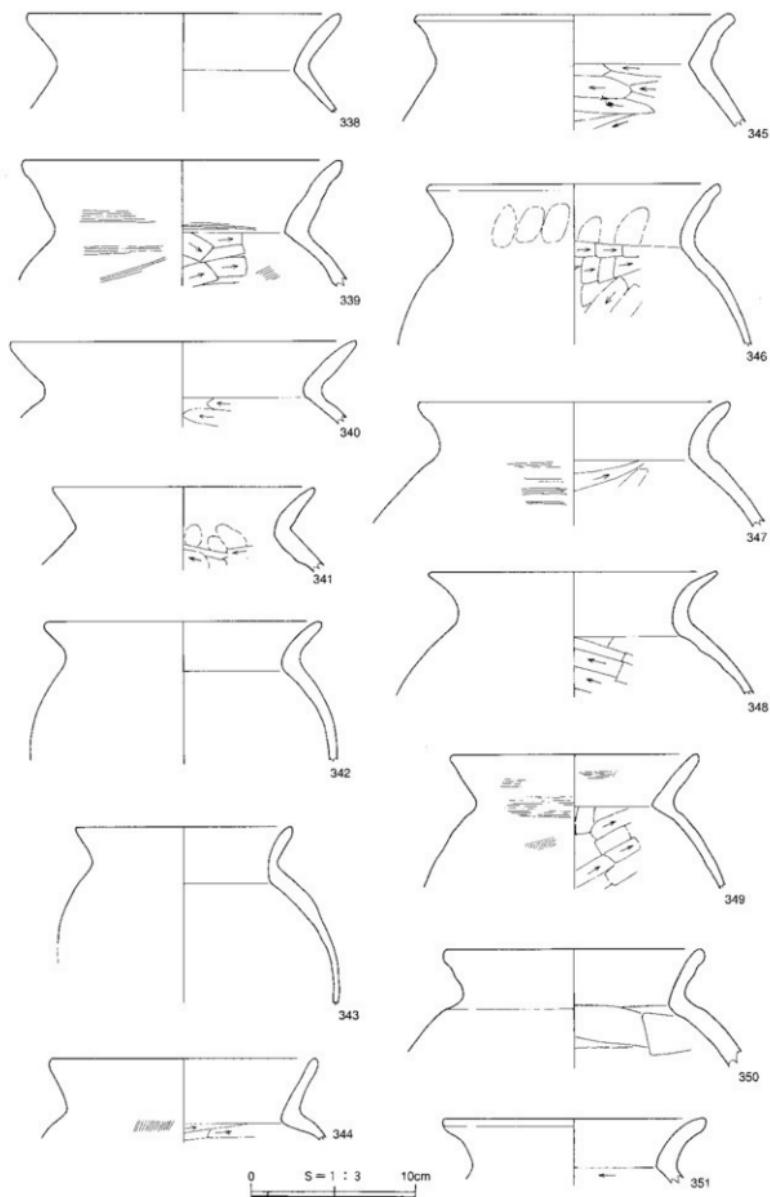
336

336

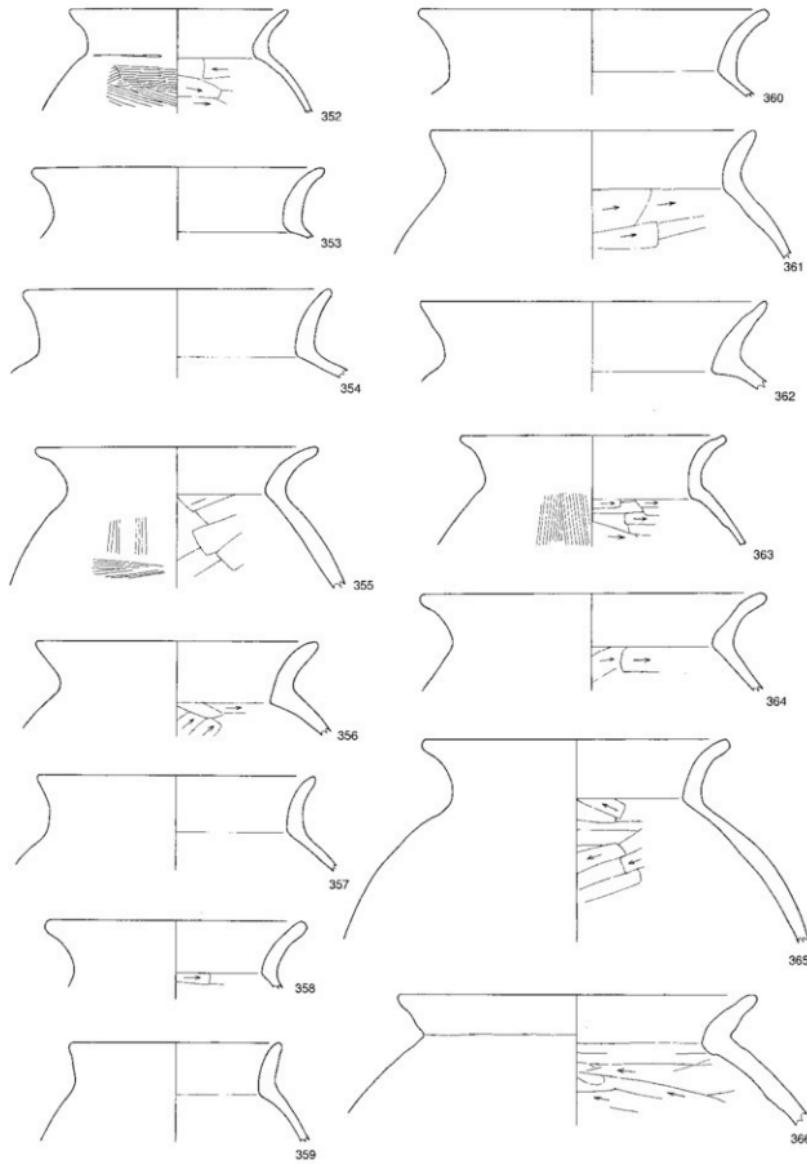


0 S = 1 : 3 10cm

第48図 土師器実測図

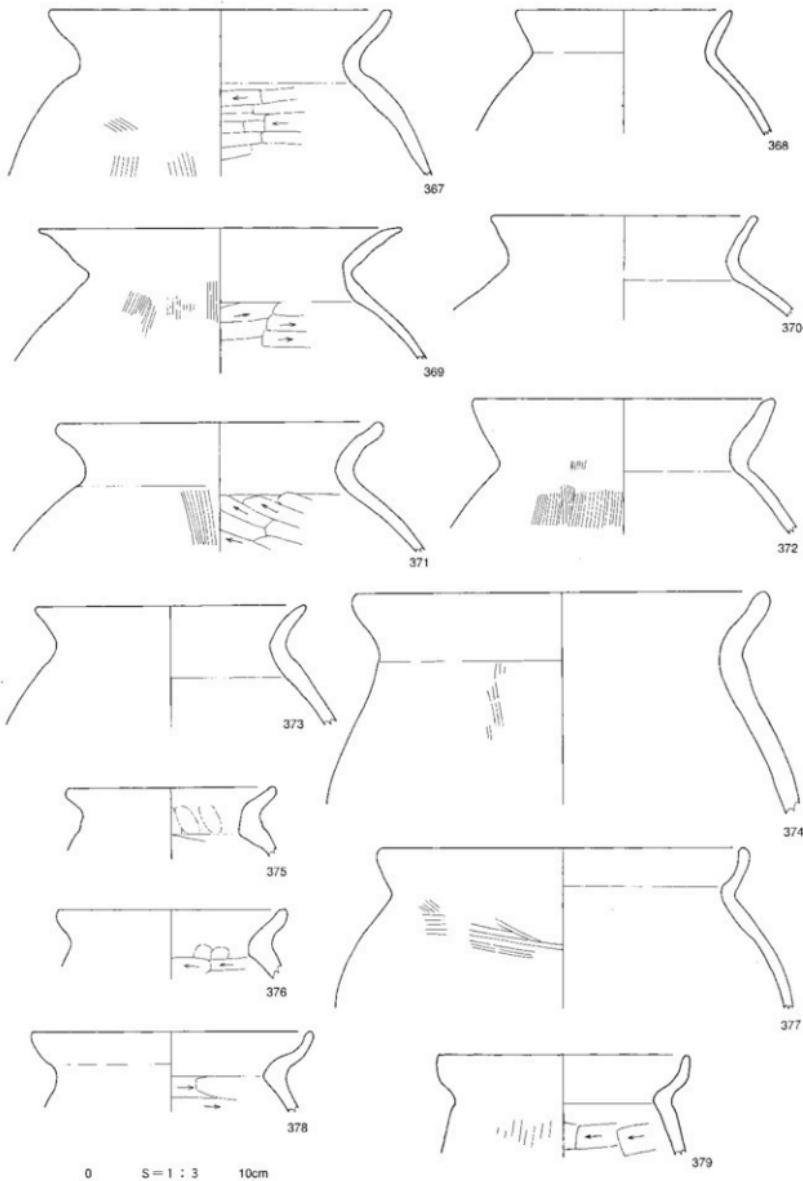


第49図 土器実測図

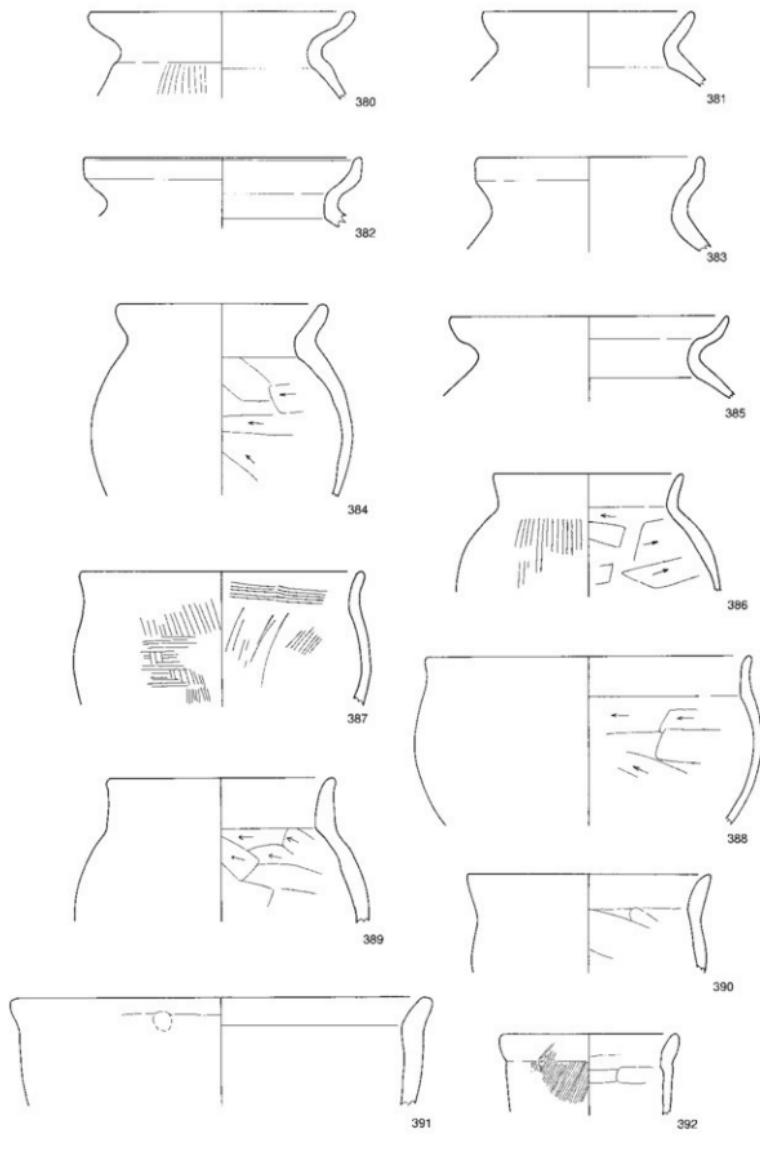


0 S = 1 : 3 10cm

第50図 土器実測図

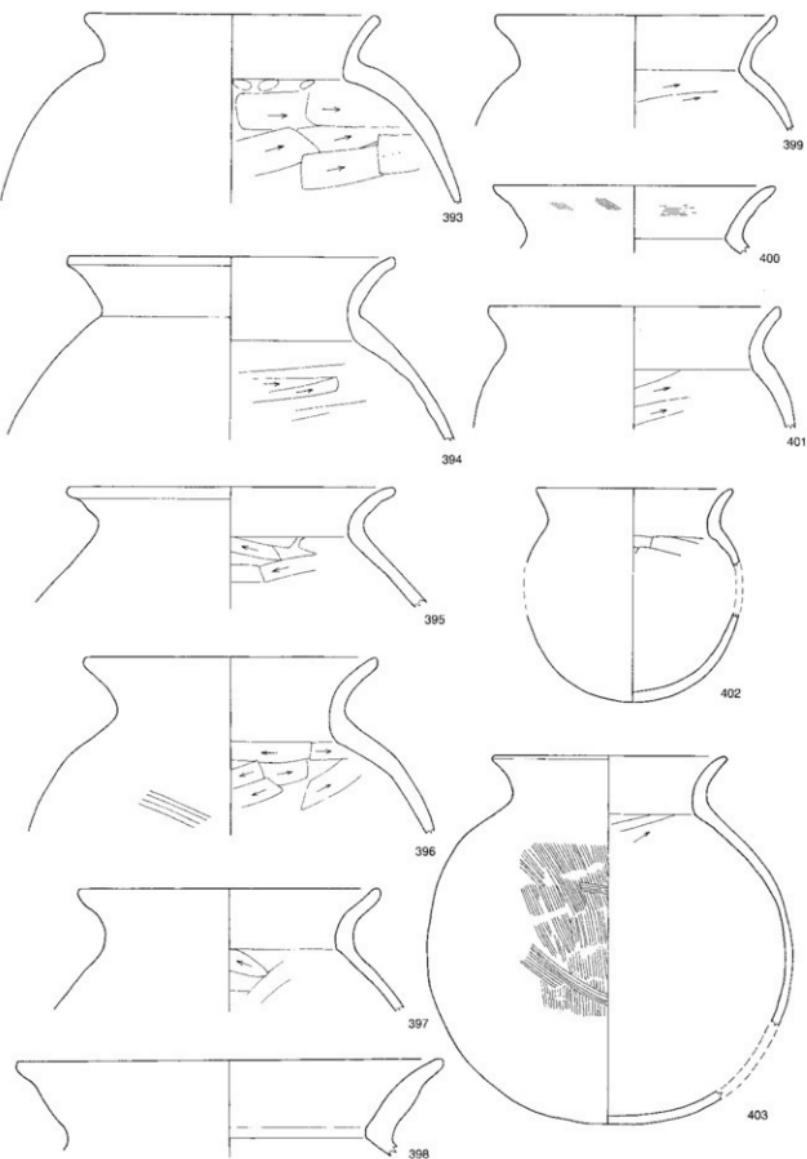


第51図 土器実測図



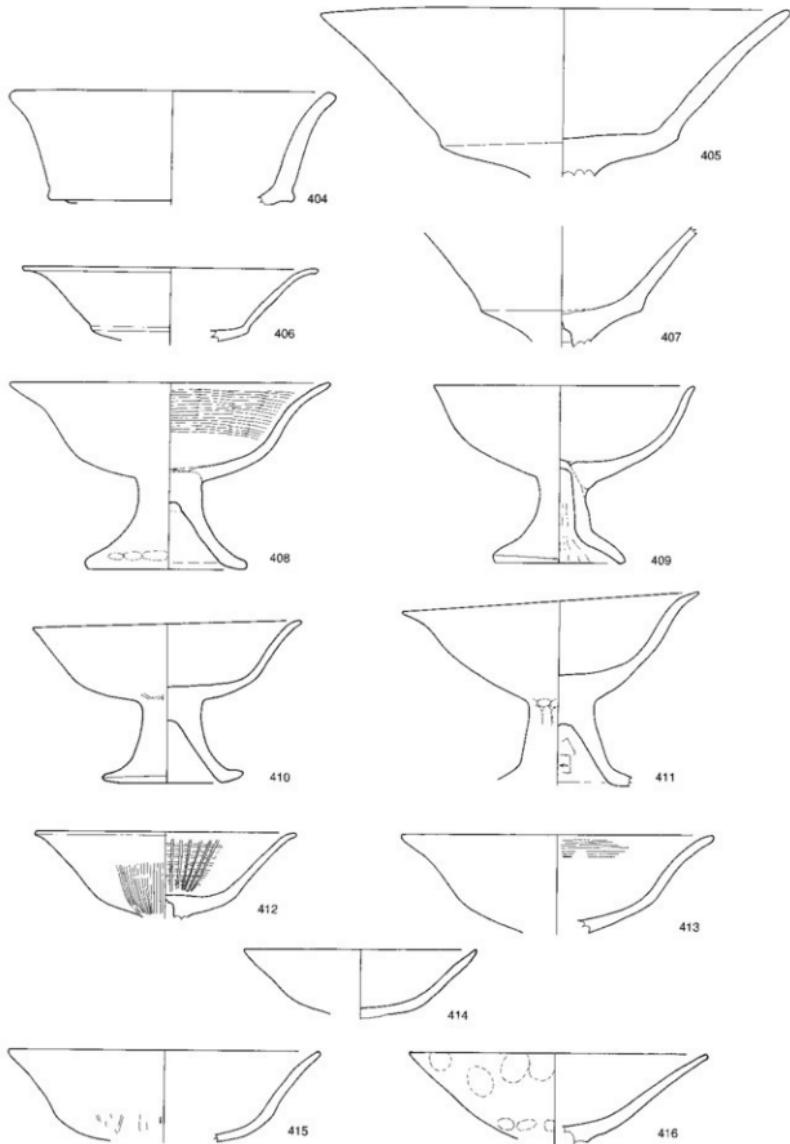
0 S = 1 : 3 10cm

第52図 土器実測図



第53図 土器実測図

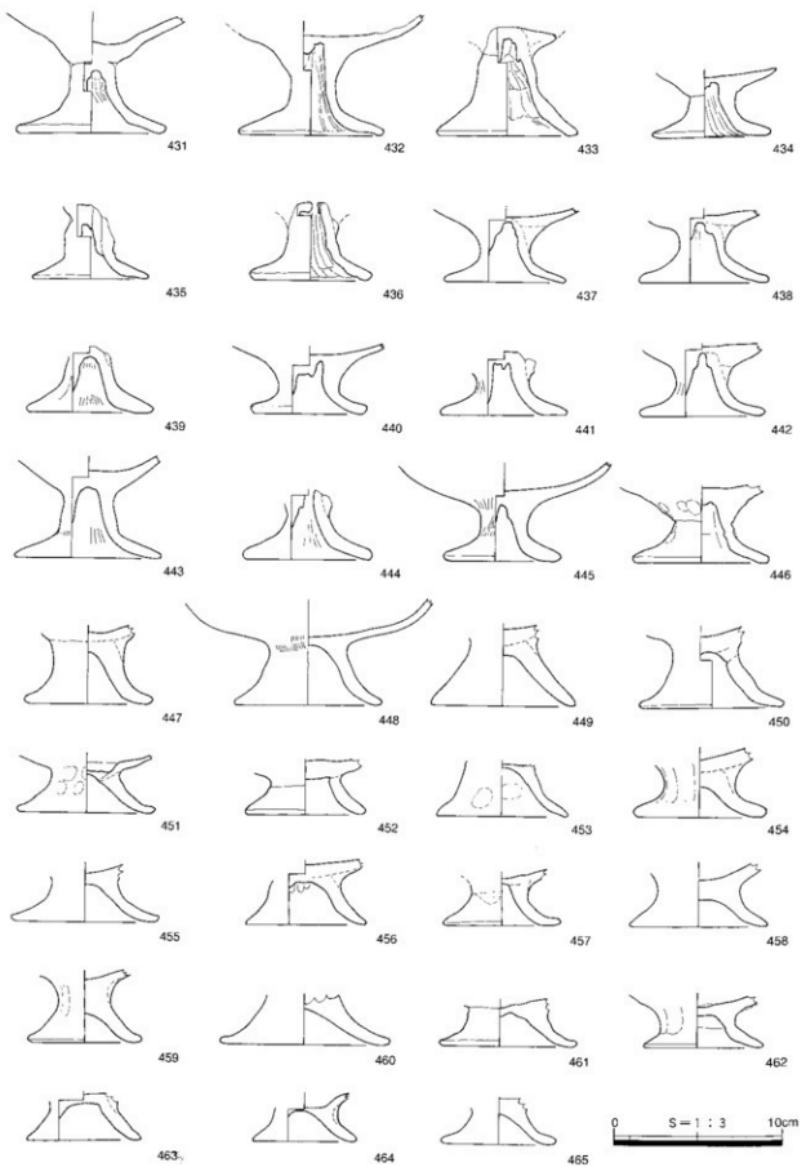
0 S = 1 : 3 10cm



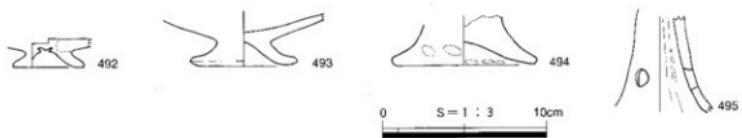
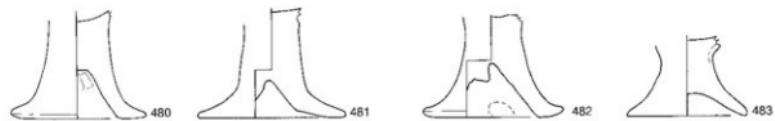
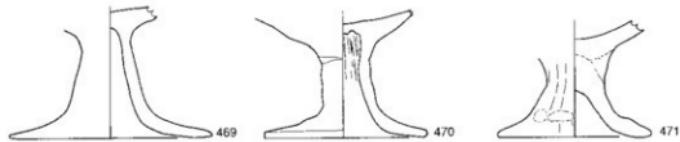
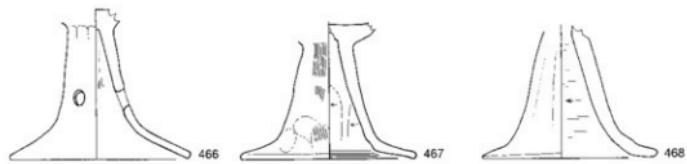
第54図 土器実測図



第55図 土器実測図

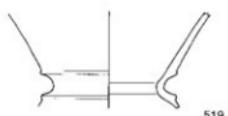
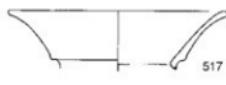
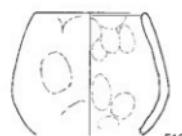
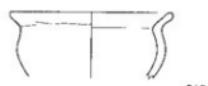
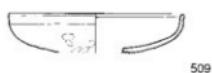
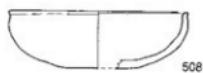
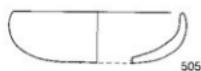
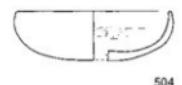
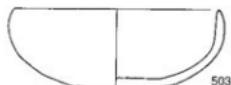
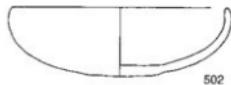
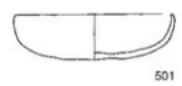
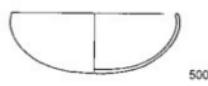
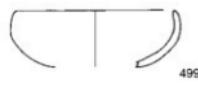
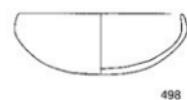
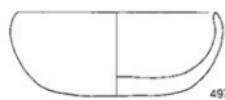
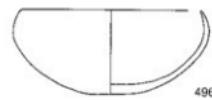


第56図 土器実測図



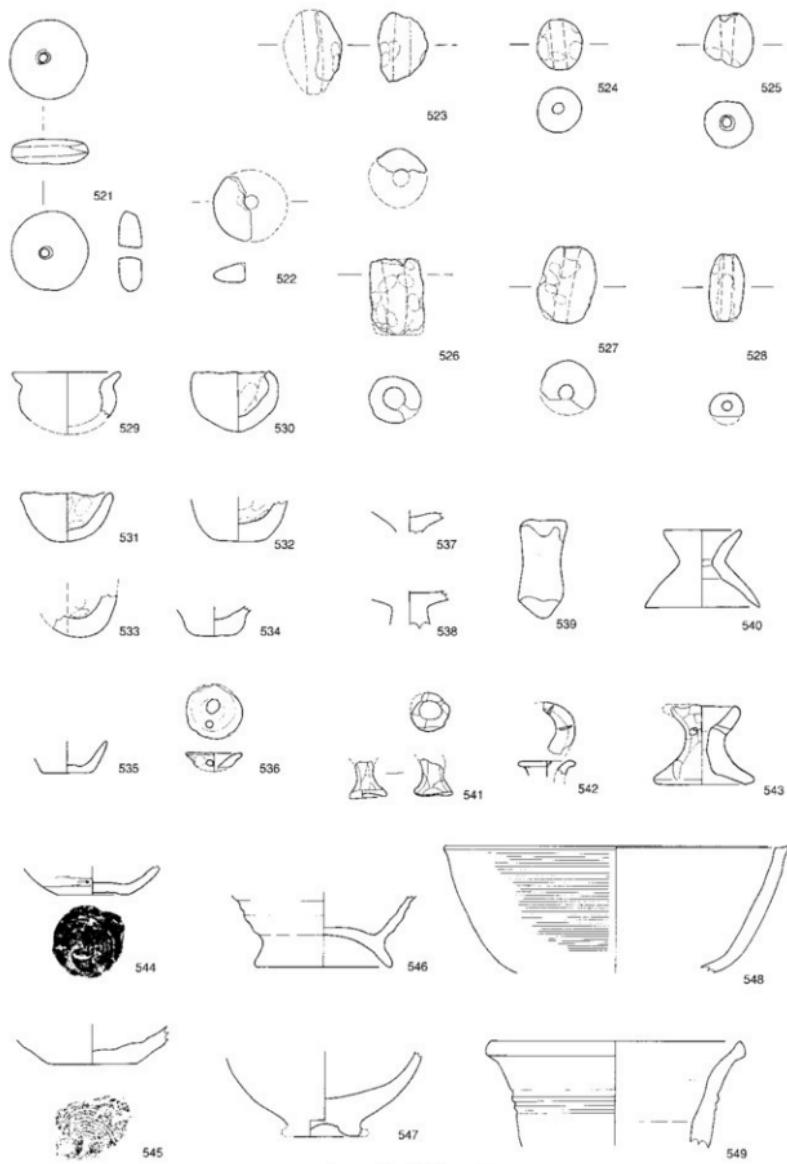
0 S = 1 : 3 10cm

第57図 土師器実測図

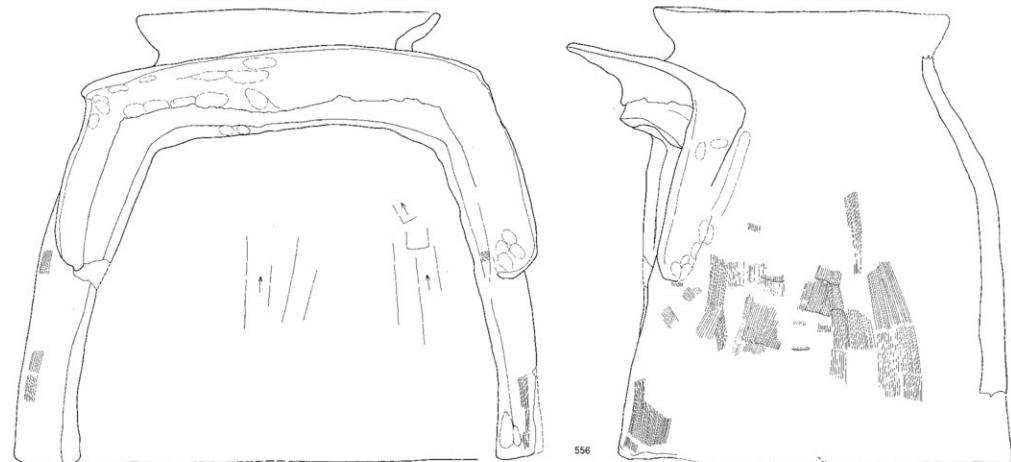
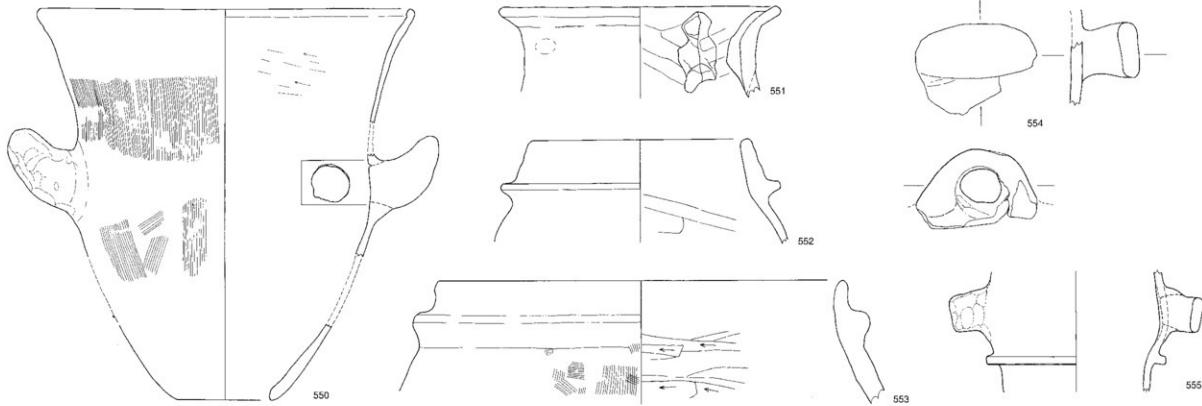


0 S = 1 : 3 10cm

第58図 土師器実測図

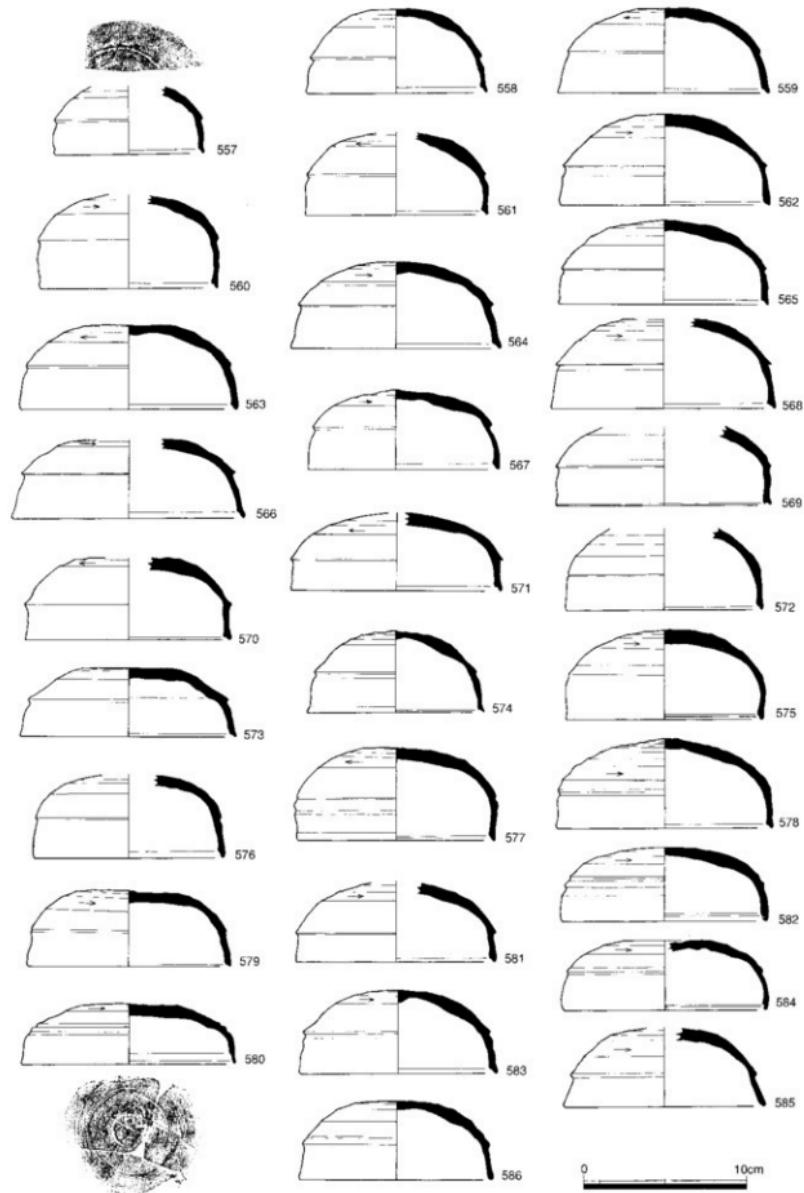


第59図 土師器実測図

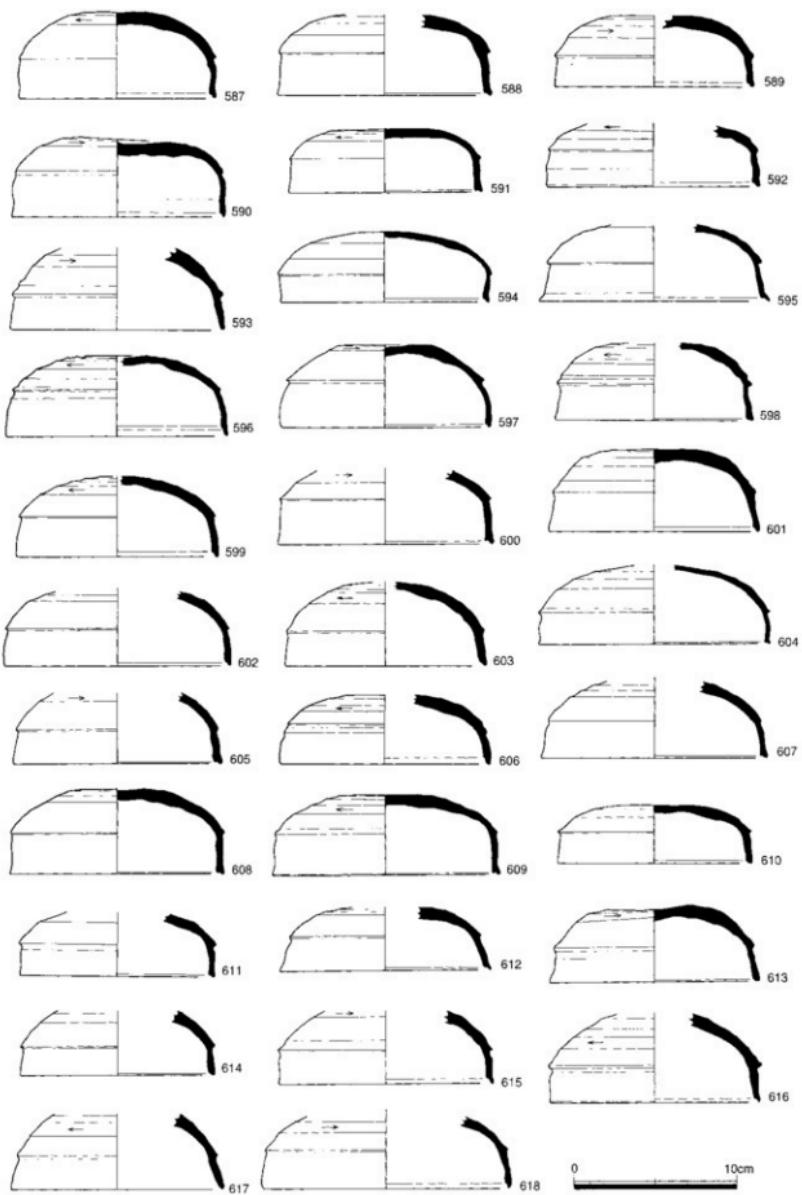


0 S = 1 : 3 10cm

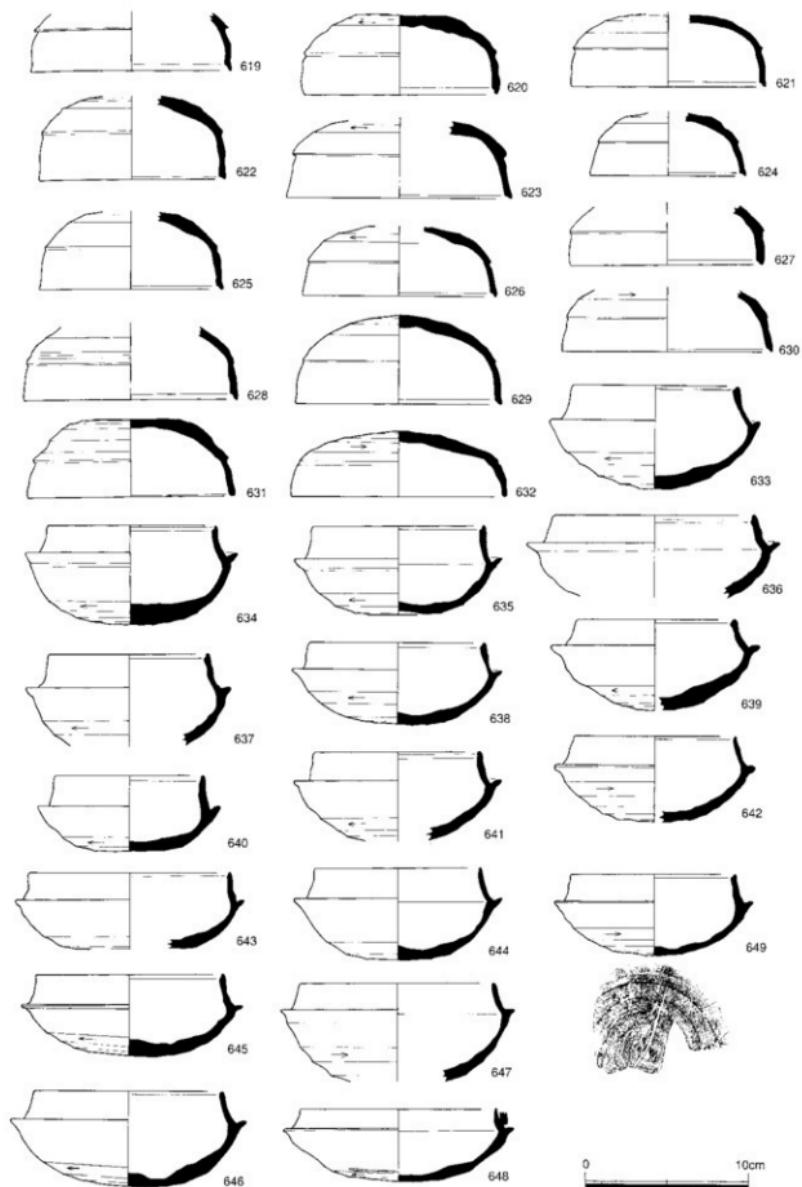
第60図 土器実測図



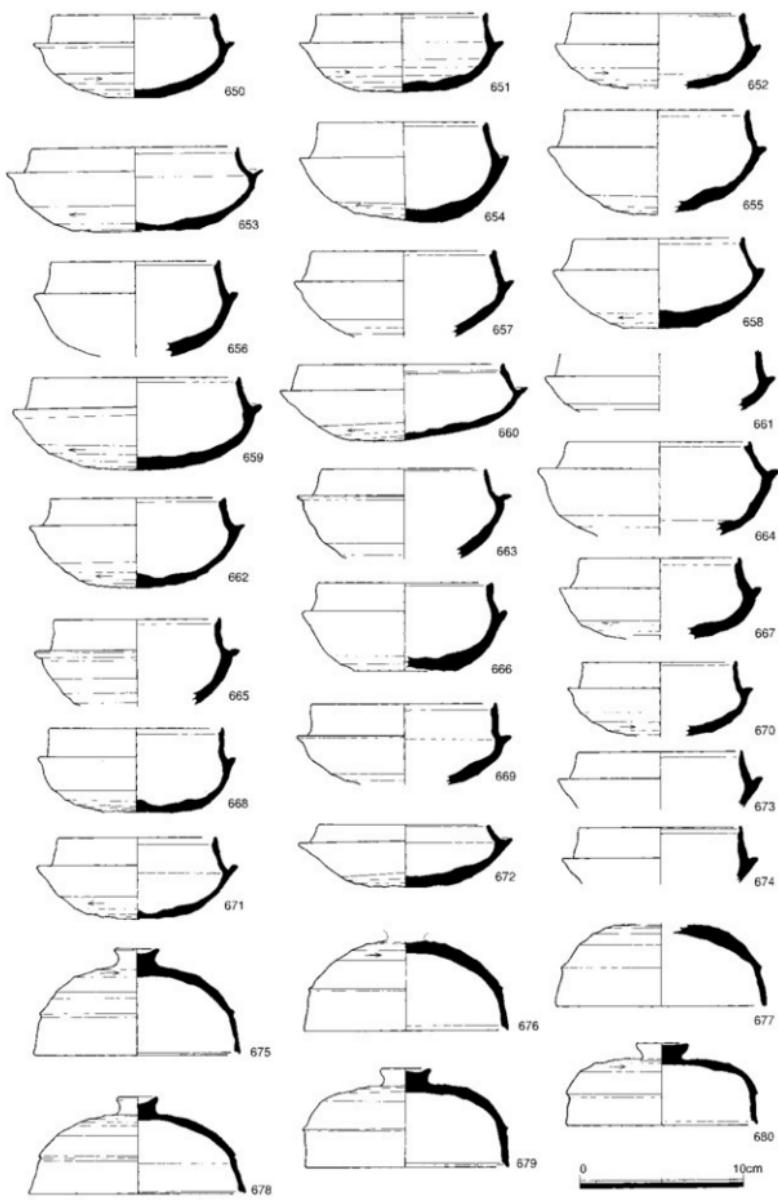
第61図 須恵器実測図 ($S=1/3$)



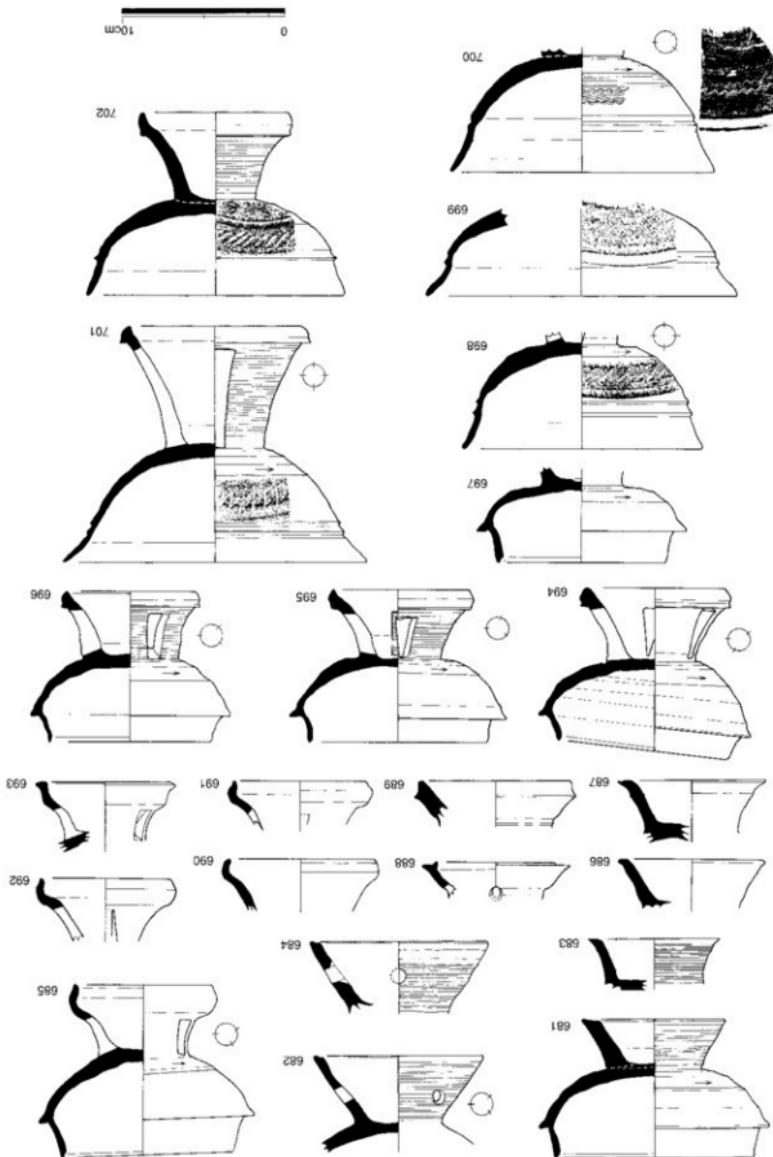
第62図 須恵器実測図 ($S=1/3$)

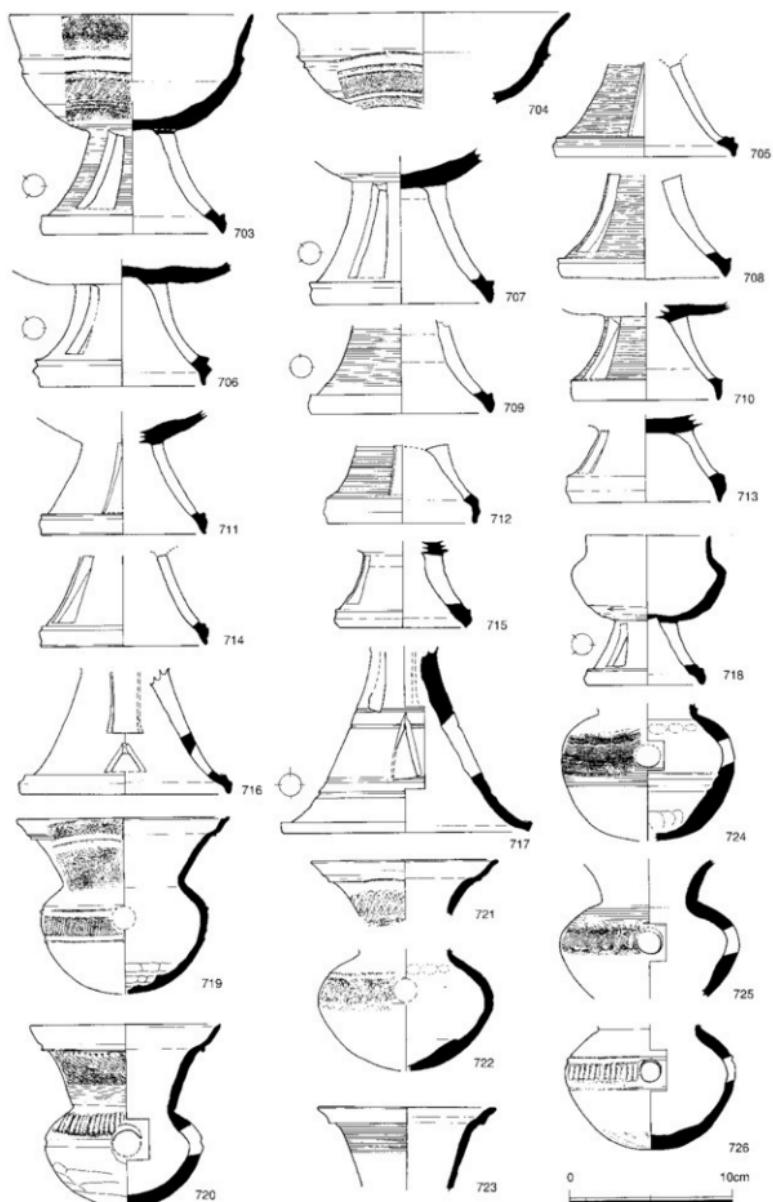


第63図 須恵器実測図 ($S=1/3$)

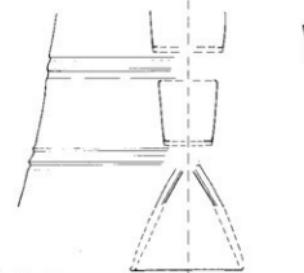
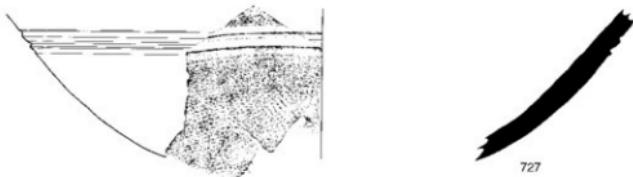


第64図 須恵器実測図 ($S=1/3$)

第65図 液電器実測図 ($S=1/3$)

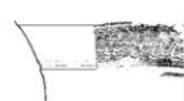
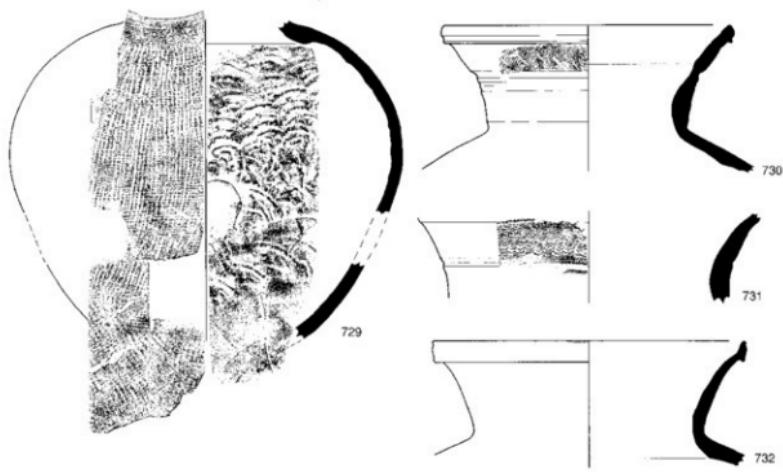


第66図 須恵器実測図 ($S=1/3$)



727

728

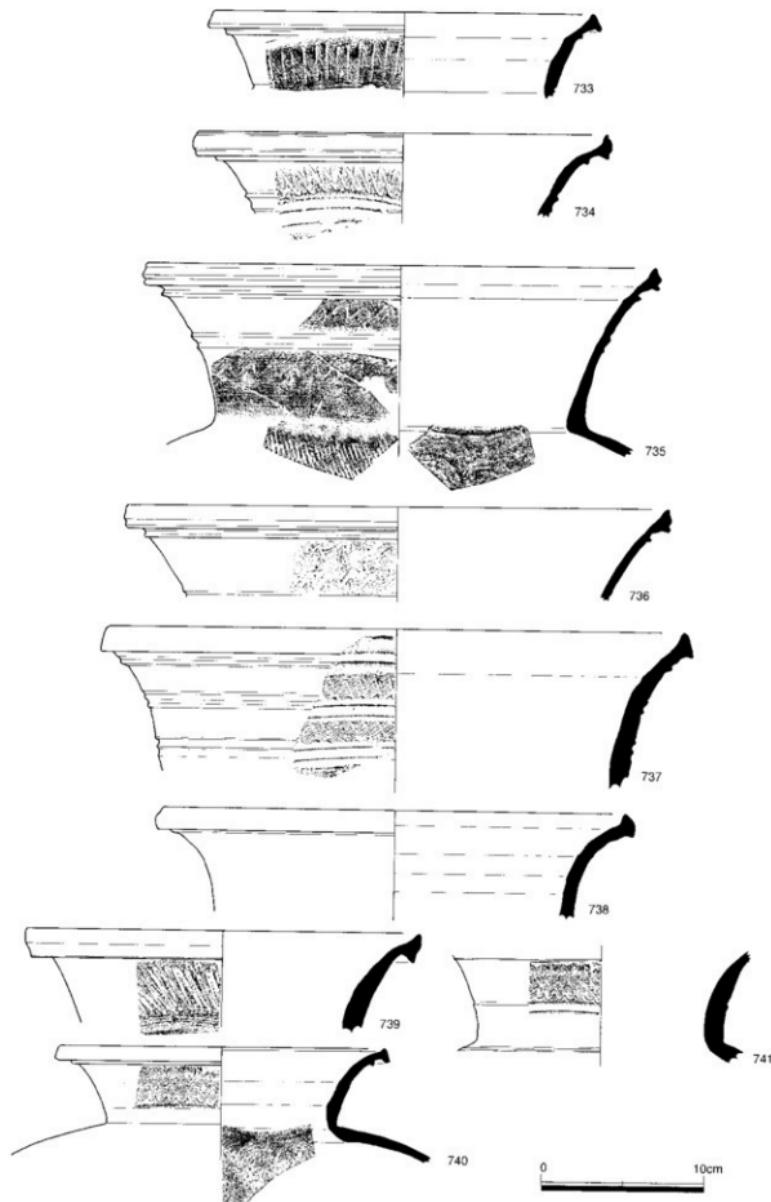


731

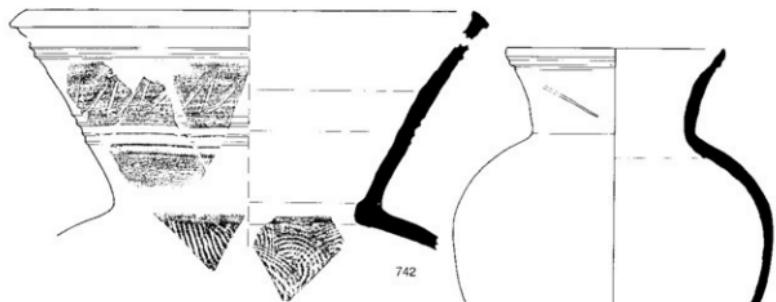


0 10cm

第67図 須恵器実測図 ($S=1/3$)

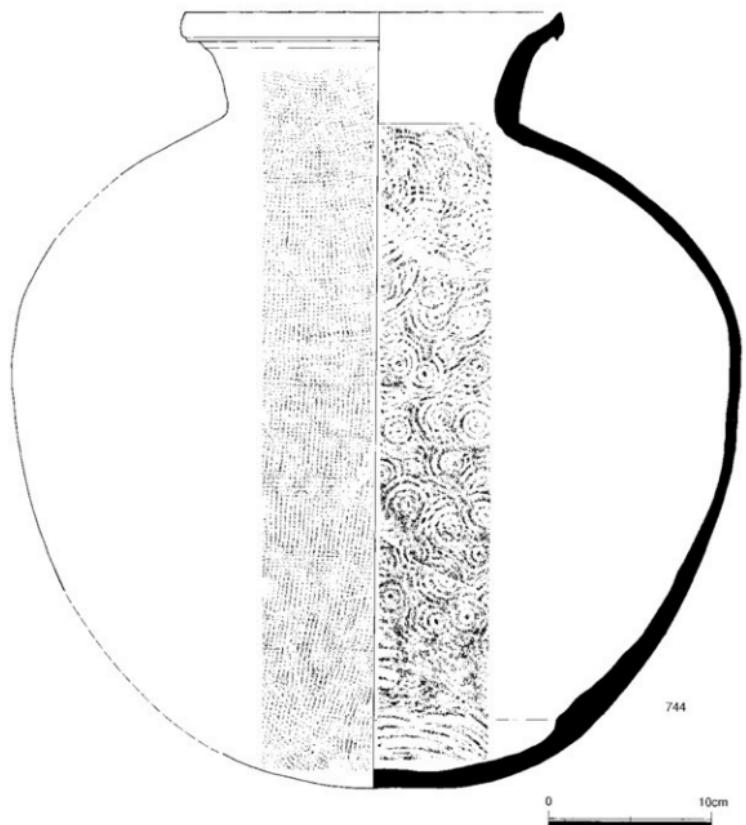


第68図 須恵器実測図 ($S=1/3$)



742

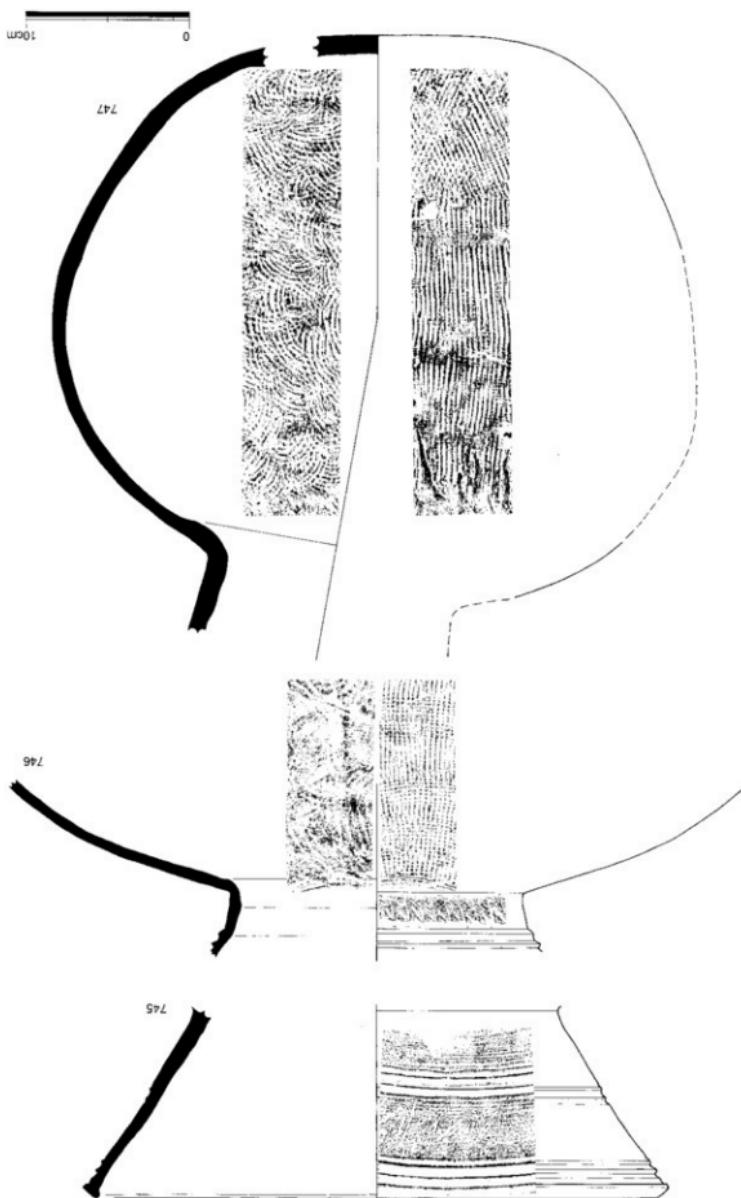
743

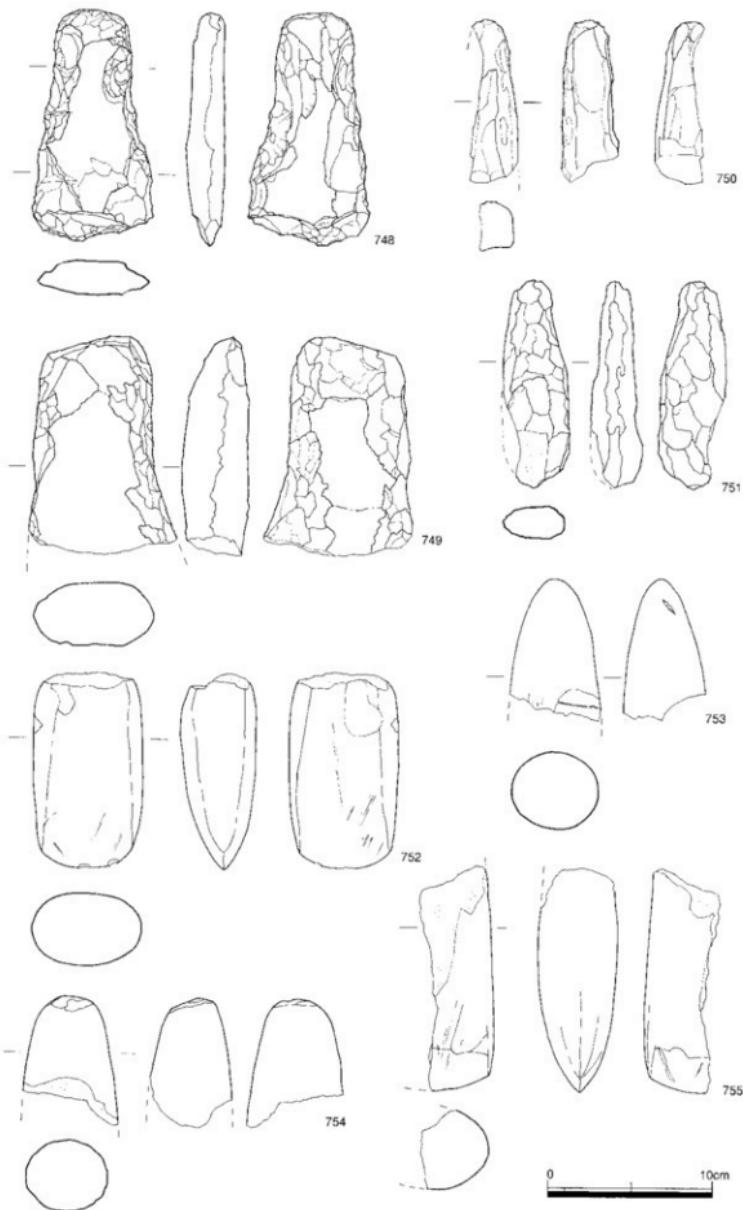


744

0 10cm

第69図 須恵器実測図 ($S=1/3$)

第70図 細胞器実測図 ($S=1/3$)



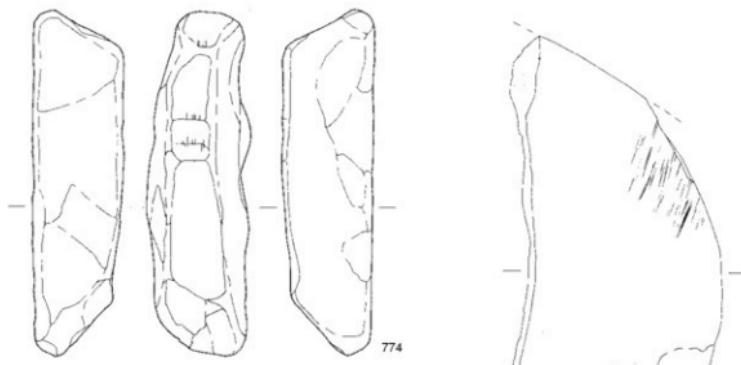
第71図 石製品実測図 ($S=1/3$)



第72図 石製品実測図 (S=1/3)



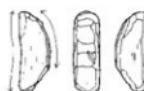
第73図 石製品実測図 (S=1/3)



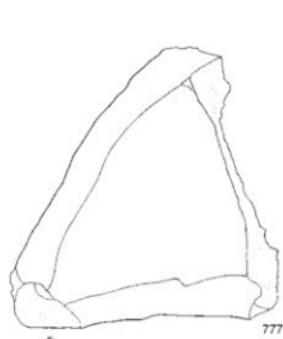
774



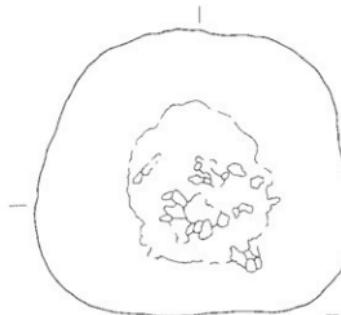
776



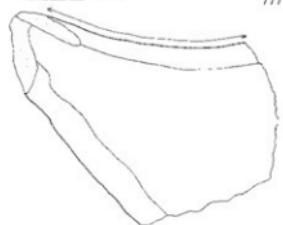
775



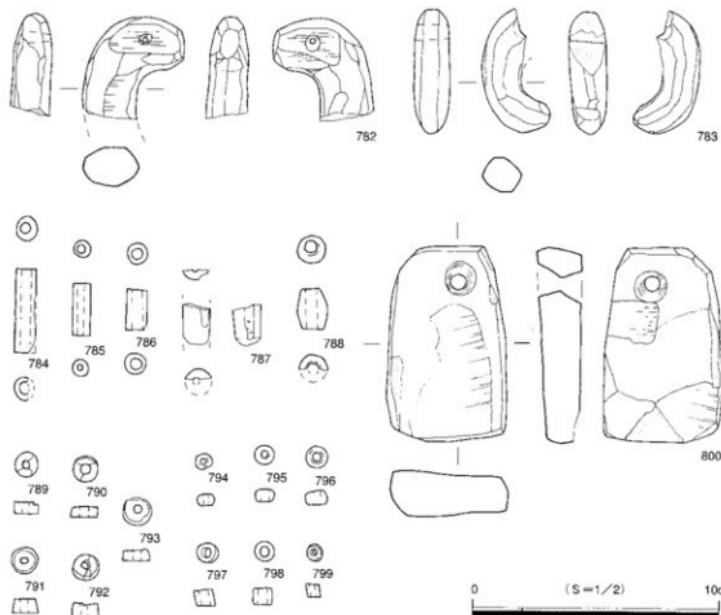
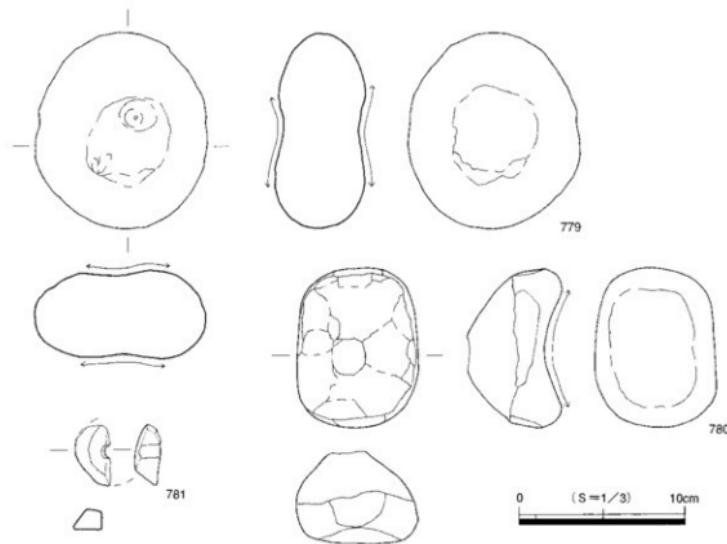
777



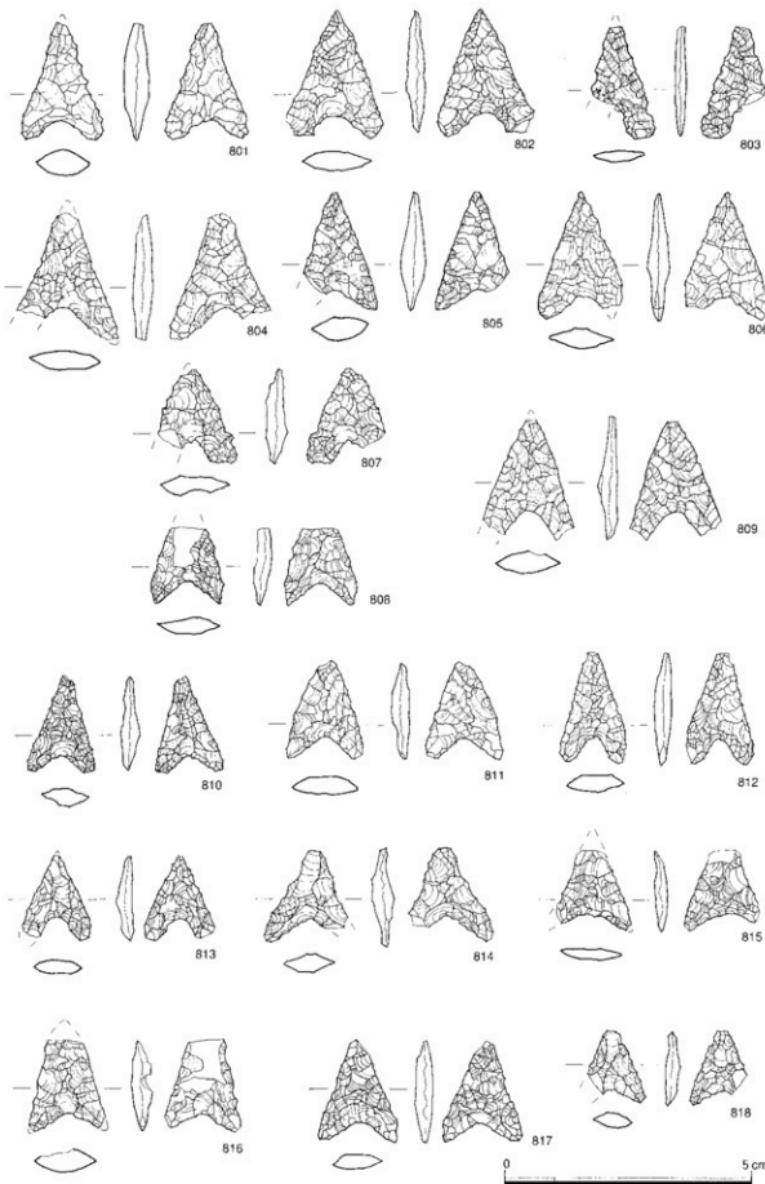
778



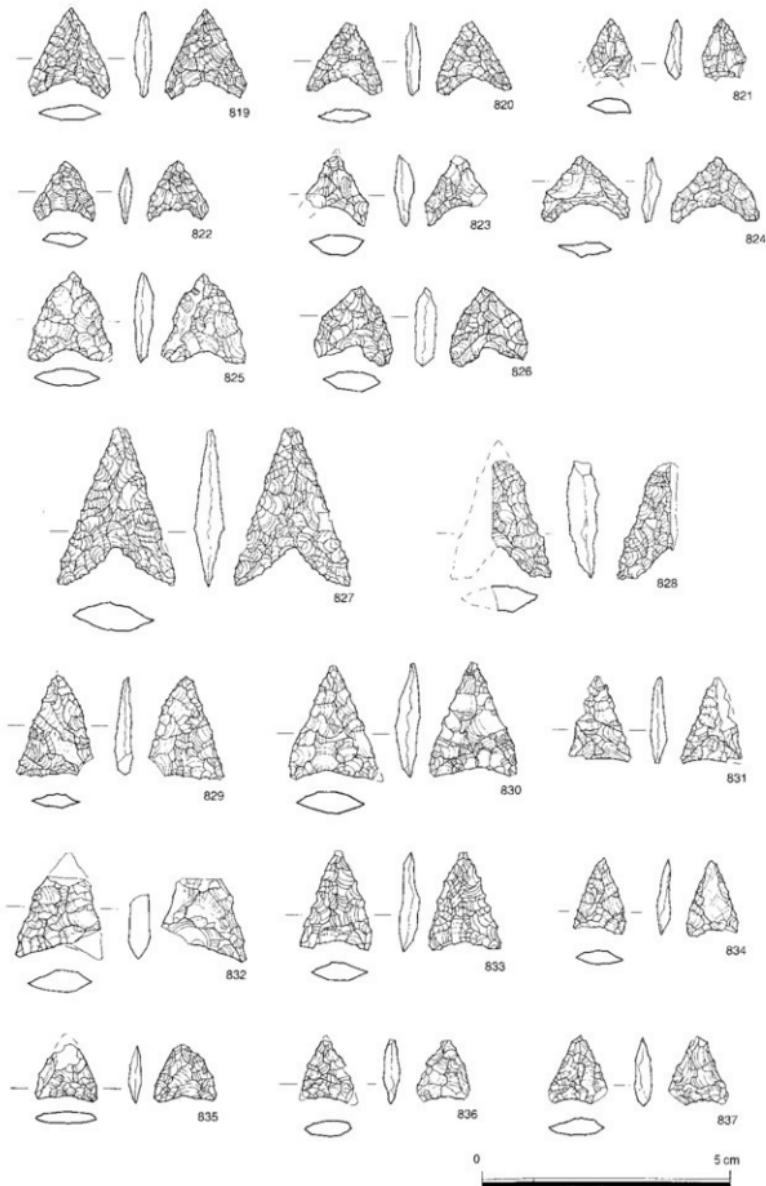
第74図 石製品実測図 (S=1/3)



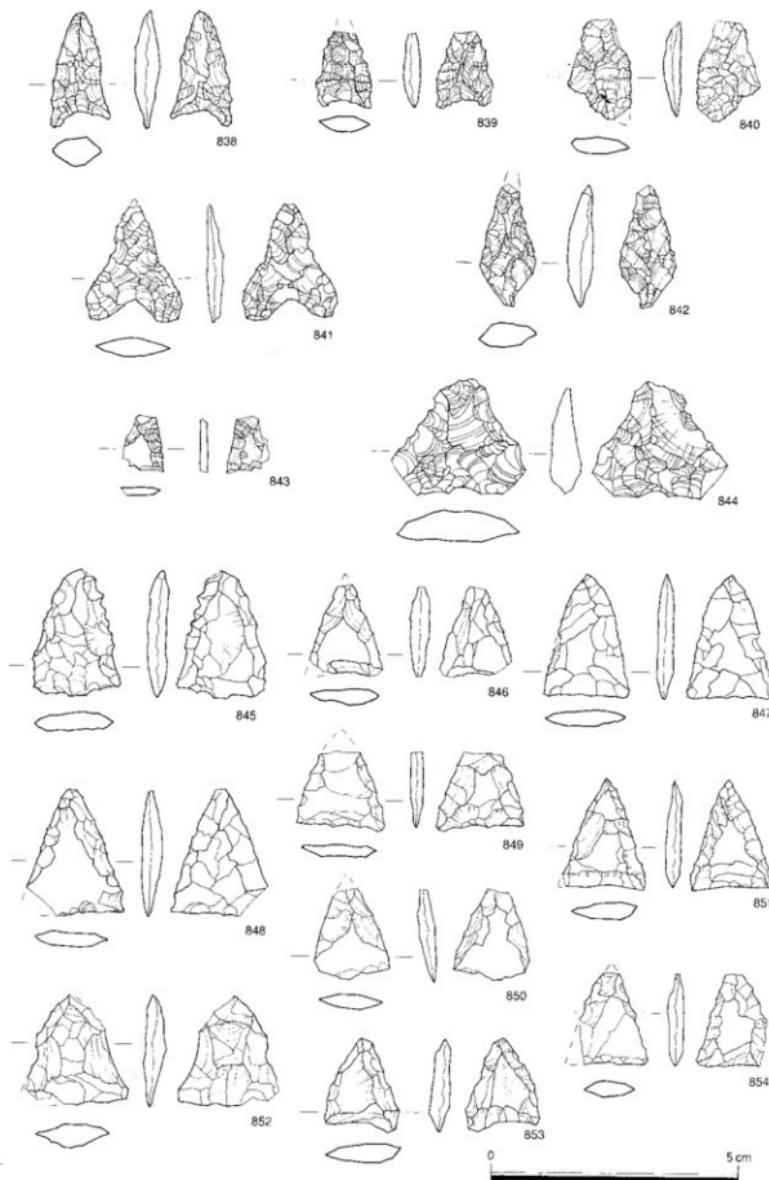
第75図 石製品実測図



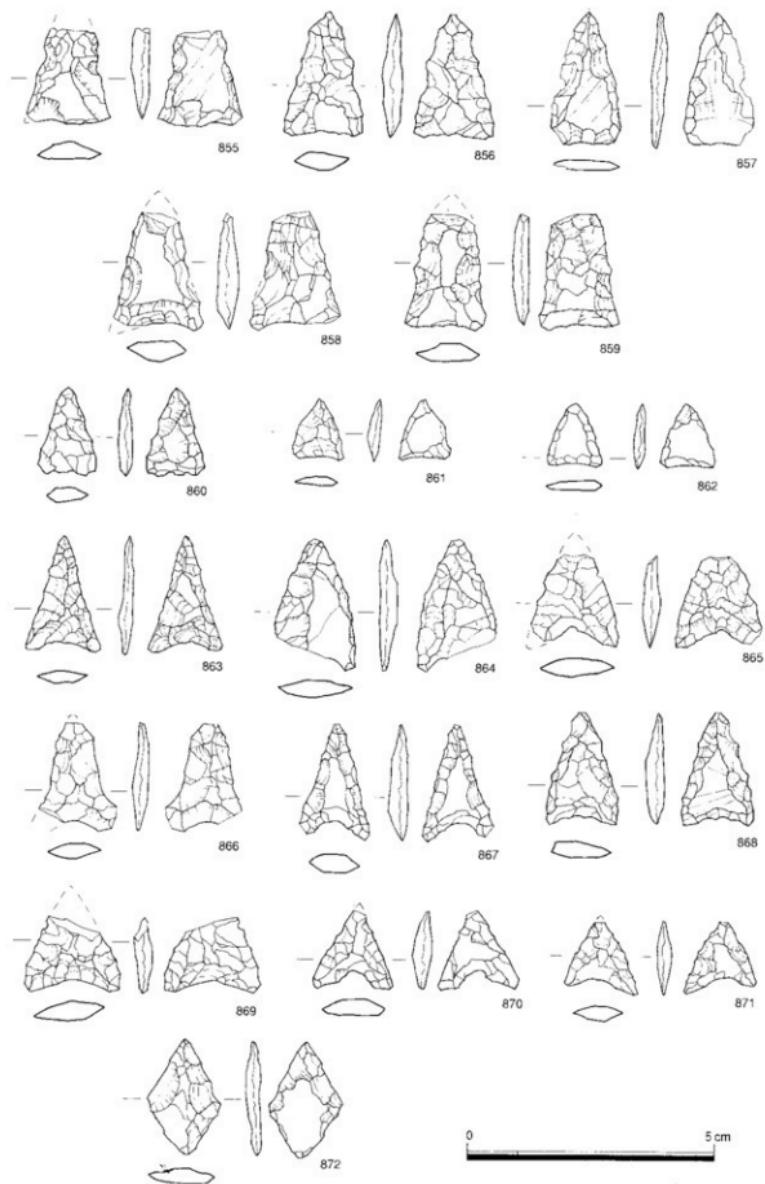
第76図 石鎌実測図 (S=1/1)



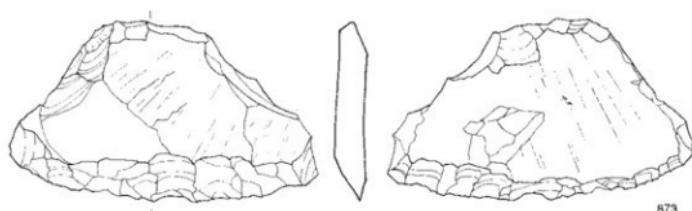
第77図 石鎚実測図 ($S=1/1$)



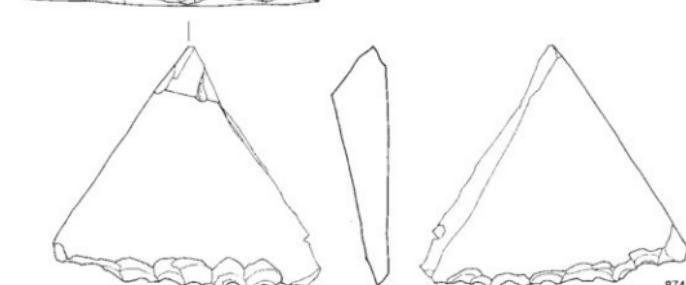
第78図 石鎚実測図 ($S=1/1$)



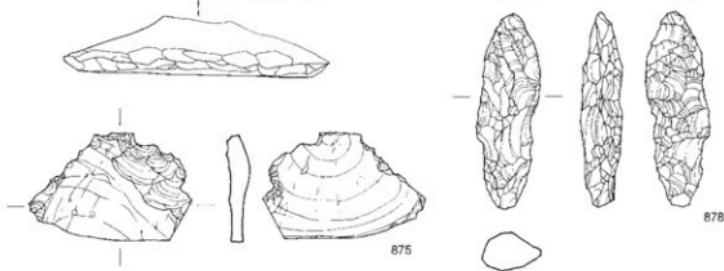
第79図 石器実測図 ($S=1/1$)



873



874

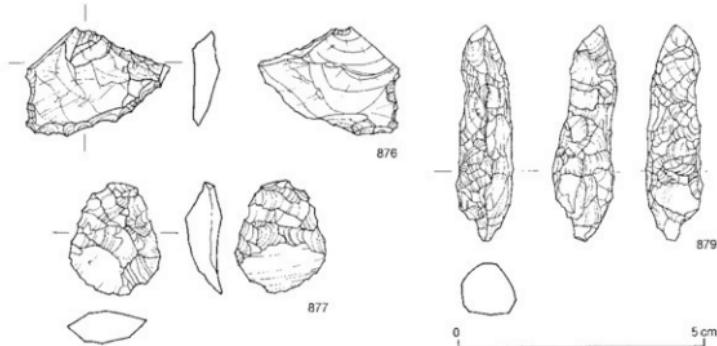


875

876

877

878



879



第80図 石製品実測図 ($S=1/1$)

表2 長砂第3遺跡 出土土器観察表（縄文・弥生土器）

番号	底地	法面cm	形態上の特徴	技法上の特徴	上		色	調	考
					施上	焼成			
1	深鉢	a 13.0 b 10.5	箱型深鉢のI型部	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも淡褐色		
2	深鉢	b 2.7	次文I型部	次文に風み有り	密	やや良	内外面とも灰褐色		
3	深鉢	b 2.2	次文II型部	次文に風み有り	密	良好	内外面とも灰褐色		
4	深鉢	b 3.2	次文II型部	次文に風み有り	密	やや良	内外面とも灰褐色		
5	深鉢	b 4.6	次文II型部	次文に風み有り	密	やや良	内外面とも淡褐色		
6	深鉢	b 24.9	次文II型部	内外面とも風化	粗	不良	内) 灰褐色 外) 暗褐色		
7	深鉢	a 32.0 b 9.1	次文II型部	内外面ともナガ調整	密	やや良	内外面とも灰褐色		
8	深鉢	b 7.1	次文II型部	内外面とも風化	密	良	内外面とも褐色		
9	深鉢	b 2.4	次文II型部	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも灰褐色		
10	深鉢	b 2.4	次文II型部	内外面とも風化	密	良好	内外面とも灰褐色		
11	深鉢	b 3.1	次文II型部	内外面とも風化	やや粗	やや良	内) 灰褐色 外) 暗褐色		
12	深鉢	b 2.9	次文II型部	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも暗褐色		
13	深鉢	b 3.4	次文II型部	内外面とも風化	密	良	内外面とも灰褐色		
14	深鉢	b 3.6	次文II型部	内外面とも風化	密	不良	内) 暗褐色 外) 灰褐色		
15	深鉢	b 2.3	次文II型部	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも灰褐色		
16	甌	a 16.2	有段II型部	内外面とも風化	密	良	内外面とも灰褐色		
17	甌	a 19.0 b 5.5	有段II型部	内外面とも風化	密	良好	内外面とも灰褐色		
18	甌	a 22.0 b 5.1	有段II型部	内外面とも風化	密	良	内外面とも灰褐色		
19	甌	a 19.0 b 3.8	有段II型部	内外面とも風化	密	良好	内外面とも灰褐色		
20	甌	b 4.3	有段II型部	斜孔あり。内面に沈線が留る	密	良	内外面とも灰褐色		
21	甌	a 39.4 b 11.8	有段II型部	内外面とも風化	やや密	良	内外面とも灰褐色		
22	甌	a 24.0 b 7.8	有段II型部	内外面とも風化	密	良好	内外面とも灰褐色		
23	甌	a 14.6 b 5.3	有段II型部	内外面とも風化	密	良好	内外面とも灰褐色		
24	甌	a 24.0 b 5.6	有段II型部	内外面とも風化、頭部に1条の沈線	密	良好	内外面とも灰褐色		
25	甌	a 18.0 b 4.4	有段II型部	頭部に3条の沈線を施す	密	良好	内外面とも灰褐色		
26	甌	a 18.0 b 8.2	有段II型部	段階面上に沈線を施し、実際状を見ると	密	良好	内外面とも灰褐色		
27	甌	a 18.0 b 7.3	有段II型部	外周に鋸毛目あり。2条の沈線を施す	密	良	内外面とも灰褐色		
28	甌	b 6.8 b 6.2	有段II型部	内面ナダ風化。頭部は火照状を呈する	密	良好	内外面とも灰褐色		
29	甌	b 4.9	有段II型部	内面ナダ風化。頭部に1条の沈線を施す	密	良	内外面とも暗褐色		
30	甌	b 3.7	口縁部	3条の沈線により空洞を形成する	密	良好	内外面とも相褐色		
31	甌	a 20.0 b 3.6	有段II型部	内面ナダ風化。段階底部に1条の沈線を施し空洞を形成する	密	やや良	内外面とも相褐色		
32	甌	a 15.0 b 2.7	有段甌	内面ナダ風化	密	良好	内外面とも灰褐色		
33	甌	a 16.0 b 29.8 h 9.5	頭部、肩部に段をなす	内面頭部毛口、外面部ミガキ。段階直上に沈線を施す。肩部に3条の沈線を施す	密	良	内外面とも相褐色		
34	甌	a 3.4	内面に突部を持つ	外周に2条の沈線を施す	密	やや良	内外面とも相褐色		
35	甌	a 3.5	内面に突部を持つ	外周に3条の沈線を施す	密	良好	内外面とも相褐色		
36	甌	a 17.6	内面に突部を持つ	内面とも風化。突孔あり	密	やや良	内外面とも相褐色		
37	甌	a 19.2 b 6.3	有段II型部、内面に突部を持つ	内面とも風化。突孔あり	密	良好	内外面とも相褐色		
38	甌	a 17.2 b 7.3	内面に突部を持つ	内面とも風化	密	良好	内外面とも相褐色		
39	甌	a 15.8	有段II型部、内面に突部を持つ	内面とも風化。空孔あり	密	良好	内外面とも相褐色		
40	甌	a 4.5 b 6.6	頭部外反する口縁部	内面とも風化	密	良好	内外面とも相褐色		
41	甌	b 25.6 b 4.7	大きく外反する口縁部	内面とも風化	密	良好	内外面とも相褐色		
42	甌	a 12.0 b 3.7	I型縁部や肥厚する	内面風化、外面部ナダ、空孔あり	密	良好	内外面とも淡褐色		
43	甌	a 21.4	I型縁部は頭取りする	内面ともミガキ調整	密	良好	内外面とも淡褐色		
44	甌	a 15.0 b 3.7	大きく外反するI型部	内面ともナダ調整	密	良好	内外面とも相褐色		
45	甌	a 19.4 b 3.3	大きく外反するI型部	内面ともミガキ調整	密	良好	内外面とも相褐色		
46	甌	a 17.6	有段II型部	内面ともナダ、2条の沈線	密	良好	内) 灰褐色 外) 暗褐色		
47	甌	b 4.9	体部片	内面とも風化。1条の沈線	密	良好	内外面とも相褐色		
48	甌	b 3.3	体部片	4条の沈線を施す	密	良	内外面とも相褐色		
49	甌	b 3.8	体部片	刻め加工による2条の沈線	密	良好	内外面とも相褐色		
50	甌	b 3.9	体部片	内面とも風化。3条の沈線	密	良好	内) 棕褐色 外) 暗褐色		
51	甌	b 3.2	体部片	内面ナダ調査、外面風化、不明瞭	密	良好	内) 棕褐色 外) 暗褐色		
52	甌	b 4.1	体部片	内面調査もナダ、3条の沈線	密	良好	内外面とも相褐色		
53	甌	b 4.3	体部片	内面ナダ調査、外面風化、4条の沈線あり	密	やや良	内) 棕褐色 外) 淡褐色		

表3 長砂第3遺跡 出土土器観察表(弥生土器)

番号	器種	法線の 位置	器底上の特徴	持法上の 特徴	胎土	焼成	色・味	備考
					密	良	内外面とも褐色	
					密	良	内外面とも褐色	
54	壺	b 7.3△	2条の突起を持つ。 口縁が立ち上がる。	内面丸く、突起を取り付け 内縁に穿孔あり	密	良	内外面とも褐色	
55	壺	a 8.6△ b 1.8△ h 3.9△	-	-	密	良	内外面とも褐色	
56	壺	a 10.3△ b 3.9△	腹面、口縁端部はやや外方に くびれる	口縁部直下に2列の穿孔を施す	密	良好	内外面とも褐色	
57	壺	a 12.0△ b 4.5△	無限	内面する口縁に洗練文、側変文を 施す	密	良好	(内) 椿褐色 (外) 洋酸褐色	
58	式壺	c 3.3△	穿孔部?	底面外間に本變文を施す	密	良	内外面とも茶褐色	
59	式壺	b 1.6△	穿孔部?	側面に木更文を施す	密	良好	内外面とも茶褐色	
60	壺	b 7.0△	小型背投窓	肩部に段を持つ	密	良好	内外面とも茶褐色	
61	壺	a 12.0△ b 5.8△ h 3.2△	やや球形を呈する壺	外面に意匠不明の刻划を施す	密	良好	内外面とも茶褐色	
62	壺	b 8.2△ c 4.3△	円錐形を示す壺	外面上に本變文を施す	密	良好	(内) 褐褐色 (外) 洋酸褐色	
63	壺	a 12.3△ b 3.2△	やや扁平な圓錐形を示す壺	無文	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
64	壺	b 2.2△	底のつまみ部?	無	密	良好	内外面とも灰褐色	
65	壺	b 4.2△	?:	外面上に木の葉文を施す	密	良	内外面とも墨黑色	
66	壺	b 3.2△	?:	外面上に透視式の網目刻を施す	密	良	内外面とも墨黑色	
67	持?	a 4.8△ b 3.9△	呑吐不明。ミニチュアか	口縁部直に穿孔を施す	密	良好	内外面とも茶褐色	
68	持?	a 2.5△	口縁部が内面する持?	内面とモチア調整	密	良好	内外面とも輪菊褐色	
69	持?	a 15.6△ b 3.5△	口縁部が直に立ち上がる持	内面削り、舟面ナデ調整	密	良好	(内) 椿褐色 (外) 褐色	
70	持?	a 10.7△ b 5.5△	口縁部が直に立ち上がる持	内面とモチア調整、底面内面に 指印あり	密	良好	内外面とも暗茶褐色	
71	持?	a 11.5△ b 5.2△	口縁部が直に立ち上がる持	内面削り、外面刷毛調整	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
72	持?	a 20.4△ b 4.2△	口縁部が外反する持	内面ミガキ調取、外面は風化	密	良	内外面とも茶褐色	
73	持?	a 20.0△ b 3.8△	口縁部が直に立ち上がる持	内外面ともモチア調整	密	良	(内) 褐褐色 (外) 褐色	
74	持?	a 15.2△ b 4.3△	口縁部が外反する持	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも茶褐色	
75	持?	a 18.3△ b 3.3△	口縁部が外反する持	内外面ともミガキ調整	密	良好	内外面とも茶褐色	
76	甕	a 22.9△ b 8.9△	2条沈底甕	内面風化、外面刷毛調整。口縁部 部に剥みを持つ	密	良好	内外面とも褐色	
77	甕	a 19.4△ b 3.0△	1条沈底甕	内面風化、外面刷毛調整	密	良好	内外面とも茶褐色	
78	甕	a 18.5△ b 2.5△	1条沈底甕	内面ナデ、外面刷毛調整	密	良好	内外面とも茶褐色	
79	甕	a 32.0△ b 4.6△	1条沈底甕	内面とモチア、口縁部はナデ調 整	密	良好	内外面とも茶褐色	
80	甕	a 22.8△ b 4.4△	1条沈底甕	内面風化、外面ナデ調整	密	良好	(内) 椿褐色 (外) 褐色	
81	甕	a 22.1△ b 2.5△	1条沈底甕	内面ナデ、外面刷毛調整	密	良好	内外面とも茶褐色	
82	甕	a 21.6△ b 3.6△	1条沈底甕	外面刷毛。口縁部はナデ調整	密	良好	内外面とも茶褐色	
83	甕	a 21.2△ b 3.6△	1条沈底甕	内面風化、外面刷毛調整	密	良	内外面とも褐色	
84	甕	a 26.4△ b 11.1△	2条沈底甕	内面風化、外面刷毛調整	密	良好	内外面とも褐色	
85	甕	a 21.0△ b 5.2△	2条沈底甕	外面ナデ調整	密	良好	内外面とも褐色	
86	甕	a 19.6△ b 4.6△	2条沈底甕	内面とモチア調整	密	良好	内外面とも茶褐色	
87	甕	a 19.6△ b 3.0△	2条沈底甕	内面風化	やや粗	不良	(内) 暗褐色 (外) 椿褐色	
88	甕	a 24.6△ b 6.8△	3条沈底甕	内面風化、刷毛調整	密	良好	内外面とも褐色	
89	甕	a 19.2△ b 9.7△	3条沈底甕	内面風化	密	良好	内外面とも茶褐色	
90	甕	a 20.8△ b 3.4△	3条沈底甕	内面風化、外面ナデ調整	密	良好	内外面とも褐色	
91	甕	a 15.4△ b 3.3△	3条沈底甕	内面刷毛。外面ナデ調整	密	良好	(内) 椿褐色 (外) 椿褐色	
92	甕	b 5.2△	3条沈底甕	内面ナデ、外面刷毛調整	密	良	(内) 椿褐色 (外) 黒褐色	
93	甕	a 23.5△ b 2.6△	甕口縁部分	内面風化、外面刷毛。口縁部に 剥みを持つ	密	やや良	内外面とも墨黑色	
94	甕	a 16.3△ b 5.3△	甕口縁部分	内面ナデ、外面刷毛調整。口縁部 基に剥みを持つ	密	良	内外面とも茶褐色	
95	甕	a 21.2△ b 5.8△	甕口縁部分	内面とモチア化。口縁部に剥み を持つ	密	やや良	内外面とも茶褐色	
96	甕	a 17.8△ b 3.2△	甕口縁部分	内面とモチア調整。口縁部に 剥みを持つ	密	良	(内) 椿褐色 (外) 黑褐色	
97	甕	a 23.8△ b 3.8△	甕口縁部分	内面とモチア化。口縁部に剥み を持つ	密	良好	内外面とも褐色	
98	甕	a 18.6△ b 3.1△	甕口縁部分	内面刷毛。外面刷毛ナデ調整、 口縁部に剥みを持つ	密	良好	内外面とも褐色	

表4 長沙第3遺跡 出土土器観察表(弥生土器)

番号	遺物 名	法量cc a. 21.7△ b. 3.4△	形状の特徴 壺口縁部分	技術上の特徴 内外面とも風化、口縁端部に削みを持つ	被成 度				備考
					a. 21.0△ b. 5.4△	b. 31.6△ c. 10.4△	b. 22.5△ c. 10.6△ d. 3.3△	b. 28.2△ c. 10.4△	
100	甕	a. 33.9△ b. 5.4△	壺口縁部分	外面削毛調整	密	良好	内外面とも褐色		
101	甕	a. 33.9△ b. 5.4△	壺口縁部分	内面ミガキ、外面風化、口縁端部に削みを持つ	密	良	(内) 黒茶色 (外) 棕褐色		
102	甕	a. 33.9△ b. 5.4△	壺口縁部分	外面削毛後ナテ調整、口縁端部に削みを持つ	密	良好	(内) 棕褐色 (外) 淡褐色		
103	甕	a. 33.9△ b. 5.4△	壺口縁部分	外面削毛、口縁端部に削みを持つ	密	良	内外面とも褐色		
104	甕	a. 33.9△ b. 5.4△	壺口縁部分	内面削毛、外面削毛後ナテ調整、口縁端部に削みを持つ	密	良好	内外面とも褐色		
105	甕	a. 33.9△ b. 5.4△	壺口縁部分	外面削毛後ナテ調整、口縁端部に削みを持つ	密	良	内外面とも褐色		
106	甕	a. 24.3△ b. 15.4△	壺口縁部分	内面曲と弱明色調	密	良	内外面とも褐色		
107	甕	a. 19.0△ b. 5.8△	壺口縁部分	内面削毛調整、外面風化	密	良	内外面とも褐色		
108	甕	a. 19.4△ b. 6.7△	壺口縁部分	内面ナテ、外面ナテ後削毛調整	密	良好	内外面とも褐色		
109	甕	a. 22.4△ b. 7.5△	壺口縁部分	内面風化、外面削毛調整	密	良好	内外面とも褐色		
110	甕	a. 19.5△ b. 4.8△	壺口縁部分	内面風化、外面削毛調整	密	やや良	内外面とも褐色		
111	甕	a. 21.4△ b. 6.5△	壺口縁部分	外表面とも崩毛調整	密	良好	内外面とも茶褐色		
112	甕	a. 22.0△ b. 7.9△	壺口縁部分	内外面とも崩毛後ナテ調整	密	良好	内外面とも褐色		
113	甕	a. 14.6△ b. 5.6△	壺口縁部分	内面風化、外面ナテ削毛	密	良	内外面とも褐色		
114	甕	a. 29.6△ b. 11.2△	壺口縁部分	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも褐色		
115	甕	a. 16.5△ b. 7.4△	壺口縁部分	内外面とも風化	密	良	内外面とも褐色		
116	甕	a. 36.9△ b. 6.7△	壺口縁部分	内外面ともミガキ調整か?	密	良好	(内) 黑化 (外) 淡褐色		
117	甕	a. 25.2△ b. 5.1△	壺口縁部分	外面ナテ削毛	密	良好	内外面とも褐色		
118	甕	a. 18.7△ b. 5.1△	壺口縁部分	内外面とも削毛調整	密	良好	内外面とも灰茶色		
119	甕	a. 26.2△ b. 6.2△	壺口縁部分	内外面とも風化	密	良好	内外面とも褐色		
120	甕	a. 25.0△ b. 7.7△	壺口縁部分	内外面とも削毛後ナテ調整	密	良好	内外面とも褐色		
121	甕	a. 17.4△ b. 6.0△	壺口縁部分	内面削毛後ナテ調整、外面風化	密	良	内外面とも褐色		
122	甕	a. 20.3△ b. 7.3△	壺口縁部分	内外面とも削毛後ナテ調整	密	良	内外面とも褐色		
123	甕	a. 21.6△ b. 5.5△	壺口縁部分	内外面とも崩毛調整	密	良好	内外面とも褐色		
124	甕	a. 26.4△ b. 12.8△	壺口縁部分	内面風化、外面削毛調整	密	やや良	内外面とも褐色		
125	甕	a. 26.0△ b. 9.0△	壺口縁部分	内面風化、外面削毛、口縁部ナテ削毛	密	やや良	(内) 壤褐色 (外) 暗褐色		
126	甕	a. 21.4△ b. 6.4△	壺口縁部分	内面削毛、外面ナテ削毛	密	良	内外面とも褐色		
127	甕	a. 20.8△ b. 5.3△	壺口縁部分	内面ナテ、外面ナテ後削毛調整	密	良好	(内) 壽褐色 (外) 暗褐色		
128	甕	a. 19.8△ b. 5.4△	壺口縁部分	内面ナテ、外面削毛削毛	密	良	内外面とも灰茶色		
129	甕	a. 28.7△ b. 3.4△	壺口縁部分	内面面とも崩毛調整	密	良好	内外面とも褐色		
130	甕	a. 13.6△ b. 3.0△	壺口縁部分	内面面ともナテ削毛	密	良好	内外面とも褐色		
131	甕	a. 22.0△ b. 6.4△	壺口縁部分	内面風化、外面ナテ削毛	密	良好	内外面とも褐色		
132	甕	a. 22.2△ b. 1.9△	壺口縁部分	内外面風化、口縁端部削み	密	良	内外面とも淡褐色		
133	甕	a. 1.9△ b. 2.0△	壺口縁部分	内外面風化、口縁端部削み	密	やや良	内外面とも淡褐色		
134	甕	a. 2.0△ b. 2.4△	壺口縁部分	内外面風化	密	良好	内外面とも淡褐色		
135	甕	a. 2.4△ b. 3.0△	壺口縁部分	内山ナテ削毛、口縁端部削み	密	良好	内外面とも淡褐色		
136	甕	a. 19.0△ b. 6.4△	壺口縁部分	内面ナテ、外部突起を埋め込み	密	良	内外面とも淡褐色		
137	水差	a. 12.8△ b. 4.0△	取っ手部	取っ手は穴を開けて接着する	密	良	内外面とも淡褐色		
138	収口	a. 14.4△ b. 2.8△	取っ手部	外面風化	密	良好	内外面とも淡褐色		
139	甕	a. 13.0△ b. 3.1△	壺口縁部分	内面ナテ、外面削毛、口縁端部に凹模多発	密	良好	内外面とも褐色		
140	甕	a. 16.3△ b. 4.4△	壺口縁部分	内面風化、外面ナテ削毛	密	良	内外面とも褐色		
141	甕	a. 17.0△ b. 4.0△	壺口縁部分	内外面風化、口縁端部凹模削毛を施す	密	良	内外面とも淡褐色		
142	甕	a. 19.4△ b. 5.1△	壺口縁部分	内面ナテ、外面ミガキ調整、口縁部に削毛を施す	密	良好	(内) 棕褐色 (外) 淡褐色		
143	甕	a. 18.9△ b. 5.4△	壺口縁部分	内面ナテ、外面削毛、ナテ削毛	密	良	内外面とも褐色		
144	甕	a. 16.3△ b. 4.4△	壺口縁部分	内面ナテ、外面削毛削毛、口縁部に凹模を施す	密	良好	内外面とも淡褐色		

表5 長砂第3遺跡 出土土器観察表(弥生土器)

(a:口付 b:器底 c:底径 d:最大径 Ø:復元径 △:残存部)

番号	器種	法名(c)	影響(d)の特徴	技術(e)の特徴	船上	焼成	色と調	備考
145	壺	a 29.4Ø b 7.0△	重い脚部分	内外面とも風化、口縁端部に凹縫文を施す	密	良	内外面とも淡褐色	
146	壺	a 21.0△	口縁部分	内面風化、外面ナデ、口縁端部に凹縫文を施す	密	良好	内外面とも淡褐色	
147	壺	a 19.4Ø b 5.1△	重い脚部分	内面風化、外面ナデ、口縁端部に凹縫文を施す	密	やや良	内外面とも淡褐色	
148	壺	a 16.8Ø b 6.4△	口縁部分	内面風化	密	良	内外面とも淡褐色	
149	壺	b 8.5△	横筋が見える壺	口縁ナデ、外面ミカキ調整	密	良	内外面とも淡褐色	
150	壺	a 18.2Ø b 19.8△	体の最も大きな中にすがりたる壺	内外面とも風化	密	良	内外面とも淡褐色	
151	壺	a 16.4Ø b 2.3△	脚間に凹縫文を持つ壺	内外面とも風化、口縁端部に別みを持つ	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
152	壺	a 14.2△ b 3.5△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ナデ調整	密	良	内外面とも淡灰褐色	
153	壺	a 14.3Ø b 2.8△	口縁に凹縫文を持つ壺	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも淡褐色	
154	壺	a 18.0Ø b 3.7△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削りとも風化	密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
155	壺	a 28.5Ø b 6.3△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外縁端毛剥離	密	良好	内外面とも淡褐色	
156	壺	a 18.6Ø b 6.7△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外縁端毛剥離	密	良好	内外面とも淡褐色	
157	壺	a 17.8Ø b 4.1△	口縁に凹縫文を持つ壺	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
158	壺	a 13.3Ø b 5.8△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面長壁端による文様を引き	密	良	内外面とも淡褐色	
159	壺	a 12.0Ø b 4.9△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面風化	密	やや良	内)淡褐色 外)褐色	
160	壺	a 11.0Ø b 6.2△	口縁部無文壺	内外面とも風化	密	良	内外面とも灰褐色	
161	壺	a 11.6Ø b 6.2△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ミカキ調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
162	壺	a 11.8Ø b 4.5△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面風化	密	良	内外面とも淡褐色	
163	壺	a 24.8Ø b 4.9△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ミカキ調整	密	やや良	内外面とも淡褐色	
164	壺	a 19.6Ø b 4.5△	口縁に凹縫文を持つ壺	内外面ともナデ調整	やや粗	不良	内外面とも淡褐色	
165	壺	a 11.0Ø b 3.2△	口縁に凹縫文を持つ壺	内外面とも風化	密	不良	内外面とも淡褐色	
166	壺	a 19.4Ø b 4.8△	脚間に穿孔なしに穿孔あり	内面削り調整	粗	良	内外面とも褐色	
167	壺	a 18.6Ø b 29.4△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ナデ調整	密	やや良	内外面とも淡褐色	
168	壺	b 7.0△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面風化	密	不良	内)褐色 外)褐色	
169	壺	a 28.4Ø b 6.1△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外縁ナデ調整	密	やや良	内)灰褐色 外)灰褐色	
170	壺	a 22.0Ø b 6.6△	口縁に凹縫文を持つ壺	内外面ともナデ調整	密	やや良	内外面とも淡褐色	
171	壺	a 18.6Ø b 4.4△	口縁に凹縫文を持つ壺	内外面ともナデ調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
172	壺	a 16.2Ø b 3.1△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面ナデ、外面風化	密	やや良	内外面とも淡褐色	
173	壺	a 20.6Ø b 2.9△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ミカキ調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
174	壺	a 13.6Ø b 3.3△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ナデ調整	密	やや良	内)淡褐色 外)褐色	
175	壺	a 20.6Ø b 3.3△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面ナデ、外面風化	密	良好	内)褐色 外)褐色	
176	壺	a 16.5Ø b 3.3△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外縁ナデ調整	やや粗	不良	内外面とも淡褐色	
177	壺	a 16.6Ø b 3.9△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り	密	良好	内外面とも淡褐色	
178	壺	a 19.2Ø b 5.5△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面風化	密	良好	内外面とも淡褐色	
179	壺	a 19.2Ø b 5.5△	口縁に凹縫文を持つ壺	内外面ともナデ調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
180	壺	a 19.4Ø b 5.5△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ナデ調整	密	良好	内)灰褐色 外)褐色	
181	壺	a 18.5Ø b 4.0△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面削り、外面ナデ調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
182	壺	a 9.2Ø b 4.3△	口縁に凹縫文を持つ壺	内面風化、外面ミカキ調整	密	良	内外面とも淡褐色	
183	糸	a 15.4Ø b 3.7△	口縲に凹縫文を持つ糸	内外面とも風化	密	良	内外面とも淡褐色	
184	糸	a 15.8Ø b 4.7△	口縲に凹縫文を持つ糸	内面ナデ、外面ミカキ調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
185	石臼	a 20.0Ø b 5.0△	口縲に凹縫文を持つ石臼	内外面とも風化	密	良	内外面とも淡褐色	
186	石臼	a 15.8Ø b 4.4△	口縲に凹縫文を持つ石臼	内外面ともナデ調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
187	石臼	a 15.8Ø b 4.5△	口縲に凹縫文を持つ石臼	内外面とも風化	密	不良	内)淡褐色 外)暗褐色	
188	石臼	a 8.5Ø b 17.1△	口縲に凹縫文を持つ石臼	内面削り、外面ナデ調整	密	やや良	内外面とも淡褐色	

表6 長砂第3遺跡 出土土器観察表(弥生土器)

番号	器種	法式	形状上の特徴	技法上の特徴	断面	被膜	色調	備考
					a:口径 b:縦高 c:底径 d:最大径 ○:復元品 △:残存品			
189	器台	b:4.0△ c:5.0△	口縁に円錐文を持つ器台	内面削り、外泥漬化	密	良好	内外面とも褐色	
190	高环	a:13.0○	高环口縁部	内外面とも風化	密	良	内外面とも褐色	
191	高环	a:18.0○ b:3.6△	高环口縁部	内面風化、外面ミガキ調整	密	やや良	内外面とも褐色	
192	高环	a:24.0○ b:3.5△	高环口縁部	内面削り、外泥漬化	密	やや良	内外面とも褐色	
193	高环	a:18.0○ b:3.6△	口縁に円錐文を持つ高环	内外面ともアラブ調整	密	良	内外面とも褐色	
194	高环	a:27.0○ b:5.2△	口縁に円錐文を持つ高环	内外面ともナガ削り	密	良好	内外面とも褐色	
195	高环	a:17.0○ b:3.2△	口縁に凹線文を持つ高环	内外面ともナガ削り	密	やや良	内) 黑化 外) 棕褐色	
196	高环	a:21.0○ b:3.9△	口縁に円錐文を持つ高环	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも灰褐色	
197	高环	a:24.0○ b:6.0△	口縁に円錐文を持つ高环	内面削り	密	良好	内外面とも灰褐色	
198	高环	a:20.0○ b:6.0△	口縁に円錐文を持つ高环	内面削り	密	良好	内外面とも灰褐色	
199	高环	a:12.5○ b:2.7△	穿孔あり	内面削り	密	良好	内外面とも褐色	
200	高环	a:17.0○ b:8.3△	口縁に横溝文を持つ高环	内面削り	密	やや良	内外面とも灰褐色	
201	高环	a:17.0○ b:8.3△	高环脚部	内面風化、外面上平削毛、下平ミガキ調整、口縫を鉛筆法	密	良	内外面とも灰褐色	
202	高环	a:8.5○ b:8.5△	高环脚部	内面削り、外面ミガキ調整	密	良	内外面とも褐色	
203	高环	a:8.5○ b:8.5△	高环脚部	内面ナガ、外面ミガキ調整	密	良	内外面とも棕褐色	
204	高环	a:5.0○ b:6.0△	高环脚部	内面削り、外泥漬化	密	良好	内外面とも棕褐色	
205	高环	a:6.0○ b:6.0△	高环脚部	内面削り、外泥漬化	密	やや良	内外面とも棕褐色	
206	高环	a:7.8○ b:7.8△	高环脚部	内面削り、外泥漬化	密	良	内外面とも棕褐色	
207	高环	a:17.0○ b:7.0△	高环脚部	内面削り、外面風化	密	良	内) 棕褐色 外) 灰褐色	
208	高环	b:4.1△ c:4.8○	西环脚部	内面削り、外面ミガキ調整、穿孔は開通せず	密	やや良	内外面とも灰褐色	
209	高环	b:3.1△ c:4.8○	高环脚部	内面削り	密	良好	内外面とも灰褐色	
210	高环	b:3.9○ c:4.6△	高环脚部	内面削り	密	良好	内外面とも灰褐色	
211	高环	b:3.0△ c:11.5○	高环脚部	内面削り	密	良	内外面とも灰褐色	
212	高环	b:3.7△ c:14.0○	高环脚部	内面削り	密	良	内) 黑化 外) 棕褐色	
213	高环	b:4.7△ c:14.0○	高环脚部	内面削り	密	やや良	内外面とも灰褐色	
214	底部	b:7.4△ c:12.2○	平底	内面ナガ、外面ミガキ調整	密	良好	内外面とも灰褐色	
215	底部	b:4.5△ c:11.0○	平底、2条の沈痕を持つ	外面ミガキ調整	密	良好	内) 黑化 外) 灰褐色	
216	底部	b:3.2△ c:3.3○	平底	外面ミガキ調整	やや粗	良好	内外面とも灰褐色	
217	底部	b:2.4△ c:7.0○	底み底	内面風化、外面ミガキ調整	やや粗	良好	内) 淡灰褐色 外) 棕褐色	
218	底部	b:3.9△ c:6.2○	底み底	内面風化、外面ミガキ調整	密	良好	内) 棕褐色 外) 棕褐色	
219	底部	b:4.4△ c:5.4○	底み底	内面削り、外面ミガキ調整	密	良好	内外面とも灰褐色	
220	底部	b:6.5△ c:9.6○	平底	内面ナガ、外面削毛調整	密	良好	内外面とも灰褐色	
221	底部	b:5.3△ c:8.0○	平底	内外面とも削毛済紅	密	良好	内外面とも棕褐色	
222	底部	b:5.2△ c:8.9○	平底	内面風化、外面削毛調整	密	良好	内外面とも褐色	
223	底部	b:3.8△ c:10.4○	平底	内面ナガ、外面削毛調整	密	良好	内外面とも棕褐色	
224	底部	b:4.4△ c:7.7○	平底	内面風化、外面削毛調整	密	良好	内外面とも棕褐色	
225	底部	b:4.0△ c:8.6○	平底	内外面とも削毛調整	密	良好	内外面とも棕褐色	
226	底部	b:3.6△ c:11.0○	平底	内外面とも削毛済紅	密	良好	内外面とも棕褐色	
227	底部	b:3.1△ c:9.3○	平底	内面風化、外面削毛調整	やや粗	良好	内外面とも棕褐色	
228	底部	b:2.6△ c:5.9○	平底、焼成後穿孔	内面風化、外面削毛調整	密	良好	内外面とも淡褐色	
229	底部	b:5.0△ c:9.2○	平底	内面風化、外面削毛調整	密	良好	内外面とも棕褐色	
230	底部	b:4.9△ c:7.0○	平底、削毛が突出する	内面ナガ、外面削毛調整	密	良好	内外面とも褐色	
231	底部	b:3.5△ c:8.1○	平底、削毛が突出する	内面風化、外面削毛調整	密	良好	内外面とも棕褐色	
232	底部	b:4.4△ c:6.9○	底み底、底部が突出する	内面削え、外面削毛調整	密	良好	内外面とも棕褐色	
233	底部	b:7.2△ c:3.6○	平底、底部が突出する	内面ナガ、外面削毛調整	密	良好	内外面とも棕褐色	
234	底部	b:7.0△ c:11.0○	百付き上器底部分	内面風化、外面削毛調整	密	良好	内) 黑化 外) 棕褐色	

表7 長砂第3遺跡 出土土器観察表(弥生土器)

(a:口径 b:器高 c:底径 d:最大径 ○:復元品 △:残存品)

番号	器種	法高cm	形態上の特徴	技 法 上 の 特 徴	胎土	焼成	色 光 調	備考
235	鉢形	b 7.0△ c 5.8○	平底	内外面ともナゲ調整	やや粗	良好	内外面とも褐色	
236	鉢形	b 2.3△ c 8.2○	平底、2条の浅溝を持つ	内外面ともナゲ調整	密	良好	内外面とも褐色	
237	鉢形	b 5.1△ c 8.0○	平底	内外面ともナゲ調整	密	良好	内外面とも褐色	
238	鉢形	b 4.2△ c 10.2○	平底	内面風化、外面ナゲ調整	密	良好	内) 漆化 外) 褐褐色	
239	鉢形	b 3.9△ c 5.4○	平底	内外面ともナゲ調整	密	良好	内外面とも褐色	
240	鉢形	b 6.6△ c 7.7○	深み底	内面風化、外面ナゲ調整	密	良好	内外面とも褐色	
241	鉢形	b 5.8△ c 7.1○	深み底	内面風化、外面ナゲ調整	やや粗	良好	内外面とも褐色	
242	鉢形	b 4.1△ c 6.5○	深み底	内面刷毛、外面ナゲ調整	密	良好	内外面とも褐色	
243	鉢形	b 4.0△ c 8.2○	深み底	内外面ともナゲ調整	密	良好	内) 褐色 外) 褐褐色	
244	鉢形	b 3.6△ c 12.0○	平底、1条の浅溝を持つ	内外面とも風化	密	良好	内) 褐色 外) 褐褐色	
245	鉢形	b 5.8△ c 6.6○	平底	内外面とも風化	密	良好	内外面とも褐色	
246	鉢形	b 3.0△ c 7.1○	深み底、脇部が突出する	内面刷毛調整	粗	良好	内外面とも褐色	
247	鉢形	b 2.8△ c 9.0○	平底、焼成後穿孔	内外面とも風化	密	良好	内外面とも褐色	
248	底盤	b 3.0△ c 8.6○	深み底	内外面とも風化	密	良好	内) 褐色 外) 褐褐色	
249	底盤	b 5.8△ c 6.5○	深み底	内面刷毛、ミカキ調整、外面風化	密	良好	内外面とも褐色	
250	底盤	b 5.4△ c 5.5○	深み底	内面刷毛調整、外面風化	密	良好	内外面とも褐色	
251	底盤	b 5.7△	台付き土器底部	内外面とも風化、底部内面に工具痕あり	密	良好	内外面とも褐色	
252	底盤	b 4.0△ c 5.0○	深み底、端部が突出する	内外面とも風化	密	良好	内外面とも褐色	
253	底盤	b 3.7△ c 6.9○	深み底、端部が突出する	内外面とも風化	密	良好	内) 漆黒色 外) 漆黒色	
254	底盤	b 7.7△ c 20.0○	台付き土器底盤	内外面とも風化	やや粗	良好	内外面とも褐色	
255	壺	a 2.2 b 21.4△ c 9.2	平底	内外面とも刷毛、一溝ナゲ	密	良好	内外面とも褐色	
256	壺	a 24.3 b 24.3 c 9.2	平底	内外面とも刷毛、ナゲ調整 二条状	密	良	内外面とも褐色	

表8 長砂第3遺跡 出土土器観察表(土器)

(a:口径 b:器高 c:底径 d:最大径 ○:復元品 △:残存品)

番号	器種	法高cm	形態上の特徴	技 法 上 の 特 徴	胎土	焼成	色 光 調	備考
257	壺	a 36.0△ b 12.4△ c 11.5△	壺底が大きく立ち上る複合1種類	内外面とも風化、頭部に刮擦紋様あり	密	良	内) 黑化 外) 漆黒褐色	
258	壺	a 40.0△ b 13.5△ c 12.5△	壺底が大きく立ち上る複合1種類	内外面とも風化、口縁に半丸竹管、底部に刮擦紋様あり	密	良	内) 漆黒褐色 外) 黑褐色	
259	壺	a 20.2△ b 10.3△ c 10.3△	壺底が外反する壺	壺底が外反する壺	やや粗	良好	内外面とも漆黒褐色	
260	壺	a 22.0△ b 9.9△ c 9.0△	壺底が外反する壺	内外面とも風化	密	良	内外面とも漆黒褐色	
261	壺	a 18.0△ b 11.5△ c 10.5△	壺底が外反する壺	内) 刮擦に擦れさえ 外) 風化	密	良	内外面とも漆黒褐色	
262	壺	a 21.0△ b 10.7△ c 9.2△	壺底が外反する壺	内外面とも風化	やや密	良	内外面とも漆黒褐色	
263	壺	a 22.2△ b 9.2△ c 8.8△	壺底が外反する壺	内外面とも風化	やや密	不良	内外面とも漆黒褐色	
264	壺	a 11.8△ b 6.3△ c 6.3△	壺底が突起が温る壺	内) 風化 外) ナゲ	密	良	内外面とも褐色	
265	壺	a 7.6△ b 5.6△ c 5.6△	小形丸底壺	内) 黑化 外) ナゲ	密	良	内) 漆黒茶色 外) 褐褐色	
266	壺	a 12.0△ b 6.3△ c 6.3△	口縁が大きくなり伸びる小形丸底壺	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも漆黒褐色	
267	壺	a 7.8△ b 9.6△ c 9.6△	小形丸底壺	内) 下部ヘラ彫り 上半部ナゲ、押さえ	やや密	良	内外面とも漆黒褐色	
268	壺	a 8.3△ b 9.0△ c 10.0△	小形丸底壺	内) 刷毛ナゲ 外) ナゲ	密	良	内) 漆黒褐色 外) 褐褐色	
269	壺	a 8.9△ b 12.1△ c 13.0△	1種類壺が内納する丸底壺	内) 雨引 外) ハケ	密	良	内外面とも漆黒褐色	
270	壺	a 9.2△ b 8.1△	小形丸底壺	内) ナゲ、押さえ 外) ナゲ	密	良	内外面とも漆黒褐色	

表9 長沙第3遺跡 出土土器觀察表（土師器）

番号	遺種	記述	記述上の特徴	技術上の特徴	断面	被膜	色	調	備考	
									a : 極高	b : 底高
271	壺	a 6.0cm b 8.0cm	口縁が短く立ち上がる丸底壺	内外面とも楕化	富	やや良	内外面とも灰褐色	—	—	—
272	壺	a 10.8cm b 9.8cm d 12.4cm	口縁が短く立ち上がる小形壺	(内) ハラ削り 外) ハケ	富	やや良	内外面とも淡茶褐色	—	—	—
273	壺	a 9.7cm b 12.5cm d 12.6cm	口縁部が短く外反する底部に焼成跡があり	11縁部ナデ	富	良	内外面とも淡褐色 外) 有斑あり	—	—	—
274	壺	a 10.5cm b 13.1cm d 14.6cm	口縁部が短く外反する丸底壺	(内) ハラ削り 外) ハケ	富	良	内外面とも淡褐色 外) 中位に焼成斑	—	—	—
275	壺	a 12.0cm b 6.5cm d 18.9cm	(内) 1手持ち平底の呑呑形腹に穿孔あり	内) ハラ削り 外) 扁化	やや富	良	(内) 水鉄色 外) 淡茶褐色	—	—	—
276	壺	a 7.6cm b 8.5cm	口縁部が外方に伸びる	(内) 扁化 外) ハケ	富	やや良	内外面とも褐色	—	—	—
277	壺	a 9.2cm b 8.2cm d 11.2cm	口縁が短く外反する壺	内外面ともナデ	富	良	(内) 扇形褐色 外) 帽状褐色	—	—	—
278	壺	a 12.0cm b 6.5cm	口縁が短く外反する壺	(内) ハラ削り 外) ナデ	富	やや良	内外面とも灰褐色	—	—	—
279	壺	a 7.6cm b 5.7cm	口縁が円弧する壺	内外面ともナデ	富	良	(内) 帽状褐色 外) 淡褐色	—	—	—
280	壺	a 8.0cm b 4.3cm	口縁が外反する壺	内外面とも扁化	富	良	(内) 黒褐色 外) 粉褐色	—	—	—
281	壺	a 15.8cm b 5.6cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) 扇形ナデ	富	良好	内外面とも明灰褐色	—	—	—
282	壺	a 16.0cm b 4.7cm	複合口縁壺	(内) 扁化 外) ナデ	富	良	内外面とも明灰褐色	—	—	—
283	壺	a 15.8cm b 4.7cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) 扇形ナデ	富	良	内外面とも灰褐色	—	—	—
284	壺	a 15.0cm b 5.2cm	複合口縁壺	内外面ともナデ	富	良好	内外面とも淡褐色	—	—	—
285	壺	a 16.0cm b 4.0cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) 扇形ナデ	富	良好	内外面とも灰褐色	—	—	—
286	壺	a 15.8cm b 5.0cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	富	やや良	内外面とも明灰褐色	—	—	—
287	壺	a 16.8cm b 5.6cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	やや富	不良	内外面とも明灰褐色	—	—	—
288	壺	a 12.8cm b 5.2cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) ナデ	富	良好	内外面とも明灰褐色	—	—	—
289	壺	a 13.9cm b 5.0cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	やや富	良好	内外面とも灰褐色	—	—	—
290	壺	a 14.4cm b 5.6cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) 扁化	やや富	良好	内外面とも明灰褐色	—	—	—
291	壺	a 11.8cm b 5.8cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) 扁化	富	良	(内) 扇形褐色 外) 壶化	—	—	—
292	壺	a 16.5cm b 17.0cm	側縁に段を持つ複合口縁壺	(内) 削り 外) ハケ	富	良好	内外面とも灰褐色	—	—	—
293	壺	a 19.0cm b 8.7cm	複合口縁壺	(内) 扁化 外) ハケ、口縁部ナデ	富	良	内外面とも灰褐色	—	—	—
294	壺	a 16.0cm b 3.5cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	富	良	内外面とも灰褐色	—	—	—
295	壺	a 16.0cm b 3.5cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	富	良	内外面とも灰褐色	—	—	—
296	壺	a 16.0cm b 7.3cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) ナデ、口縁部ナデ	富	良好	内外面とも淡褐色	—	—	—
297	壺	a 18.0cm b 5.4cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	富	良	内外面とも明灰褐色	—	—	—
298	壺	a 17.0cm b 6.8cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) 扁化	富	良	内外面とも灰褐色	—	—	—
299	壺	a 17.0cm b 6.8cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) ナデ	富	良	内外面とも明灰褐色	—	—	—
300	壺	a 20.6cm b 4.8cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	富	やや良	内外面とも淡褐色	—	—	—
301	壺	a 22.0cm b 5.6cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) ナデ、(1)口縁部ナデ	富	良	暗灰茶色	—	—	—
302	壺	a 15.0cm b 5.0cm	複合口縁壺	(内) 削り 外) ナデ	富	良	(内) 暗色 外) 有斑あり	—	—	—
303	壺	a 14.0cm b 3.5cm	複合口縁壺	内外面とも扁化	富	やや良	内外面とも粉褐色	—	—	—
304	壺	a 19.0cm b 4.0cm	退化した複合口縁壺	(内) 削り 外) ナデ、口縁部ナデ	富	良好	内外面とも淡灰茶色	—	—	—
305	壺	a 13.4cm b 3.2cm	退化した複合口縁壺	内外面ともナデ	富	良好	内外面とも明灰褐色	—	—	—
306	壺	a 18.0cm b 11.5cm	退化した複合口縁壺	内外面とも扁化	やや富	やや良	内外面とも淡灰茶色	—	—	—
307	壺	a 13.7cm b 10.5cm	退化した複合口縁壺	(内) 削り 外) ハケ、(1)口縁部ナデ	富	良	内外面とも淡褐色	—	—	—
308	壺	a 19.0cm b 7.0cm	退化した複合口縁壺	内外面とも扁化	やや富	不良	内外面とも灰褐色	—	—	—
309	壺	a 16.2cm b 4.8cm	退化した複合口縁壺	(内) 削り 外) ハケ、(1)口縁部ナデ	富	良好	内外面とも粉褐色	—	—	—

表10 長砂第3遺跡 出土土器観察表（土器部）

番号	器種	法算cm	形態上の特徴	技法上の特徴	胎土	焼成	色・光・調	備考
310	甕	a 16.0 b 8.5△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) 風化	やや密	やや良	内外面とも灰茶色	
311	甕	a 18.0△ b 6.7△	退化した複合口縁甕	内) 風化 外) ナデ	やや密	やや良	内外面とも灰茶色	
312	甕	a 19.0△ b 5.8△	退化した複合口縁甕	内外面とも風化	密	良	(内) 淡灰褐色 (外) 黒斑あり (内) 淡灰褐色 (外) 底褐色	
313	甕	a 17.0△ b 5.0△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) ナデ	密	良	(内) 淡灰褐色 (外) 底褐色	
314	甕	a 8.0△ b 7.0△	複合口縁甕	内) 剥り 外) 風化	密	やや良	内外面とも明灰褐色	
315	甕	a 18.0△ b 3.5△	複合口縁甕	内外面とも風化	密	やや良	(内) 明灰褐色 (外) 黑化	
316	甕	a 15.0△ b 3.5△	退化した複合口縁甕	口縁部ナデ	密	良好	(内) 黑素色 (外) 底褐色	
317	甕	a 16.0△ b 3.0△	退化した複合口縁甕	口縁部ナデ	密	良	内外面とも明灰褐色	
318	甕	a 16.0△ b 5.0△	退化した複合口縁甕	口縁部ナデ	密	良	内外面とも明灰褐色	
319	甕	a 5.0△ b 20.0△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) 風化	密	良	内外面とも明灰褐色	
320	甕	a 5.0△ b 7.5△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) ハケ	密	良	内外面とも明灰褐色	
321	甕	a 7.5△ b 11.5△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) ハケ	やや密	やや良	内外面とも明灰褐色	
322	甕	a 19.0△ b 5.0△	複合口縁甕	内外面とも風化	密	良	内外面とも淡灰褐色	
323	甕	a 17.0△ b 5.7△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	(内) 暗灰茶色 (外) 黑茶色	
324	甕	a 18.1△ b 6.0△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) 風化	密	良	内外面とも淡灰褐色	
325	甕	a 18.0△ b 6.5△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) 不明、口縁部ナデ	密			
326	甕	a 18.5△ b 6.0△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) ハケ、口縁部ナデ	やや密	小良	(内) 淡灰褐色 (外) 褐色	
327	甕	a 17.0△ b 5.5△	甕	内外面とも風化	やや密	やや良	内外面とも灰褐色	
328	甕	a 14.5△ b 6.0△	退化した複合口縁甕	内) 剥り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも灰茶色	
329	甕	a 18.8△ b 8.3△	退化した複合口縁甕	内外面とも風化	やや密	不良	内外面とも明灰褐色	
330	甕	a 17.9△ b 10.2△	口縁は直・直ぐ外折し、底部を肥厚させる。口部に縫割がある。底部に燒成後変化する。	内) ヘラ削り、指押さえ 外) タテハケ後ヨコハケ	密	良	内外面とも淡灰褐色 外) 烧付着	●
331	甕	a 17.0△ b 9.8△	「く」の字口縁甕	内) 剥り、底面凹あり 外) ハケ	やや密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
332	甕	a 20.0△ b 11.3△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	やや良	内外面とも淡灰褐色 外) 底斑あり	
333	甕	a 13.8△ b 8.7△	「く」の字口縁甕	底部に面を持つ 内) 剥り 外) ハケ、口縁部ナデ	密		内外面とも明灰褐色	
334	甕	a 17.2△ b 5.7△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 底部をつまみ上げる 外) 風化	密	良	内外面とも淡灰褐色	
335	甕	a 13.7△ b 6.4△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 底部は上立に立ち上がる 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	(内) 灰茶色 (外) 黑茶色	
336	甕	a 16.8△ b 5.2△	「く」の字口縁甕	内) ナデ 外) タテハケ後ヨコハケ	密	良好	内外面とも灰褐色	
337	甕	a 28.0△ b 19.2△	やや厚みのある「く」の字口 縁甕	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	(内) 烧付着 (外) 法鉢褐色	
338	甕	a 19.0△ b 6.0△	「く」の字口縁甕	内外面とも風化	やや密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
339	甕	a 19.5△ b 8.0△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
340	甕	a 21.0△ b 5.0△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) 風化	密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
341	甕	a 16.0△ b 5.2△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) 風化、口縁部ナデ	密	良	内外面とも明灰褐色	
342	甕	a 17.0△ b 8.5△	「く」の字口縁甕	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも灰褐色	
343	甕	a 12.8△ b 11.0△	「く」の字口縁甕	内外面とも風化	やや密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
344	甕	a 16.0△ b 5.1△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色 外) 底斑あり	
345	甕	a 19.5△ b 7.0△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
346	甕	a 18.0△ b 10.0△	口縁部に面を持つ「く」の 字口縁甕	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	良好	内外面とも明灰褐色 外) 底斑あり	
347	甕	a 19.0△ b 7.0△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも灰褐色 外) 底斑あり	
348	甕	a 17.5△ b 7.8△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) 風化	密	やや良	内外面とも淡灰茶色	
349	甕	a 15.5△ b 9.0△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) 風化、口縁部ハケ後ナデ	密	良	内外面とも灰褐色	
350	甕	a 15.7△ b 7.3△	「く」の字口縁甕	内) ヘラ削り 外) 風化、口縁部ナデ	密	良	内外面とも褐色	

表11 長沙第3遺跡 出土土器観察表（土師器）

(a:口径 b:高さ c:底径 d:最大径 ○:復元品 △:既存品)

番号	器種	法式(a)	形態上の特徴	技術上の特徴	断面	側面	色調	備考
351	甌	a 16.0△ b 4.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	良	内外面とも淡赤褐色	
352	甌	a 13.0△ b 6.5△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも暗灰褐色	
353	甌	a 17.8△ b 4.3△	「く」の字口縁型	内外面とも風化	密	良	内外面とも棕褐色	
354	甌	a 19.0△ b 5.5△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) 風化	密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
355	甌	a 17.0△ b 8.7△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも明褐色	
356	甌	a 17.0△ b 5.5△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	良	内外面とも淡褐色	
357	甌	a 18.0△ b 6.0△	「く」の字口縁型	内) 断面とも風化	密	やや良	内外面とも淡褐色	
358	甌	a 19.0△ b 5.5△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ、口縁部ナデ	密	良好	内外面とも暗灰褐色	
359	甌	a 12.0△ b 6.0△	「く」の字口縁型	内外面とも風化	密	やや良	内) 淡赤褐色 外) 暗赤褐色 内) 棕色 外) 黑斑あり	
360	甌	a 13.0△ b 5.5△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	良	内外面とも灰褐色	
361	甌	a 25.0△ b 8.7△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) 風化	密	良	内外面とも灰褐色	
362	甌	a 21.0△ b 5.5△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) 風化	密	やや良	内外面とも暗灰褐色	
363	甌	a 16.0△ b 6.8△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも暗褐色	
364	甌	a 19.0△ b 6.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) 風化	密	やや良	内外面とも灰褐色	
365	甌	a 19.0△ b 13.5△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	良	内外面とも暗褐色	
366	甌	a 22.0△ b 8.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ	密	良	内外面とも棕褐色	
367	甌	a 21.0△ b 10.0△	1種類断面に面を持つ「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良好	内外面とも灰褐色	
368	甌	a 13.0△ b 7.7△	「く」の字口縁型	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
369	甌	a 22.0△ b 8.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ	密	やや良	内外面とも棕褐色	
370	甌	a 16.5△ b 6.3△	1種類断面に面を持つ「く」の字口縁型	内外面とも風化	密	やや良	内外面とも灰褐色	
371	甌	a 20.0△ b 8.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内) 棕色 外) 黑色	
372	甌	a 12.0△ b 8.4△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ	密	良	内外面とも暗灰褐色	
373	甌	a 15.0△ b 7.5△	「く」の字口縁型	内外面とも風化	密	やや良	内) 棕褐色 外) 黑斑あり	
374	甌	a 25.0△ b 13.0△	「く」の字口縁型	内) 風化 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも明灰褐色	
375	甌	a 18.0△ b 4.5△	頭部断面が紡錘状の「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	良好	内外面とも棕褐色	
376	甌	a 13.0△ b 4.3△	頭部断面が紡錘状の「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ、口縁部ナデ	密	良好	内外面とも棕褐色	
377	甌	a 11.0△ b 10.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
378	甌	a 17.0△ b 5.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ、口縁部ナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
379	甌	a 15.0△ b 6.3△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良好	内外面とも棕褐色	
380	甌	a 16.0△ b 5.4△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部ナデ	密	良好	内外面とも棕褐色	
381	甌	a 12.0△ b 4.6△	「く」の字口縁型	内) 断面とも風化	密	やや良	内外面とも暗灰褐色	
382	甌	a 17.0△ b 4.3△	受け口状を呈する「く」の字口縁型	内外面とも風化	密	良	内外面とも灰褐色	
383	甌	a 13.0△ b 5.6△	受け口状を呈する「く」の字口縁型	内外面とも風化	密	良	内外面とも灰褐色	
384	甌	a 12.0△ b 11.7△ b 15.8△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ 口縁部ナデ	密	良好	内外面とも棕褐色	
385	甌	a 16.0△ b 5.1△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも淡赤褐色	
386	甌	a 11.6△ b 7.2△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
387	甌	a 19.0△ b 8.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ハケ、口縁部内面ハケ	密	良	内外面とも暗灰褐色	
388	甌	a 19.0△ b 10.4△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ	密	良好	内外面とも棕褐色	
389	甌	a 14.0△ b 6.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) 風化、口縁部ナデ	密	やや良	内) 淡茶色 外) 暗灰褐色	
390	甌	a 15.0△ b 6.0△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) 風化、口縁部ナデ	密	やや良	内外面とも淡灰褐色	
391	甌	a 26.0△ b 7.6△	「く」の字口縁型	内) ヘラ削り 外) ナデ、口縁部ナデ	密	良	内外面とも棕褐色	

表12 長砂第3造跡 出土土器観察表(土師器)

番号	器種	法面cm	形態上の特徴	技法上の特徴	胎土	焼成	色と 質	備考
					密	良好	内外面とも灰褐色	
392	甕	a 10.50 b 5.20	「く」の字口縁裏 b 11.5cm	(内) ヘラ削り (外) ハケ	密	良	内外面とも灰褐色	
393	甕	a 17.60 b 11.5cm	「く」の字口縁裏 b 11.3cm	(内) ヘラ削り (外) 極化、口縁部ナデ ナデ	密	良	内外面とも灰褐色	
394	甕	a 19.60 b 11.5cm	「く」の字口縁裏 b 11.3cm	(内) ヘラ削り (外) 極化、口縁部ナデ ナデ	密	良	内外面とも灰褐色 外: 黒斑あり	
395	甕	a 20.50 b 11.5cm	「く」の字口縁裏 b 7.5cm	(内) ヘラ削り (外) 極化、口縁部ナデ ナデ	密	良	内外面とも灰褐色	
396	甕	a 17.70 b 10.80	「く」の字口縁裏 b 13.1cm	(内) ヘラ削り (外) ハケ、口縁部ナデ ナデ	密	良	内外面とも灰褐色 外: 黑斑あり	
397	甕	a 18.50 b 7.5cm	「く」の字口縁裏 b 3.5cm	(内) ヘラ削り (外) ハケ、口縁部ナデ ナデ	密	良好	内外面とも灰褐色	
398	甕	a 26.00 b 5.5cm	「く」の字口縁裏 b 3.5cm	(内) ヘラ削り (外) 内外とも灰化	やや密	やや良	内外面とも灰褐色	
399	甕	a 16.80 b 7.1cm	「く」の字口縁裏 b 7.1cm	(内) ヘラ削り (外) ナデ、口縁部ナデ ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
400	甕	a 17.00 b 4.3cm	「く」の字口縁裏 b 13.1cm	(内) ヘラ削り (外) 内外とも灰化	密	やや良	内外面とも灰褐色	
401	甕	a 17.85 b 7.5cm	「く」の字口縁裏 b 7.5cm	(内) ヘラ削り (外) ナデ	密	良	内外面とも灰褐色	
402	甕	a 11.80 b 13.1cm	「く」の字口縁裏 b 13.1cm	(内) ヘラ削り (外) ナデ	密	良好	内外面とも灰褐色	
403	甕	a 14.0 b 22.6 c 22.4	「く」の字口縁裏 口縁部ナデ	(内) ヘラ削り (外) ハケ	密	良好	内外面とも灰褐色	
404	高环	a 19.0 b 7.0cm	環部が段付高环	内外面とも灰化	密	やや良	内外面とも灰褐色	
405	高环	a 28.4 b 70.4cm	口縁部が外反する高环	内外面ともナデ	密	良	内外面とも灰褐色	
406	高环	a 18.00 b 4.5cm	口縁部が外反する高环	(内) 灰化 (外) ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
407	高环	b 7.0cm	口縁部が外反する高环	(内) 灰化 (外) ナデ	密	良	内外面とも灰褐色	
408	高环	a 19.50 b 11.6 c 9.5	口縁部が外反する高环	(内) ハケ (外) 灰化	密	良	内外面とも淡灰褐色	
409	高环	a 15.7 b 11.0 c 7.6	口縁部が外反する高环	内外面とも灰化 側内面にはり模あり	密	良	内外面とも灰褐色	
410	高环	a 16.3 b 10.0 c 8.5	口縁部が外反する高环	(内) ナデ (外) ハケ後ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
411	高环	a 18.20 b 12.0	口縁部が外反する高环	(内) ナデ (外) 灰化	密	良	内外面とも淡灰褐色	
412	高环	a 15.60 b 5.4cm	口縁部が外反する高环	内外面に施された所附、环底部に 後合穴あり	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
413	高环	a 19.00 b 6.0cm	口縁部が外反する高环	(内) ハケ (外) ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
414	高环	a 14.2 b 4.3cm	口縁部が外反する高环	内外面ともナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
415	高环	a 18.70 b 5.7cm	口縁部が外反する高环	内外面ともナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色	
416	高环	a 18.00 b 5.6cm	口縁部が外反する高环	内外面ともナデ、环部透に接合穴 あり	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
417	高环	a 5.20 b 5.8cm	口縁部が外反する高环	(内) ミカキ (外) 暗文状ミカキ	密	良好	内外面とも暗褐色	
418	高环	a 16.05 b 4.7cm	口縁部が外反する高环	側面に接合穴あり	密	良好	内外面とも暗褐色	
419	高环	a 17.00 b 3.7cm	口縁部が外反する高环	(内) ミカキ (外) ナデ	密	良好	内外面とも暗褐色	
420	高环	a 14.20 b 9.8 c 8.4	环部が側面を呈する高环	内外面とも不明 側内部にはり模あり	密	良	内外面とも暗灰褐色	
421	高环	a 14.65 b 7.2 c 7.5	环部が側面を呈する高环	内外面ともナデ 側内部にはり模あり	密	良好	内外面とも淡灰褐色	
422	高环	a 13.50 b 8.1 c 7.2	环部が側面を呈する高环	内外面ともナデ 側内部にはり模あり	密	良好	(内) 淡灰褐色 (外) 深灰褐色 外: 黑斑あり	
423	高环	a 14.20 b 9.8 c 7.8	环部が側面を呈する高环	内外面とも不明 側内部にはり模あり	密	良	内外面とも淡灰褐色	
424	高环	a 12.40 b 7.8 c 7.2	环部が側面を呈する高环	内外面とも不明	密	良	内外面とも淡灰褐色	
425	高环	a 13.30 b 8.0 c 6.9	环部が側面を呈する高环	内外面とも不明 側内部にはり模あり	密	良	内外面とも淡灰褐色 外: 黑斑あり	
426	高环	a 13.00 b 6.7	环部が側面を呈する高环	(内) 不明 (外) ナデ	密	良好	内外面とも暗褐色	
427	高环	a 11.20 b 8.1 c 7.8	环部が側面を呈する高环	(内) 不明 (外) ナデ	密	良	内外面とも暗褐色 外: 黑斑あり	

表13 長砂第3遺跡 出土土器観察表（土師器）

番号	面種	法算cm	形態上の特徴	技術上の特徴	胎土	焼成	色調	(a:口径 b:器高 c:底径 d:最大径 ○:復元△:残存部)	
								a	b
428	高环	a 13.8△ b 6.7△	环部が圓錐を呈する高环 11種類が内有する	内外面とも不明	密	やや良	内外面とも明灰褐色		
429	高环	a 12.4△ b 6.7△	环部が複形を呈する高环 10種類が内有する	内外面とも不明	密	やや良	内外面とも淡灰褐色		
430	高环	a 13.7△ b 4.5△	环部が複形を呈する高环 11種類が内有する	内外面とも不明	密	やや良	内外面とも淡灰褐色		
431	高环	b 7.5△ c 8.5△	高环脚部	内) 締合穴、しばり痕あり 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色		
432	高环	b 7.0△ c 8.0△	高环脚部	内) 締合穴、しばり痕あり 外) 不明	密	良好	内外面とも淡灰褐色		
433	高环	b 6.7△ c 8.5△	高环脚部	内) 締合穴、しばり痕あり 外) ナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色		
434	高环	b 6.1△ c 7.2△	高环脚部	内) 締合穴、しばり痕あり 外) ナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色		
435	高环	b 4.6△ c 7.1△	高环脚部	内) 締合穴、しばり痕あり 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色		
436	高环	b 4.8△ c 7.4△	高环脚部	内) 締合穴、しばり痕あり 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色		
437	高环	b 4.6△ c 7.4△	高环脚部	内) 細孔とも不明 外) 締合穴あり	密	良	内外面とも淡灰褐色		
438	高环	b 4.5△ c 7.7△	高环脚部	内) 細孔とも不明 外) 締合穴あり	密	良	内外面とも明灰褐色		
439	高环	b 4.0△ c 7.7	高环脚部	内) しばり痕あり 外) 不明	密	良	内外面とも明灰褐色		
440	高环	b 4.3△ c 7.2△	高环脚部	内外面とも不明 内) 締合穴あり	密	良	内外面とも明灰褐色		
441	高环	b 4.9△ c 7.7	高环脚部	内外面とも不明 内) 締合穴あり	密	やや良	内外面とも明灰褐色		
442	高环	b 4.3△ c 7.6△	高环脚部	内外面とも不明 内) 締合穴あり	密	良	内外面とも从褐色		
443	高环	b 6.3△ c 8.9△	高环脚部	内) しばり痕あり 外) ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
444	高环	b 4.6△ c 7.9△	高环脚部	内外面とも不明 内) 締合穴あり	密	良	内) 淡褐色 外) 淡褐色		
445	高环	b 6.1△ c 7.8△	高环脚部	内) 不明、接合穴あり 外) ハジ後ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
446	高环	b 6.8△ c 7.9△	高环脚部	内) 不明 外) ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
447	高环	b 4.8△ c 8.0△	高环脚部	内外面とも不明	やや密	良	内外面とも淡灰褐色		
448	高环	b 6.5△ c 9.9	高环脚部	内) 不明 外) ハジ後ナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
449	高环	b 5.8△ c 8.8△	高环脚部	内) 不明 外) ナデ	密	良	内) 淡灰褐色 外) 淡褐色		
450	高环	b 5.8△ c 8.3△	高环脚部	内外面とも不明	密	良	内外面とも淡灰褐色		
451	高环	b 3.6△ c 8.5	高环脚部	内) 不明 外) ナデ	密	良好	内外面とも淡褐色		
452	高环	b 3.4△ c 7.9	高环脚部	内外面ともナデ	密	良好	内外面とも淡褐色		
453	高环	b 3.2△ c 7.9	高环脚部	内外面とも不明	密	やや良	内外面とも明灰褐色		
454	高环	b 4.3△ c 8.6△	高环脚部	内外面ともナデ	密	良好	内外面とも褐色		
455	高环	b 3.5△ c 9.9△	高环脚部	内外面とも不明	やや密	やや良	内外面とも灰褐色		
456	高环	b 3.6△ c 7.4	高环脚部	内) 不明 外) ナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色		
457	高环	b 3.5△ c 8.2△	高环脚部	内外面ともナデ	密	良好	内外面とも褐色		
458	高环	b 3.8△ c 8.4	高环脚部	内外面ともナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
459	高环	b 4.5△ c 6.0△	高环脚部	内外面ともナデ	密	良好	内外面とも褐色		
460	高环	b 3.1△ c 10.3	高环脚部	内外面ともナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
461	高环	b 3.0△ c 8.0△	高环脚部	内外面ともナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
462	高环	b 4.2△ c 7.0△	高环脚部	内外面とも不明	密	良	内) 淡灰褐色 外) 淡褐色		
463	高环	b 3.1△ c 7.0△	高环脚部	内外面ともナデ	密	良好	内外面とも淡褐色		
464	高环	b 3.6△ c 6.3△	高环脚部	内外面ともナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色		
465	高环	b 2.8△ c 7.0△	高环脚部	内外面とも不明	やや密	やや良	内外面とも淡灰褐色		
466	高环	b 9.2△ c 10.9△	高环脚部	内外面ともナデ 一方に円形の造り込み	密	良	内外面とも淡灰褐色		
467	高环	b 8.5△ c 10.5△	高环脚部	内) 脚部ハケ 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色		
468	高环	b 8.2△ c 10.7	高环脚部	内) 脚部ハケ 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色		
469	高环	b 8.0△ c 12.4	高环脚部	内外面とも不明	密	やや良	内外面とも褐色		

表14 長砂第3遺跡 出土器物観察表（土器部）

(a : 11件 b : 器部 c : 様式 d : 最大径 ○ : 複元件 △ : 残存品)

番号	器種	法量cm	形態上の特徴	技法上の特徴	出土	焼成	色々	調	備考
470	高杯	b 7.8△ c 3.7△	高环脚部 内) しづり模あり 外) 不明	密	良好	内外面とも淡灰褐色			
471	高杯	b 7.5△ c 3.4△	高环脚部 内) しづり模なし	密	良	内外面とも淡灰褐色			
472	高杯	b 5.0△ c 3.6△	高环脚部 内) しづり模あり 外) ナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色			
473	高杯	b 4.8△ c 3.6△	高环脚部 内) しづり模あり 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色			
474	高杯	b 4.3△ c 3.7△	高环脚部 内) しづり模あり 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色			
475	高杯	b 4.3△ c 3.4△	高环脚部 内) ナデ、しづり模あり 外) 不明	密	良	内外面とも明灰褐色			
476	高杯	b 2.8△ c 3.0△	高环脚部 内) しづり模あり 外) ナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色			
477	高杯	b 7.4△ c 7.4△	高环脚部 内) しづり模あり 外) 不明	密	良	内外面とも淡灰褐色			
478	高杯	b 5.6△ c 10.4△	高环脚部 内) ナデ 外) 不明	密	やや良	内) 黑化 外) 淡灰褐色			
479	高杯	b 5.5△ c 8.8△	高环脚部 内) しづり模あり	密	良	内外面とも淡灰褐色			
480	高杯	b 6.6△ c 8.5△	高环脚部 内) 外面とも不明	密	良	内外面とも淡灰褐色 側内黒化			
481	高杯	b 6.7△ c 9.0△	高环脚部 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色			
482	高杯	b 6.2△ c 8.2△	高环脚部 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色			
483	高杯	b 4.7△ c 7.2△	高环脚部 内) 外面とも不明	密	良	内) 淡灰褐色 外) 明灰褐色			
484	高杯	b 1.8△ c 7.9△	低脚高环脚部 内) 外面とも不明	密	良	内外面とも淡灰褐色			
485	高杯	b 2.4△ c 7.1△	低脚高环脚部 内) 外面ともナデ	やや密	良	内外面とも淡灰褐色			
486	高杯	b 2.1△ c 9.0△	低脚高环脚部 内) 外面とも不明	密	やや良	内外面とも淡灰褐色			
487	高杯	b 4.3△ c 8.0△	低脚高环脚部 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも暗褐色			
488	高杯	b 2.2△ c 5.6△	低脚高环脚部 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも暗褐色			
489	高杯	b 1.7△ c 5.7△	低脚高环脚部 内) 外面ともナデ	密	良	内外面とも灰褐色			
490	高杯	b 2.5△ c 6.8△	低脚高环脚部 内) 不明 外) ナデ	密	良	内外面とも明灰褐色			
491	高杯	b 2.6△ c 5.5△	低脚高环脚部 内) 外面とも不明	密	やや良	内外面とも明灰褐色			
492	高杯	b 1.8△ c 2.0△	低脚高环脚部 内) 外面とも不明	密	良	内外面とも淡灰褐色			
493	高杯	b 3.2△ c 6.5△	低脚高环脚部 内) 外面とも不明	密	やや良	内外面とも淡灰褐色			
494	高杯	b 2.9△ c 8.8△	低脚高环脚部 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも淡灰褐色			
495	高杯	b 6.4△	透かし三方 内) しづり模あり 外) 不明	密	やや良	内外面とも淡灰褐色			
496	环	a 14.6△ b 7.0△	口縁部が内凹する环 内) 不明 外) ナデ	密	良	内) 明灰褐色 外) 暗褐色			
497	环	a 12.0△ b 5.9△	口縁部が内凹する环 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも明灰褐色			
498	环	a 12.0△ b 5.1△	口縁部が内凹する环 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも灰褐色			
499	环	a 12.9△ b 4.7△	口縁部が内凹する环 内) 外面ともナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色			
500	环	a 13.5△ b 5.0△	口縁部が内凹する环 内) 外面とも不明	密	やや良	内外面とも淡灰褐色			
501	环	a 12.7△ b 3.8△	口縁部が内凹する环 内) 外面とも不明	密	良	内外面とも淡灰褐色			
502	环	a 13.0△ b 4.3△	口縁部が内凹する环 内) 外面とも不明	密	良	内外面とも淡灰褐色			
503	环	a 12.5△ b 5.1△	口縁部が直立する环 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも明灰褐色			
504	环	a 13.0△ b 4.0△	口縁部が直立する环 内) ハケ後ナデ 外) ナデ	密	良	内外面とも明灰褐色			
505	环	a 13.8△ b 4.2△	口縁部が直立する环 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも暗褐色			
506	环	a 13.0△ b 4.8△	口縁部が直立する环 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも暗褐色			
507	环	b 4.3△	やや厚みのある环 内) 外面ともナデ	密	良	内外面とも淡灰褐色			
508	环	a 14.4△ b 4.2△	口縁部が直立する环 内) 外面ともナデ	密	良	内外面とも明灰褐色			
509	环	a 14.2△ b 3.2△	口縁部が直立する环 内) 外面ともナデ	密	良	内) 淡灰褐色 外) 淡灰褐色			
510	环	a 14.6△ b 4.9△	口縁部が直立する环 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも暗褐色			
511	环	a 19.0△ b 4.9△	口縁部が外方にまづまづする环 内) 外面とも不明	密	良	内外面とも灰褐色			
512	鉢	a 9.8△ b 4.3△	口縁部が直く外反する鉢 内) 外面ともナデ	密	良好	内外面とも暗褐色			

表15 長沙第3遺跡 出土土器観察表(土器)

番号	商種	法量cm	形態上の特徴	技 法上 の 特 象	助手	焼成	色	調	備考
					密	直	内外面とも灰褐色		
513	鉢	a 11.0○ b 6.9△	口縁部が短く外反する鉢	内外面とも不明	密	直	内外面とも灰褐色		
514	环	b 3.9△	口縁部を欠く筒形の环	(内) ナデ? 放射状の暗い 外) 不明	密	直	内外面とも灰褐色		
515	环	a 14.6○ b 5.7	口縁部が直立する粗製の环	内外面とも不明	粗	不直	内外面とも灰褐色		
516	环	a 6.6○ b 7.7	口縁部がすぼまる环か?	内外面ともナデ?	密	直	内外面とも淡褐色		
517	缶	a 17.6○ b 4.8△	筒形缶身	内外面とも不明	やや密	直	内外面とも淡褐色		
518	釜	b 3.5△	鍛形釜身	内外面とも不明	やや密	直	内外面とも淡灰褐色		
519	釜	b 7.9△	鍛形釜身	内外面とも不明	やや密	直	内外面とも暗灰褐色		
520	釜	b 2.5△	環状のつまみを付ける	内外面ともナデ	密	直	内外面とも灰褐色		
		b 4.0	釜か?						
521	初鍛車	e 4.7 f 1.1	正円形の終済車	ナデ	密	やや直	灰褐色		
522	初鍛車	e 4.0△ f 1.2	正円形の終済車半分を欠く	ナデ	密	直	淡褐色		
523	上鍛	f 4.3△ f 3.0△	変形の上鍛	不明	密	やや直	褐色		
524	上鍛	f 3.1 f 2.8	上状の上鍛	ナデ	密	直	淡褐色		
525	土鍛	e 3.4△ t 2.9	五枚の土鍛	不明	やや密	やや直	灰褐色		
526	土鍛	e 4.7 t 3.4	音状の土鍛	ナデ	密	直	暗褐色		
527	土鍛	e 4.7 f 3.4	音状の土鍛	不明	やや密	やや直	灰褐色		
528	土鍛	e 4.1 f 2.1	音状の土鍛	不明	密	直	淡灰褐色		
529	鍛	a 6.8○ b 2.9△	ミニチュアの鍛	不明	やや密	やや直	内外面とも淡灰褐色		
530	鍛	a 4.5△ b 3.7	ミニチュアの鍛	ナデ	やや密	やや直	内外面とも淡褐色		
531	鍛	a 5.0○ b 3.0	ミニチュアの鍛	ナデ	やや密	良好	内外面とも精褐色		
532	底部	b 2.6△	ミニチュアの車底盤か?	ナデ	やや密	やや直	内外面とも淡褐色		
533	底部	b 3.2△	ミニチュアの車底盤か?	不明	密	直	淡褐色		
534	底部	b 1.8△	ミニチュアの車底盤か?	不明	やや密	やや直	内外面とも淡灰褐色		
535	小环	b 1.9 c 2.9○	ミニチュアの环か?	不明	密	直	内外面とも灰褐色		
536	不明	a 3.4 b 0.9△	器種不明、穿孔あり	不明	やや密	やや直	内外面とも精褐色		
537	高环	b 1.4	ミニチュア高环	不明	やや密	やや直	内外面とも淡灰褐色		
538	高环	b 2.0△	ミニチュア高环	不明	密	直	内外面とも淡褐色		
539	不明	b 6.1△	陶輪は火に焼けた土製品	不明	密	やや直	内外面とも暗褐色		
540	高台	a 4.0 b 4.7 c 7.0○	ミニチュアの高台	ナデか?	やや密	直	灰褐色		
541	不明	b 2.3△ c 2.3	ミニチュア土製品	ナデ	密	直	灰褐色		
542	不明	a 4.0△ b 0.9△	ミニチュア土製品	ナデ	密	良好	淡褐色		
543	不明	c 4.2○ b 5.9 c 6.1○	陶瓶あり	ナデ	やや密	直	淡褐色		
544	环	b 1.7△ c 4.4	底部に斜切り痕を持つ环底盤	内) ナデ 外) ナデ、洗削削除斜切り	密	直	内外面とも灰褐色		
545	环	b 1.5△ c 5.4○	底部に斜切り痕を持つ环底盤	内) ナデ 外) ナデ、底部削除斜切り	やや密	直	内) 灰褐色 外) 灰褐色		
546	环	b 4.4△ c 8.4	底部に高台を持つ环	内外面とも不明	密	直	内外面とも淡褐色		
547	鍛?	b 5.2△	36部の山台を持つ鍛?	内外面ともナデ	密	直	内外面とも淡褐色		
548	鍛?	b 20.8○ b 7.8△	口縁部に山台を持つ瓦質土器	内) 小明 外) カキ目	粗密	直	内) 白灰色 外) 灰色		
549	車?	a 15.2○ b 6.5△	2条の輪軸を持つ瓦質土器	内外面とも不明	密	直	内) 白灰色 外) 灰色		
550	瓶?	a 29.4○ b 31.2○ c 7.6○	口縁部が内側する瓶 收口? は体部に穿孔して 接合する	内) ケズリ、ナデ 外) ハケ	密	直	内外面とも灰褐色		
551	瓶?	a 20.4○ b 7.2△	口縁部前面に粘土を瓶に張り 付けた	内外面とも不明	密	直	内) 淡褐色 外) 黒斑あり		
552	瓶?	a 16.8○ b 8.5△	突端を高らす	内外面とも不明	密	直	内外面とも淡褐色		
553	瓶?	a 32.0○ b 9.8△	空器を這らす	内) ヘラタケリ 外) ハケ	密	直	内外面とも淡褐色		
554	瓶?	c 7.2△ f 9.5△	山形や瓶形土器の付り手	内外面とも不明	密	直	内外面とも淡褐色		
555	瓶?	e 10.6○ f 20.0○	山形や瓶形土器	内外面とも不明	密	直	内外面とも淡褐色		
556	瓶?	a 23.2 b 36.2	瓶を持つ移動式壺	内) ヘラタケリ 外) ハケ	密	直	内外面とも淡褐色		

表16 長砂第3遺跡 出土遺物觀察表（須恵器）

番号	器種	口径(cm)	高さ(cm)	焼成	胎土	色調	胎土分析No.	クラスター番号	分類
557	环甌	9.0	4.1	良好	細密	灰色	344	321	B
558	环甌	11.0	5.1	良好	粗密	内)灰白色 外)暗灰褐色	351	326	B
559	环甌	13.0	5.3	良好	細密	青灰褐色	274	263	B
560	环甌	10.8	5.6	良好	細密	暗灰褐色	354	329	B
561	环甌	11.0	5.0	良好	細密	内)白灰褐色 外)暗灰褐色	321	300	B
562	环甌	12.6	5.6	不良	粗密	紫灰褐色	121	120	B
563	环甌	13.4	5.2	良好	粗密	内)明灰褐色 外)黑褐灰色	289	274	B
564	环甌	13.0	5.4	良好	粗密	内)褐灰褐色 外)茶褐灰色	280	267	B
565	环甌	12.9	5.3	良好	細密	内)明灰褐色 外)青灰褐色	273	262	B
566	环甌	14.0	4.8	良好	密	内)灰色 外)茶褐色	123	122	B
567	环甌	11.5	4.9	良好	密	外面綠茶褐色 輪付有	137	136	B
568	环甌	13.5	5.5	良好	密	灰色	122	121	B
569	环甌	13.0	4.8	良好	細密	灰色	341	318	B
570	环甌	12.5	5.0	良好	密	灰色	127	126	B
571	环甌	13.0	4.9	良好	密	青灰褐色	279	266	B
572	环甌	12.0	5.1	良好	細密	青灰褐色	272	261	B
573	环甌	13.0	4.2	良好	砂利合む	暗灰褐色	319	298	B
574	环甌	10.6	5.0	良好	密	輪底包地 外面自然輪付有	134	133	B
575	环甌	11.8	5.5	不良	粗密	乳白色	125	124	B
576	环甌	11.6	5.2	やや軟質	密	淡青灰褐色	291	276	B
577	环甌	11.8	5.7	良好	粗密	黑灰褐色	126	125	B
578	环甌	13.0	5.5	良好	粗密	淡灰褐色	326	305	B
579	环甌	12.3	4.7	良好	密	外面綠灰褐色	129	128	B
580	环甌	13.0	3.7	良好	細密	暗灰褐色	353	328	B
581	环甌	12.2	5.0	良好	密	青灰褐色	287	272	B
582	环甌	10.2	4.9	良好	密	灰茶色	136	125	B
583	环甌	12.0	5.1	やや軟質	粗密	暗青灰褐色	332	311	B
584	环甌	12.2	4.3	良好	密	灰色	124	123	B
585	环甌	12.0	4.8	良好	細密	淡灰褐色	318	297	B
586	环甌	11.6	4.8	良好	密	灰色	131	130	B
587	环甌	12.0	5.3	良	細密	密	320	299	C
588	环甌	13.0	5.0	良好	やや粗	淡青灰褐色	277	265	C
589	环甌	12.2	4.4	良好	密	内)灰褐色 外)淡褐青灰褐色	288	273	C
590	环甌	12.8	4.9	良好	密	灰色	130	129	C
591	环甌	11.8	4.0	良好	密	内)濃青灰褐色 外)暗灰褐色	295	279	A
592	环甌	13.0	3.7	軟質	細密	淡灰褐色	340	317	A
593	环甌	13.0	5.0	軟質	細密	淡灰白色	322	301	A
594	环甌	12.7	4.4	良好	密	青灰褐色	275	264	A
595	环甌	14.0	4.7	良好	細密	暗灰褐色	94	94	A
596	环甌	13.2	4.9	良好	密	青灰褐色	132	131	A
597	环甌	12.6	5.0	やや良	密	灰色	133	132	A
598	环甌	12.0	4.7	此	やや粗	灰色	339	316	A
599	环甌	12.5	5.0	良好	粗密	青灰褐色	294	278	D
600	环甌	13.2	4.6	良好	密	青灰褐色	297	281	D
601	环甌	12.8	5.15	良好	密	青灰褐色	290	275	D
602	环甌	14.0	4.5	良好	密	青灰褐色	285	270	D
603	环甌	12.4	5.2	良好	密	青灰褐色	293	277	D
604	环甌	14.0	4.8	良	細密	暗灰褐色	313	292	D
605	环甌	12.8	4.4	良好	密	暗灰褐色	296	280	D
606	环甌	13.0	4.35	良好	細密	暗灰褐色	283	268	D
607	环甌	13.8	4.7	良好	細密	青灰褐色	284	269	D
608	环甌	13.0	5.3	良好	細密	内)青灰褐色 外)綠灰褐色	286	271	D
609	环甌	13.6	4.9	良好	密	灰色	128	127	D
610	环甌	11.8	3.6	略缺	密	内)濃青灰褐色 外)褐青褐色	281	261	E
611	环甌	12.0	3.9	良好	粗密	内)青灰褐色 外)灰色			E
612	环甌	12.9	4.0	良好	密	内)紫灰褐色 外)暗青灰褐色			E
613	环甌	12.6	4.7	良好	密	灰色 炭化物青			E
614	环甌	12.0	4.0	良好	密	内)淡灰褐色 外)淡绿灰褐色			E
615	环甌	13.0	4.5	やや軟質	粗密	灰色	372	351	E
616	环甌	12.0	5.4	良好	粗密	淡灰褐色	338	326	E
617	环甌	13.0	4.7	良好	粗密	淡灰褐色			E
618	环甌	15.0	4.5	良好	5.6の内 砂粒含む	内)青灰褐色 外)濃灰褐色	276	261	E
619	环甌	14.0	3.5	良好	粗密	灰色			E

表17 長妙第3遺跡 出土遺物観察表（須恵器）

番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	形状	胎土	色調	船上分析No.	クラスター番号	分類
620	环形	11.6	4.9	—	鉢	細密	褐色	—	E	
621	环形	11.8	4.5	—	鉢	緻密	褐色	282	E	
622	环形	11.4	5.1	—	鉢	緻密	褐色	292	E	
623	环形	13.8	4.8	—	鉢	良好	褐色	—	E	
624	环形	9.6	3.9	—	鉢	緻密	褐色	—	K	
625	环形	11.3	4.7	—	鉢	良好	褐色	—	E	
626	环形	11.8	4.3	—	鉢	良好	褐色	—	E	
627	环形	11.8	—	3.6	鉢	良好	褐色	—	K	
628	片口	13.2	4.6	—	鉢	良好	褐色	—	E	
629	环形	12.6	5.6	—	鉢	やや粗	褐色	—	E	
630	环形	13.0	3.8	—	鉢	良好	褐色	—	H	
631	环形	12.4	4.7	—	鉢	良好	褐色	135	134	D
632	环形	13.0	4.1	—	鉢	良好	褐色	278	E	

番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	つまみ付(cm)	焼成	胎土	色調	船上分析No.	クラスター番号	分類
633	环形	10.9	6.3	19.8	—	不良	素	孔状褐色	100	103	B
634	环形	10.2	6.1	12.9	—	良好	素	褐色	103	102	B
635	环形	10.4	5.4	12.6	—	普通	素	褐色	96	97	H
636	环形	11.2	5.3	13.4	—	良好	緻密	褐色	117	116	H
637	环形	10.0	5.5	12.6	—	不良	緻密	褐色	115	114	B
638	环形	10.5	5.1	12.7	—	良好	素	褐色	235	230	B
639	环形	9.6	5.6	18.8	—	不良	素	褐色	83	83	B
640	环形	9.0	4.5	11.2	—	不良	素	褐色	114	113	H
641	环形	10.0	5.3	12.6	—	良好	素	深褐色	112	111	H
642	环形	9.8	5.2	12.4	—	良好	素	褐色	232	227	B
643	环形	12.0	4.6	14.0	—	やや軟質	素	褐色	113	112	B
644	环形	10.0	5.6	12.6	—	良好	素	褐色	230	225	B
645	环形	11.5	5.2	13.4	—	妙粒含む	素	褐色	159	168	H
646	环形	11.4	6.1	11.4	—	やや不良	素	褐色	106	105	B
647	环形	11.8	6.0	14.2	—	良好	素	褐色	102	101	B
648	环形	12.0	4.4	14.0	—	軟質	素	白灰褐色	710	109	C
649	环形	10.0	5.1	12.2	—	良好	素	褐色	119	118	A
650	环形	10.2	5.1	12.2	—	不良	素	褐色	118	117	A
651	环形	10.6	4.3	12.4	—	良好	素	褐色	97	96	A
652	环形	10.4	4.6	12.4	—	普通	素	褐色	233	228	A
653	环形	12.5	5.1	15.6	—	良好	素	褐色	99	98	A
654	环形	10.2	6.0	12.6	—	良好	素	褐色	231	226	D
655	环形	10.4	6.3	13.4	—	良好	素	褐色	168	167	D
656	环形	10.2	5.8	12.3	—	良好	素	绿灰色	234	229	D
657	环形	11.2	5.3	13.2	—	良好	緻密	褐色	116	115	D
658	环形	10.2	5.5	12.8	—	やや透	素	褐色	105	104	D
659	环形	12.8	3.7	15.4	—	普通	妙粒含む	褐色	236	231	D
660	环形	12.4	4.7	15.4	—	良好	やや粗	褐色	111	110	D
661	环形	—	3.5	14.0	—	良好	素	褐色	88	88	D
662	环形	—	10.6	5.5	13.0	良好	素	褐色	—	E	
663	环形	—	11.0	5.7	—	やや軟質	素	褐色	—	E	
664	环形	—	11.0	5.8	14.6	良好	素	褐色	—	E	
665	环形	—	10.0	5.3	12.4	やや軟質	素	褐色	—	E	
666	环形	—	10.6	5.4	12.4	普通	素	褐色	229	E	
667	环形	—	9.6	5.0	12.4	良好	素	褐色	—	E	
668	环形	—	10.4	5.2	12.0	良好	素	褐色	—	E	
669	环形	—	11.2	4.8	13.2	やや軟質	素	褐色	—	E	
670	环形	—	8.2	4.5	11.4	良好	素	褐色	—	E	
671	环形	—	9.8	5.0	12.2	良好	素	褐色	—	E	
672	环形	—	10.4	3.8	13.0	透	素	褐色	—	E	
673	环形	—	10.9	3.5	12.6	やや不良	素	褐色	—	E	
674	环形	—	9.8	3.5	12.0	やや不良	素	褐色	—	E	

番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	つまみ付(cm)	焼成	胎土	色調	船上分析No.	クラスター番号	分類
675	环形	12.4	6.5	2.4	良好	素	灰色	210	H	
676	环形	12.2	5.5	—	良好	素	灰色	263	B	
677	环形	12.2	3.0	—	良好	素	灰色	291	B	
678	环形	13.0	5.9	2.5	良好	素	淡青灰色	139	B	
679	环形	12.2	6.1	2.9	良好	素	淡青灰色	140	C	
680	环形	11.5	5.0	3.0	片端	砂利を 多く含む	灰色	202	199	A

番号	器種	口径(cm)	受付(cm)	底径(cm)	深度(cm)	焼成	胎土	色調	船上分析No.	クラスター番号	分類
681	立円筒形	12.2	14.2	8.5	8.6	良好	素	灰色	—	E	
682	立円筒形	—	—	4.4	10.2	良好	素	灰色	238	202	C
683	立円筒形	—	—	3.2	8.0	良	緻密	白灰色	—	E	
684	立円筒形	—	—	4.5	11.0	良	やや粗	灰褐色	—	E	
685	白环(有蓋)	10.4	12.8	10.6	8.4	良好	素	淡灰白色	11	11	D

表18 長沙第3造跡 出土物観察表(須恵器)

番号	器種	口径(cm)	受部径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	燒成	船上	色調	胎土分析No.	クラスター番号	分類
686	高环柄部	—	—	3.0	9.0	やや軟	織密	灰白色	△	—	E
687	高环柄部	—	—	3.8	9.0	良	織密	灰色	—	—	E
688	高环柄部	—	—	2.2	9.0	良	織密	暗灰色	—	—	E
689	高环柄部	—	—	3.0	9.2	良	織密	暗灰色	—	—	E
690	高环柄部	—	—	3.2	9.0	良	織密	灰色	—	—	E
691	高环柄部	—	—	3.0	8.0	良	織密	灰色	—	—	E
692	高环柄部	—	—	3.8	8.0	良	織密	灰色	—	—	E
693	高环柄部	—	—	4.3	8.5	良	織密	灰色	—	—	E
694	高环(有蓋)	10.5	13.0	10.7~11.4	8.2	良好	密	白灰白色	13	13	B
695	高环(有蓋)	10.8	13.2	9.4	8.3	良好	密	白灰白色	—	—	E
696	高环(有蓋)	9.8	12.4	9.2	7.8	良好	密	白灰白色	—	—	E
697	高环(有蓋)	10.2	12.8	5.5	—	良好	密	灰色	—	—	E
698	高环(無蓋)	14.4	—	7.0	—	良好	密	灰色	16	16	H
699	高环(無蓋)	18.8	—	5.4	—	良好	密	暗灰色	17	17	C
700	高环(無蓋)	16.0	—	7.6	—	やや粗	密	淡黃灰色	14	14	A
701	高环(無蓋)	18.4	—	14.5	10.4	良好	密	想灰色	15	15	B
702	高环(無蓋)	15.6	—	11.3	8.8	良好	密	灰色	298	282	D
703	高环(無蓋)	14.8	—	13.5	11.0	良好	密	灰色	—	—	E
704	高环(無蓋)	17.8	—	5.6	—	良好	密	灰色	—	—	E
705	高环柄部	—	—	5.8	11.0	良	織密	灰色	—	—	E
706	高环柄部	—	—	7.1	10.9	良好	密	灰色	—	—	E
707	高环柄部	—	—	8.7	10.8	良好	密	灰色	—	—	E
708	高环柄部	—	—	6.5	10.0	良好	織密	黃灰色	—	—	E
709	高环柄部	—	—	5.7	11.0	良好	密	灰色	300	—	E
710	高环柄部	—	—	3.8	9.0	良	織密	灰色	—	—	E
711	高环柄部	—	—	7.5	10.0	良	織密	暗灰色	—	—	E
712	高环柄部	—	—	4.9	9.0	良好	織密	暗灰色	—	—	E
713	高环柄部	—	—	5.3	9.0	新	織密	灰白色	—	—	E
714	高环柄部	—	—	5.5	10.0	良好	織密	暗灰色	—	—	E
715	高环柄部	—	—	5.4	7.8	良	密	灰色	—	—	E
716	高环柄部	—	—	7.7	12.6	片端	密	淡褐色	—	—	E
717	高环柄部	—	—	11.3	15.0	良好	密	淡褐色	299	283	A

番号	器種	口径(cm)	高さ(cm)	最大腹径(cm)	燒成	船上	色調	胎土分析No.	クラスター番号	分類
718	輪付鉢形器	7.6	9.1	7.1	良好	密	白灰白色	243	230	H

番号	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	燒成	船上	色調	胎土分析No.	クラスター番号	分類
719	縹	13.0	10.8	10.3	良好	密	灰色	143	142	A
720	縹	11.6	11.2	9.7	底部不均	密	灰色	141	140	D
721	縹	11.2	3.4	—	良好	密	淡褐色	145	144	B
722	縹	—	7.4	10.6	良好	密	想灰色	142	141	A
723	縹	—	11.0	5.0	良好	密	淡褐色	—	—	E
724	縹	—	8.0	10.6	良好	密	灰色	144	143	B
725	縹	—	8.5	11.0	良好	密	灰褐色	—	—	E
726	縹	—	7.6	10.4	良好	密	灰色	—	—	E

番号	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	燒成	船上	色調	胎土分析No.	クラスター番号	分類
727	縹白	9.3	—	38.6	良好	密合	2~4種類 外)緑灰色船形	—	—	E
728	縹白	—	19.4	—	良好	密	淡褐色	45	45	B

番号	器種	口径(cm)	高さ(cm)	最大腹径(cm)	燒成	船上	色調	胎土分析No.	クラスター番号	分類	
729	縹	—	19.5	24.0	良好	密	黑色	227	223	A	
730	縹	17.6	8.7	—	不良	密	外面自然輪付	41	41	B	
731	縹	—	5.3	—	中空相	密	乳白色	220	216	B	
732	縹	—	19.0	7.0	良好	密	白色	228	224	A	
733	縹	—	23.0	5.2	良好	密	淡褐色	224	230	A	
734	縹	—	25.0	5.1	良好	織密	内)青灰色 外)栗色	39	39	A	
735	縹	—	31.0	11.2	良好	密	淡褐色	221	217	A	
736	縹	—	33.6	5.7	良好	織密	内)灰色 外)黑色	222	218	A	
737	縹	—	35.0	9.5	良好	砂粒含む	淡褐色	218	214	D	
738	縹	—	29.0	6.5	良好	砂粒含む	淡褐色	225	221	D	
739	縹	—	24.0	6.0	良好	砂粒含む	黄褐色	223	219	D	
740	縹	—	23.0	7.2	良好	密	淡褐色	217	213	D	
741	縹	—	—	6.0	—	密	灰色	219	215	D	
742	縹	—	26.4	14.3	良好	密	灰色	—	—	E	
743	縹	—	13.2	17.3	19.6	良好	密	淡褐色	276	—	E
744	縹	—	22.7	48.3	44.5	良好	密	栗色	—	—	E
745	縹	—	34.8	11.9	—	良好	密	底灰 外)青灰色輪付	44	44	D
746	縹	—	—	30.0	49.0	良好	密	灰色	—	—	E
747	縹	—	—	36.5	40.0	良好	密	从色 外)青灰色輪付	—	—	E
		—	—	32.8	59.5	—	—	112	111	B	

表19 長砂第3遺跡 出土遺物観察表(石製品類)

番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	材質	
748	打製石斧	14.2	7.4	2.3	270	黒曜石	
749	打製石斧	13.4	9.0	4.0	630	黒曜石	
750	打製石斧	10.0	2.9	3.0	135	黒曜石	
751	打製石斧	12.7	4.0	2.9	172	黒曜石	
752	打製石斧	12.1	6.6	4.6	620	黒曜石	
753	磨製石斧頭部	8.6	5.45	4.8	257	黒曜石	
754	磨製石斧頭部	8.0	5.6	4.9	230	黒曜石	
755	磨製石斧	13.8	4.3	4.9	410	黒曜石	
756	磨製石斧	8.5	6.5	4.7	370	黒曜石	
757	磨製石斧	4.8	5.7	—	90	黒曜石	
758	磨製石斧	6.9	6.5	3.6	209	黒曜石	
759	磨製石斧	8.0	6.8	3.4	289	黒曜石	
760	磨製石斧	8.4	6.0	3.6	287	黒曜石	
761	人頭形刀石斧	11.4	9.8	4.3	307.5	黒曜石	
762	打製石斧	5.2	6.3	2.2	72.5	黒曜石	
763	磨製石斧	5.3	5.1	2.0	76	黒曜石	
764	刮刀石斧	2.9	7.4	3.8	69	黒曜石	
765	刮削石斧	5.4	5.95	1.7	74	黒曜石	
766	磨製石斧	16.3	8.5	3.0	500	黒曜石	
767	石臼	16.6	5.9	3.8	560	黒曜石	
768	石製品	13.5	4.1	2.2	187	黒曜石	
769	磨製石斧	6.9	4.4	2.7	120	黒曜石	
770	刮刀石	12.8	5.0	4.8	410	黒曜石	
771	鉗石	19.5	7.3	6.55	960	黒曜石	
772	鉗石	14.5	5.0	4.4	250	黒曜石	
773	板状石製品	9.5	8.3	1.7	250	黒曜石	
774	鉗石	27.3	6.1	5.3	1160	黒曜石	
775	鉗石	5.0	1.8	1.6	25	黒曜石	
776	石臼	19.0	14.7	3.4	2520	黒曜石	
777	石頭?	27.4	16.3	11.4	2770	黒曜石	
778	石頭?	17.7	19.5	6.3	3010	黒曜石	
779	石頭?	12.1	10.4	5.5	910	黒曜石	
780	石臼?	9.9	7.4	5.7	360	黒曜石	
781	鉗石?	164.3	—	1.55	2.7	黒曜石	
番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	材質	
782	刃?	2.1	1.2	0.5	42	メルク	
783	刃?	2.6	0.8	0.65	2.6	小品	
784	斧?	1.75	(0.5)	—	0.6	石器	
785	斧?	1.08	(0.35)	—	0.3	鉛石	
786	斧?	0.9	(0.4)	—	0.2	鉛石	
787	斧?	0.85	0.55	—	0.2	ガラス	
788	なつめ?	0.85	(0.6)	—	0.3	サトウ	
789	臼?	(0.55)	0.2	0.1	2.7	セリ	
790	臼?	(0.5)	0.25	0.1	3.0	滑石	
791	臼?	(0.55)	0.3	0.1	—	滑石	
792	臼?	(0.55)	0.35	0.1	—	滑石	
793	臼?	(0.6)	0.25	0.05	—	滑石	
794	小玉	0.35	0.25	0.05	ガラス	ガラス	
795	小玉	0.4	0.25	0.1	ガラス	ガラス	
796	小玉	0.45	0.3	0.1	ガラス	ガラス	
797	臼?	(0.4)	0.35	0.1	ガラス	ガラス	
798	臼?	(0.4)	0.35	0.1	ガラス	ガラス	
799	臼?	(0.3)	0.3	0.1	ガラス	ガラス	
800	垂玉	5.1	3.0	1.0	13.9	ガラス	ガラス
番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	材質	
801	石頭	2.4	1.7	0.5	1.1	黒曜石	
802	石頭	2.6	2.0	0.4	1.4	黒曜石	
803	石頭	2.3	1.1	0.5	0.5	滑石	
804	石頭	2.6	2.0	0.4	1.5	黒曜石	
805	石頭	2.25	1.4	0.5	1.1	黒曜石	
806	石頭	2.7	1.7	0.4	1.3	黒曜石	
807	石頭	1.9	(1.6)	0.4	0.8	黒曜石	
808	石頭	1.6	1.5	0.3	0.6	黒曜石	
809	石頭	2.5	1.8	0.4	1.1	黒曜石	
810	石頭	1.9	1.4	0.4	0.6	黒曜石	
811	石頭	2.0	1.5	0.35	0.8	黒曜石	
番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	材質	
812	石頭	—	—	1.8	1.4	0.35	
813	石頭	—	—	1.75	1.5	0.3	
814	石頭	—	—	1.9	1.7	0.45	
815	石頭	—	—	1.65	1.5	0.2	
816	石頭	—	—	1.9	1.5	0.4	
817	石頭	—	—	2.1	1.6	0.3	
818	石頭	—	—	1.5	1.2	0.3	
819	石頭	—	—	1.8	1.6	0.3	
820	石頭	—	—	1.5	1.5	0.3	
821	石頭	—	—	1.25	0.95	0.3	
822	石頭	—	—	1.2	1.25	0.3	
823	石頭	—	—	1.4	1.3	0.4	
824	石頭	—	—	1.35	1.8	0.4	
825	石頭	—	—	1.75	1.7	0.35	
826	石頭	—	—	1.6	1.5	0.4	
827	石頭	—	—	3.2	2.4	0.5	
828	石頭	—	—	(2.4)	(1.2)	0.5	
829	石頭	—	—	2.05	1.55	0.35	
830	石頭	—	—	2.3	1.8	0.5	
831	石頭	—	—	1.8	1.3	0.5	
832	石頭	—	—	2.1	1.5	0.4	
833	石頭	—	—	2.0	1.45	0.35	
834	石頭	—	—	1.1	1.0	0.3	
835	石頭	—	—	1.2	1.3	0.25	
836	石頭	—	—	1.3	1.1	0.3	
837	石頭	—	—	1.4	1.2	0.3	
838	石頭	—	—	2.4	1.2	0.6	
839	石頭	—	—	1.6	1.1	0.3	
840	石頭	—	—	2.1	1.3	0.35	
841	石頭	—	—	2.4	2.0	0.35	
842	石頭	—	—	2.5	1.2	0.5	
843	石頭	—	—	1.1	0.8	0.15	
844	石頭(木底成)	—	—	2.4	2.8	0.6	
845	石頭	—	—	2.6	1.8	0.4	
846	石頭	—	—	1.9	1.4	0.4	
847	石頭	—	—	2.5	1.8	0.3	
848	石頭	—	—	2.6	2.0	0.4	
849	石頭	—	—	1.6	1.8	0.3	
850	石頭	—	—	1.9	1.5	0.3	
851	石頭	—	—	2.3	1.7	0.4	
852	石頭	—	—	2.4	2.1	0.4	
853	石頭	—	—	1.9	1.4	0.4	
854	石頭	—	—	1.9	1.4	0.35	
855	石頭	—	—	1.9	1.7	0.35	
856	石頭	—	—	2.6	1.6	0.4	
857	石頭	—	—	2.2	1.5	0.3	
858	石頭	—	—	2.4	1.9	0.4	
859	石頭	—	—	2.4	1.6	0.3	
860	石頭	—	—	1.8	1.2	0.3	
861	石頭	—	—	1.3	1.0	0.3	
862	石頭	—	—	1.3	1.0	0.2	
863	石頭	—	—	1.9	1.6	0.3	
864	石頭	—	—	2.7	1.6	0.4	
865	石頭	—	—	1.9	1.8	0.4	
866	石頭	—	—	2.2	1.7	0.3	
867	石頭	—	—	2.3	1.4	0.35	
868	石頭	—	—	2.3	1.5	0.4	
869	石頭	—	—	1.55	1.9	0.4	
870	石頭	—	—	1.6	1.6	0.4	
871	石頭	—	—	1.5	1.5	0.3	
872	石頭	—	—	2.3	1.5	0.3	
873	石頭	—	—	3.7	6.3	0.7	
874	石頭	—	—	5.0	5.4	1.1	
875	剥片	—	—	2.2	3.2	0.4	
876	剥片	—	—	2.2	2.9	0.55	
877	キリ	—	—	2.3	1.8	0.75	
878	キリ	—	—	4.0	1.2	0.9	
879	キリ	—	—	4.4	1.2	1.2	

長砂第3遺跡出土須恵器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻利一

1)はじめに

粘土が岩石が風化して生成したものである。その理論化学式は $\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot m\text{SiO}_2 \cdot n\text{H}_2\text{O}$ で与えられるものの、粘土と岩石（例えば、花崗岩類）の蛍光X線スペクトルや、X線スペクトルを比較すると、両者は類似していることがわかる。このことから、含有量の相異はあっても、両者の構成元素は同じであると考えられる。所謂、 SiO_2 、 Al_2O_3 をマトリックスとする多成分系の試料ということになる。

この粘土が素材となって土器が作られる訳であるが、粘土そのものが何處にでもあるありふれたものであるから、土器もあちこちで作られていたと推察される。高度の技法で製作された須恵器といえども、その生産地である窯跡は各地で見つけられている。これらの窯跡から出土した須恵器を元素分析によって特徴付けようとする、大量の試料の分析が必要となる。

大量的土器試料を分析処理しようすると、1試料について多数の元素の分析データを集積していくよりも、有効に地域差を示す小数の元素を使って産地問題の研究を進める方が得策である。筆者はK、Ca、Rb、Srの4元素を使って、全国各地の窯跡出土須恵器の化学特性を整理してきた。その結果、定性的にはK-Ca、Rb-Srの両分布図を使い、消費地遺跡出土須恵器を窯跡出土須恵器に対応させることによって、おおよそその産地を推定することはできる。定量的に産地を推定しようとすると、クラスター分析や2群間判別分析法などの統計学的手法を導入することが必要である。現在、須恵器の産地推定法の骨格は出来上っているが、細部についてはまだ検討の余地がある。

本報告では、長砂第3遺跡から出土した須恵器の蛍光X線分析の結果について報告する。

2)分析結果

今回分析した全試料の分析データは表1にまとめられている。全分析値は同時に測定した岩石標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化した値で示されている。

筆者は現在、波長分散型の装置を使用しているが、この装置には6列8行、都合、48個の試料が同時に搭載できる自動試料交換機が連結されている。その中の1個はJG-1である。そのため、JG-1による標準化法はきわめて簡便な分析値の表示法となっている。

今回分析した試料の両分布図を図1に示す。大きくばらついて分布しており、いくつもの産地の製品が混ざっていることを示している。この乱雑さを整理するため、クラスター分析を探用した。試料数が多いため、全試料のクラスター分析を行うのは大変なので、No.1からNo.135までの試料を選択し、K、Ca、Rb、Srの4因子を使ってクラスター分析を行った。デンドログラムを図2に示す。デンドログラムのどの枝で区切って分類するかについては任意性があるが、一応、No.78-82をA群、No.30-100をC群、No.75-34をB群とした。B群に分類される須恵器がもっとも多く、主成分の須恵器ということになる。No.21-93は分類できない試料とした。

この分類結果は一応、両分布図上にプロットし、その特性を確かめておく方がよい。

まず、主成分の須恵器であるB群の両分布図を図3に示す。よくまとまって分布しており、同じ窯で製作された須恵器であることを示している。これらを包含するようにしてB群領域を描いてある。この領域に対応する窯はまだ、特定されている訳ではないが、松江市を中心とした地域に広がる大井窯群の製品の分布領域に近く、地元、出雲地域産の須恵器と推定される。

A群の須恵器はCa、Sr量が少ないのが特徴である。この化学特性をもつ須恵器は出雲地域では製作されていない。ただし、日御窯の製品は例外である。日御窯は6世紀代の古い須恵器窯であるが、その製品にはCa、Sr量のみならず、K、Rb量も少ないという化学特性をもつ。No.93は日御窯の製品である可能性をもつ。

A群の須恵器は出雲地方では古墳時代の遺跡から出土するが、平安時代になると姿を消す。筆者はA群の須恵器を陶邑からの輸入品の可能性があると考えている。図4にはA群の須恵器の両分布図を示してある。対比上、陶邑領域も示しておいた。両分布図では陶邑領域の左下部分に集中して分布する。陶邑の製品であるとすれば、陶邑内のいくつもの窯での製品ではなく、特定の窯の製品ということになるが、目下のところ、特定されている訳ではない。

図5にはC群の須恵器の両分布図を示してある。Ca、Sr量がともにB群の須恵器よりも多く、B群領域の

右側に分布する。C群に対応する窓跡もまだ、特定されていないが、地元産の製品である可能性は高いと筆者は考えている。

図6には未分類として処理した須恵器の両分布図を示してある。大部分のものはまとめて分布するので、これらは特定の窓で製作された可能性もあるが、No.88とNo.93は明らかに1点、孤立して分布しており、未分類の試料となる。このうち、No.93は前述したように、日脚窓の製品である可能性をもつが、No.88については产地は全く不明である。

表1の残りの試料についても、図3～図6の両分布図に対応させて、A、B、C群と未分類試料の4群に分類した。その結果も表1に示してある。やはり、主成分の須恵器はB群であることがわかる。A、C群に帰属する試料もある。

このように、長砂第3遺跡の古墳時代の須恵器は少なくとも、3群に分類でき、3ヶ所からの供給品が混ざっていることがわかった。このうち、過半数を占めるB群と少数派のC群も出雲地域の製品とみられる。出雲地方では古式須恵器に対応する古墳時代にすでに、地元産の製品が過半数を占めている点が注目される。

他方、A群に見られるように、陶邑からの搬入品とみられる須恵器も少数派ながら、数としては相当数検出された点も注目されよう。しかし、このタイプの胎土をもつ須恵器は古墳時代後期にはごく小数になり、平安時代に入ると、全く姿を消す点もまた、興味深い。

図1 全試料の両分布図

***** HIERARCHICAL CLUSTER ANALYSIS *****

Dendrogram using Average Linkage (Unesco Groups)

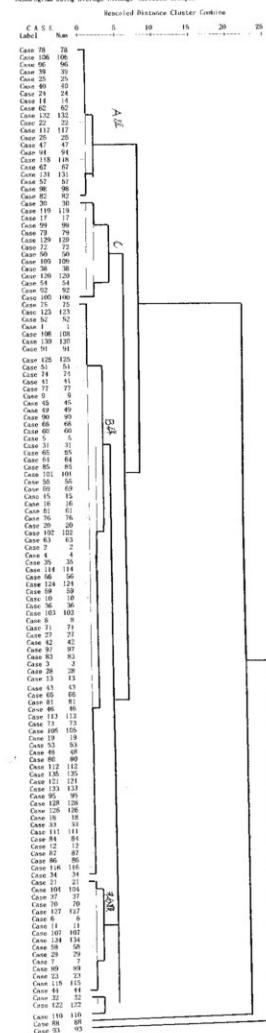


図2 デンドログラム

図3 B群の須悪器の両分布図

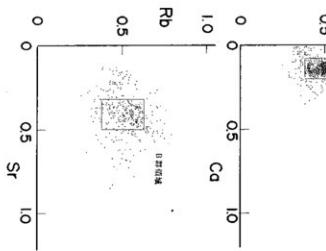


図4 A群の須悪器の両分布図

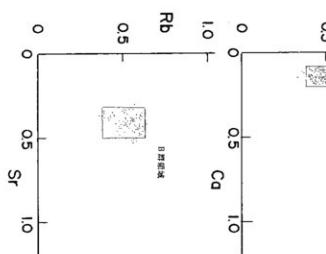


図5 C群の須悪器の両分布図

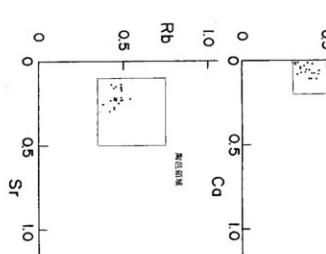
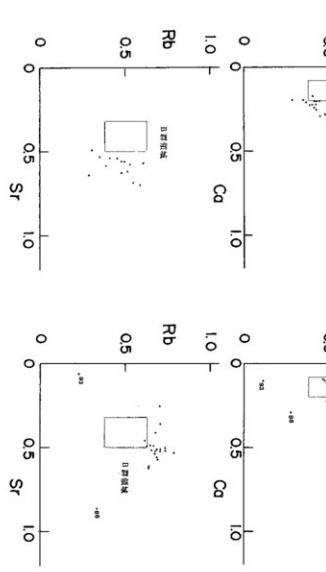


図6 未分類の須悪器の両分布図





調査前風景



SD-01・02 (西側より)



SD-03 (北側より)



SD-07 (南側より)



土壤 (SK-04~10)



SD-05

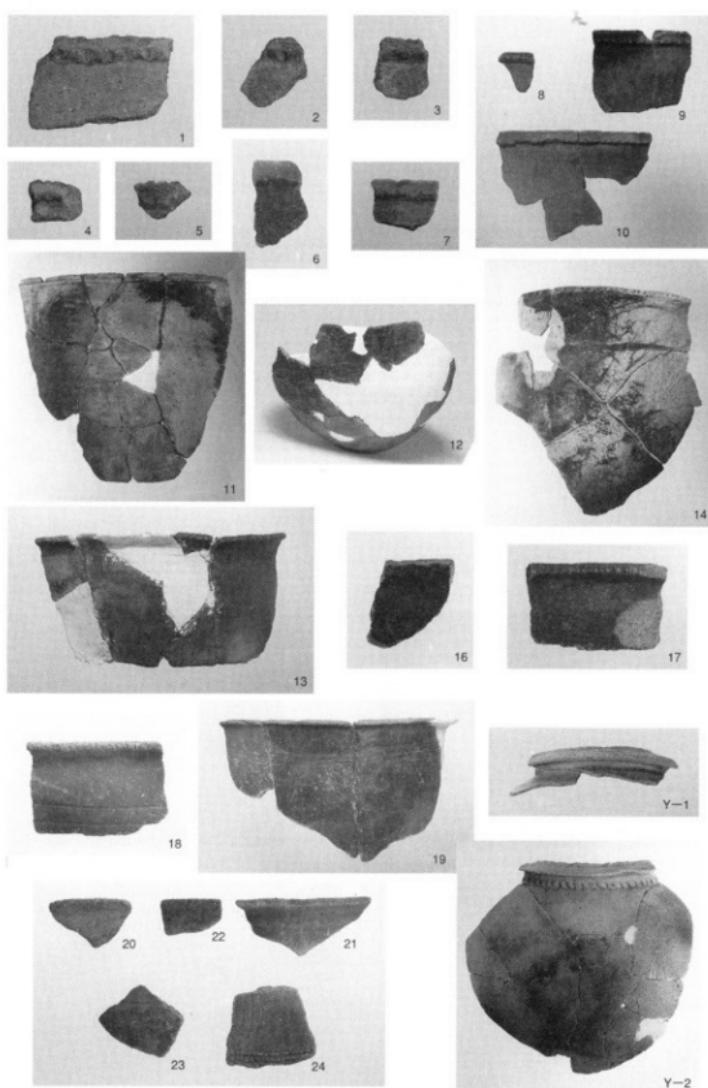


SD-08.



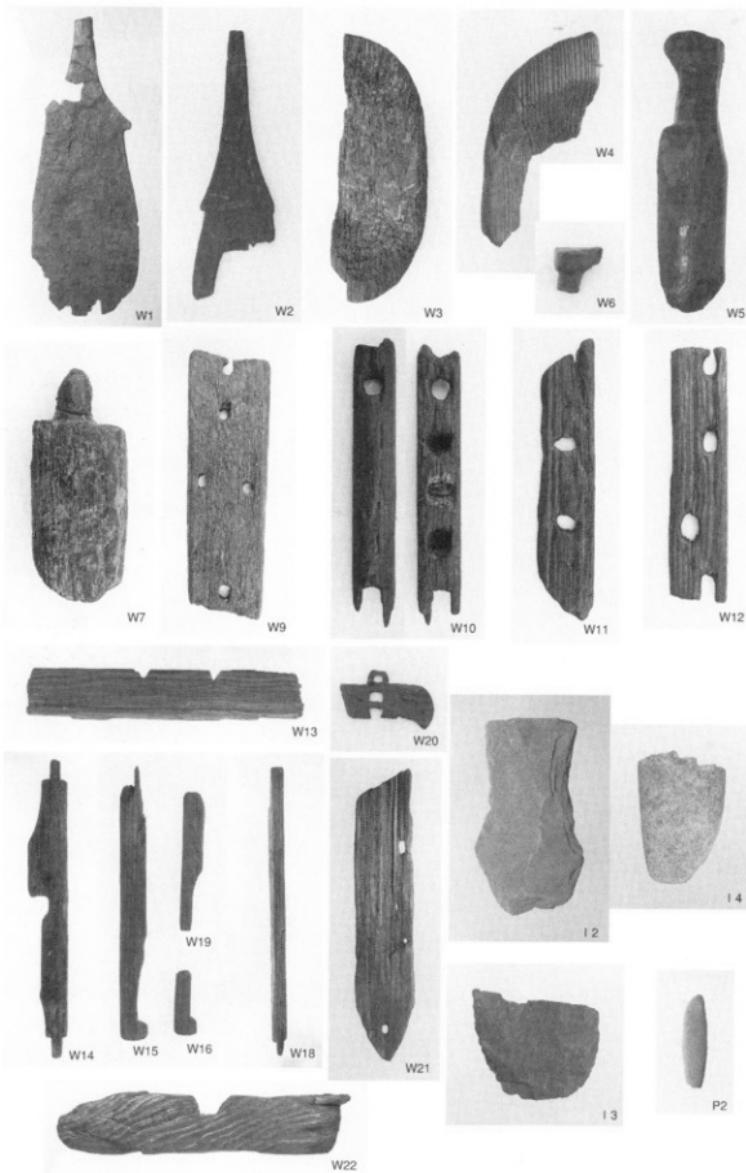
土器出土状況

圖版2
(長砂第4遺跡)





図版4 (長砂第4遺跡)





調査前風景



調査後風景



96年度調査後



調査後風景

図版6（長砂第3遺跡）



SI-01



SI-02



SI-03



作業風景



SI-04



SI-04



SI-05



調査風景



SI-06・07



SI-06・07



SI-08



遺物出土状況

図版 8 (長砂第3遺跡)



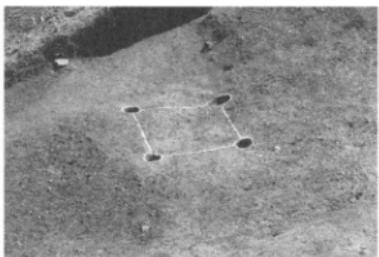
SX-01 條出状況



SX-01



SX-01



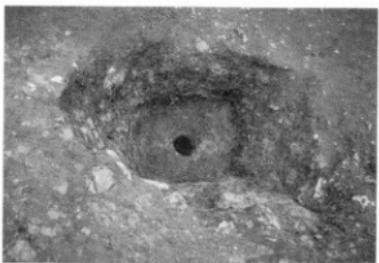
SX-01



SB-03



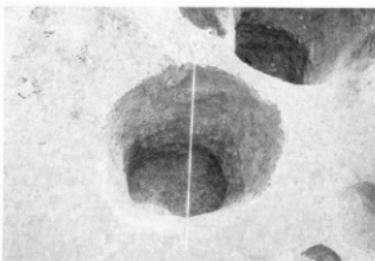
SB-04



SK-01



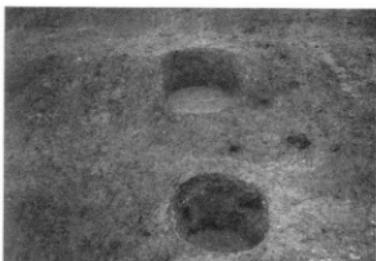
SK-02



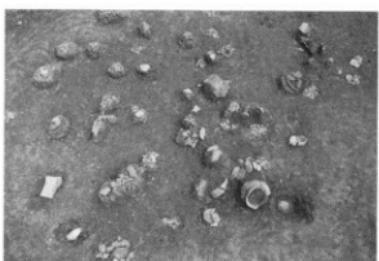
SK-03



SK-04

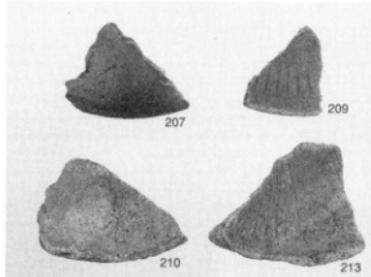
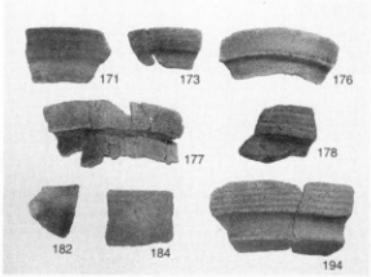
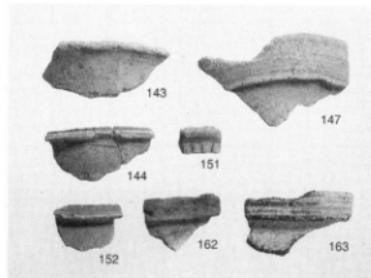
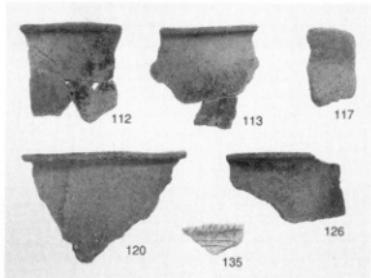
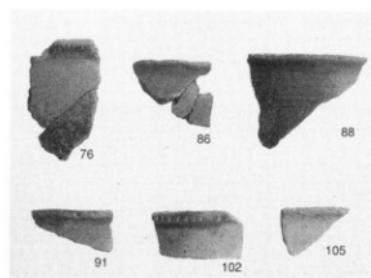
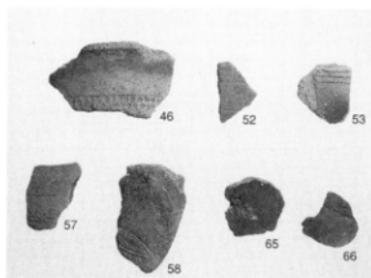
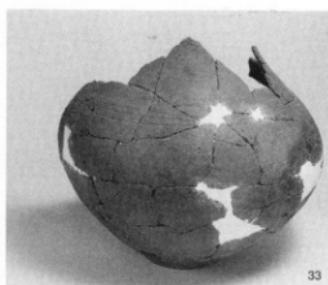
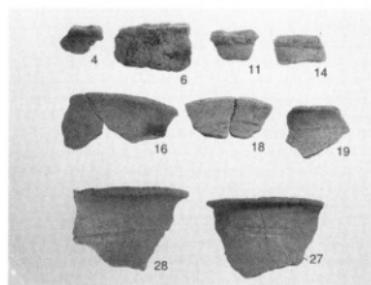


SK-05



遺物出土狀況

図版 10
(長砂第3遺跡)





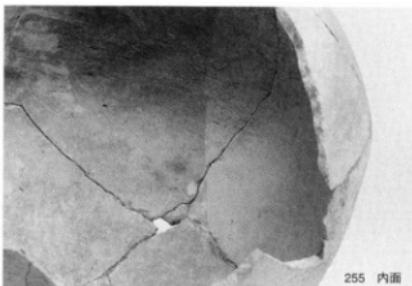
256



256



255

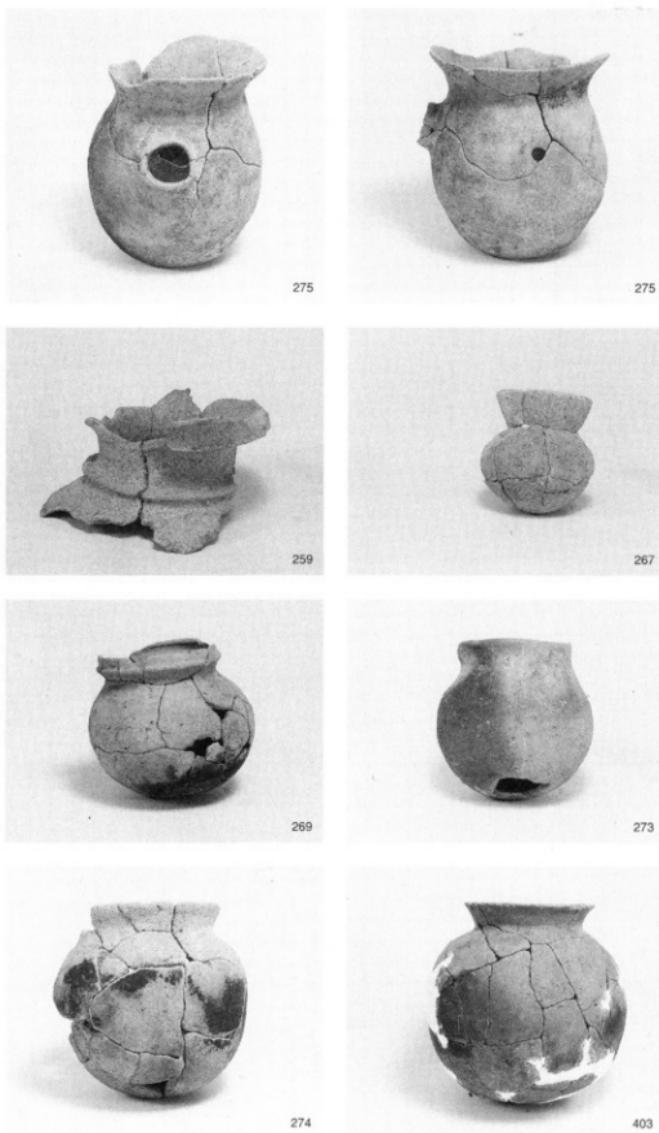


255 内面

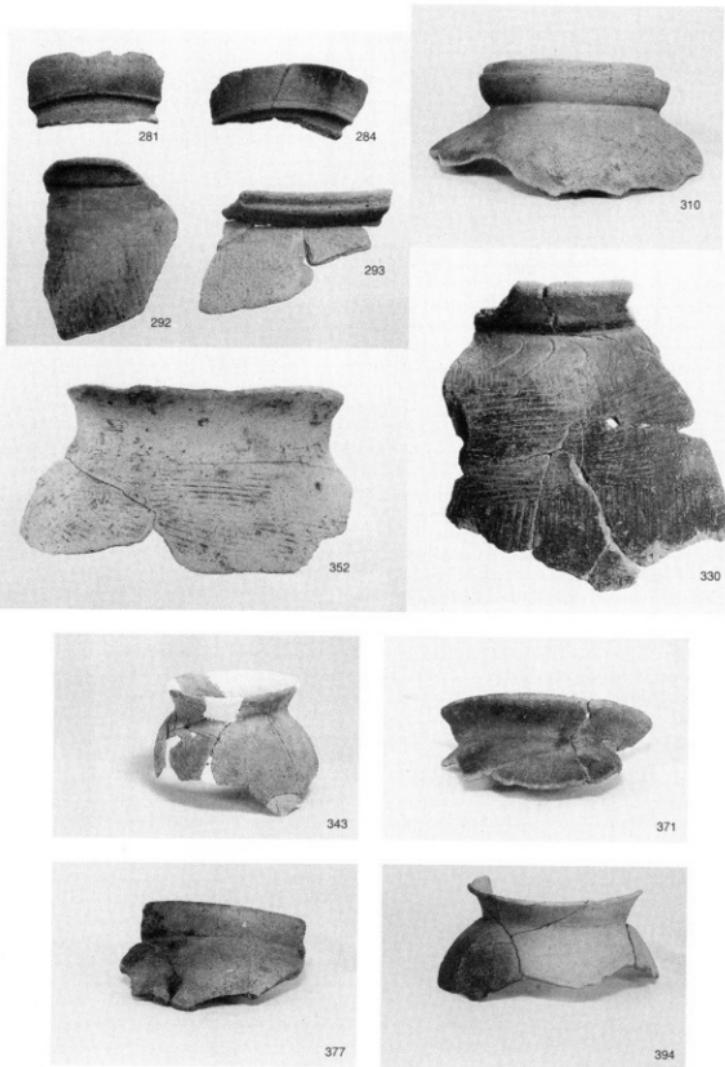


255 底部拡大

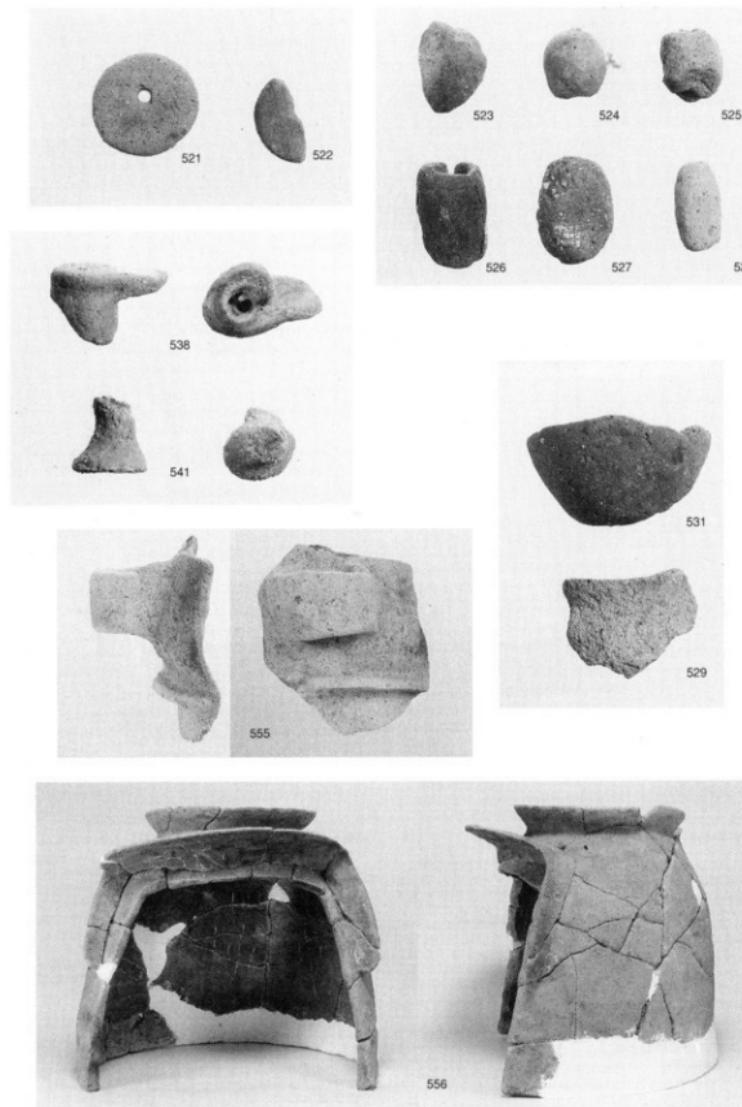
圖版 12
(長砂第3遺跡)



図版 13
(長砂第3遺跡)



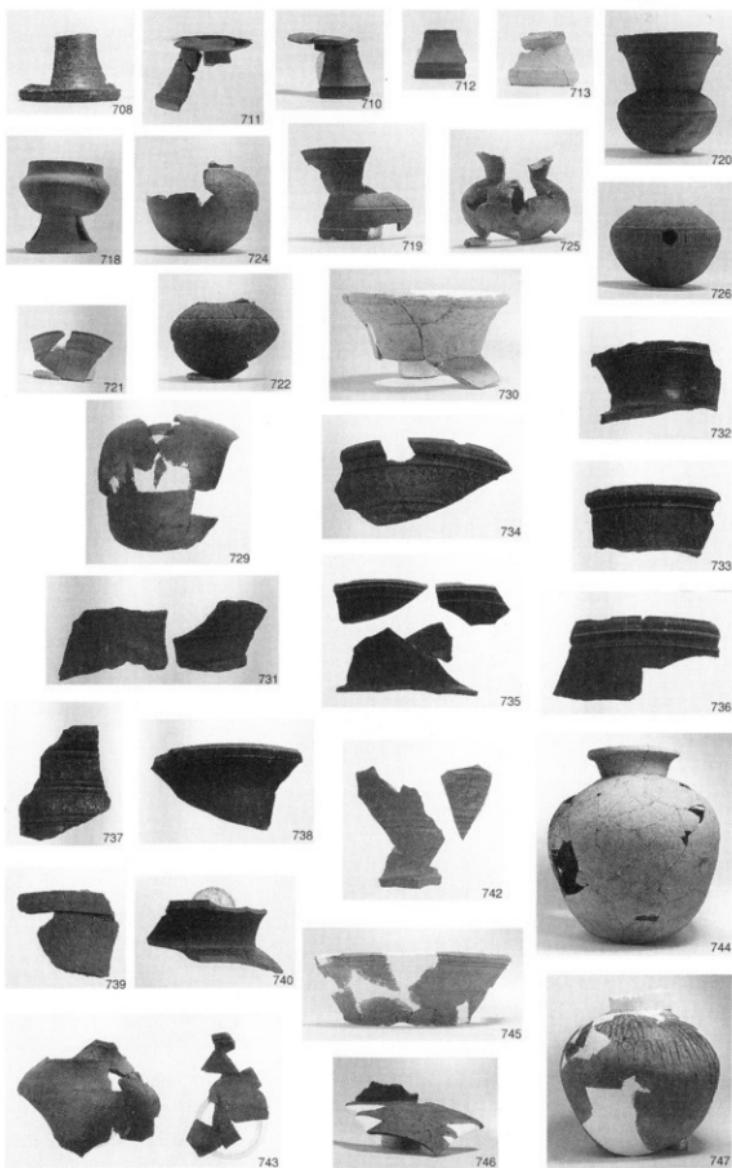
図版 14
(長砂第3遺跡)



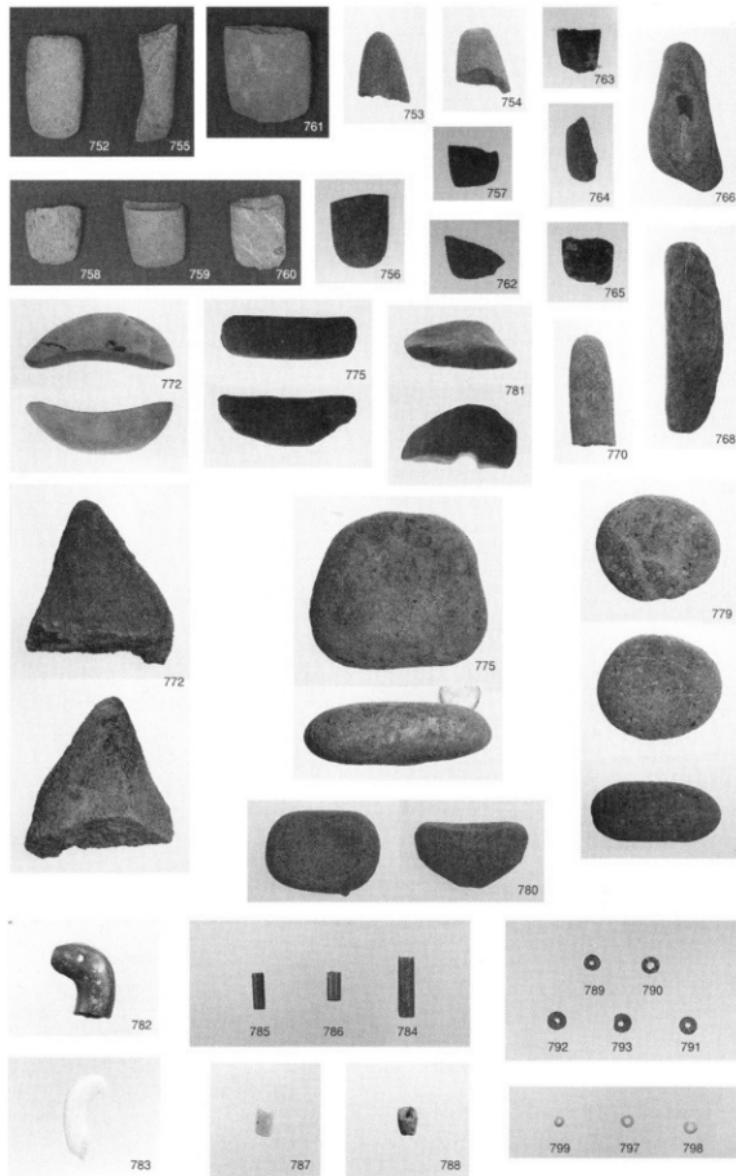


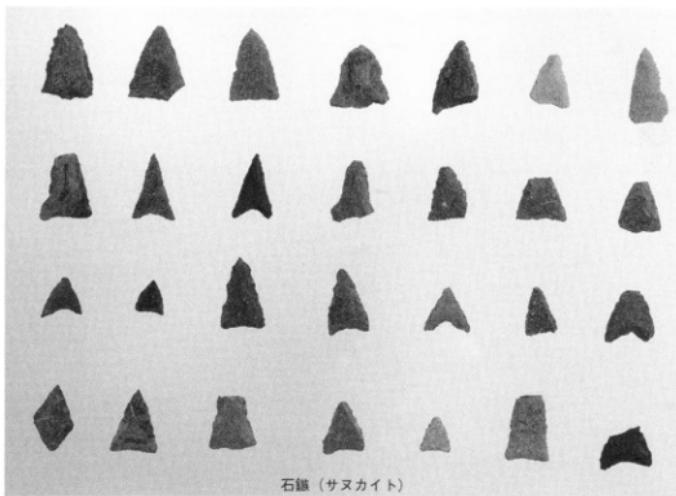
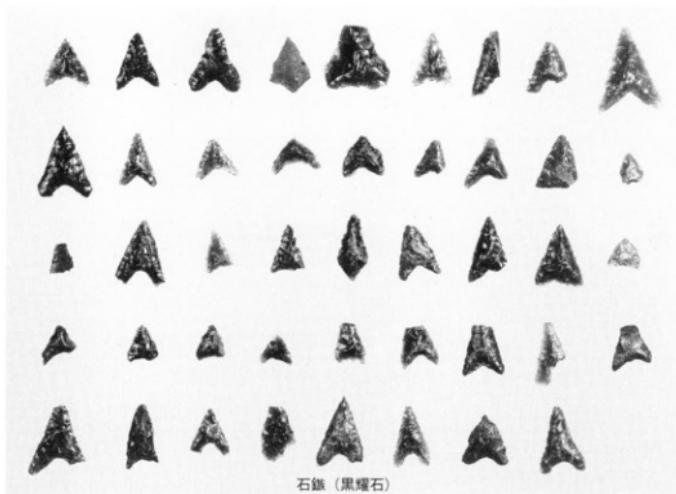
図版 16
(長砂第3遺跡)





図版 18
(長砂第3遺跡)





800



873



874



878



879

報告書抄録

ふりがな	ながすなだい 3・4 いせき							
書名	長砂第3・4遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	(財)米子市教育文化事業団 文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	26							
編著者名	平木裕子 佐伯純也							
編集機関	(財)米子市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室							
所在地	〒683-0822鳥取県米子市中町20 TEL 0859-22-7209							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村 番号	遺跡番号					
長砂第4遺跡	米子市長砂町 51番地他	31202		35° 25' 23"	133° 21' 19"	19951108 19960331	1,600m ²	道路建設
長砂第3遺跡	米子市長砂町 43番地他	31202		35° 25' 23"	133° 21' 20"	19970305 19971010	4,600m ²	道路建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長砂第4遺跡	遺物包含	縄文時代 古墳時代	水路跡	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・木製品				
長砂第3遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代	竪穴住居址 掘立柱建物跡	弥生土器・土師器 須恵器・石斧・石鏃				

(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書 26

長砂第3・4遺跡

1998年3月

編集・発行 財團法人 米子市教育文化事業団

〒683-0822 烏取県米子市中町20

印 刷 (有)米子プリント社